

令和7年度

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(ネットワーク略称 SPOD=Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education)

活動報告書

令和8年3月



目 次

1	会長挨拶	1
2	SPOD事業の概要	3
3	令和7年度事業計画	6
4	令和7年度全体総括	9
5	令和7年度活動実績	
(1)	共通事業	14
(2)	FD事業	36
(3)	SD事業	41
(4)	SPOD運営	46
6	令和7年度各加盟校の取組報告	47
7	令和6年度事業評価委員会からの事業評価とその対応	77
8	令和8年度事業計画	84

参考資料

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約	88
「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿	92

※アンケート集計結果等については資料編（SPODホームページ掲載）を御覧ください。

SPODホームページURL：<https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

1. 会長挨拶

会長挨拶

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)は、文部科学省「戦略的
大学連携支援事業」の採択を機に平成20年10月に設立されました。平成23年度から
は、四国内の大学、短期大学、高等専門学校が分担金を出し合い、共同で事業運営を行う
自主運営体制に切り替わり、現在、36校が加盟する連携組織となっています。本年度
(令和7年度)は、設立から17年目を迎え、SPODの取組は、四国地区の高等教育機
関のみならず全国の高等教育機関にも広まり、多くの教職員に活用いただく事業となっ
ています。これもひとえに皆様のご理解とご支援によるものと、心より感謝申し上げます。

さて、本年度は、対面を中心としつつ、オンラインやハイブリッド形式を効果的に組み
合わせ、多様なニーズに対応した研修の提供を進めた一年となりました。SPOD最大の
イベントである「SPODフォーラム2025」は、8年ぶりに徳島大学を会場として3
日間の日程で開催し、「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」をテーマに、
40のプログラムを実施しました。参加者企画枠の新設や一部プログラムでのハイブリッ
ド開催など新たな試みも取り入れ、全国から多くの教職員にご参加いただきました。

我が国は、人口減少と国際的産業競争力の低下という大きな課題に向き合っています。
これら社会全体の課題に関連して、高等教育についても、令和7年2月には文部科学省中
央教育審議会から、いわゆる「『知の総和』答申」が発出され、より高度な知を有する人
材の育成が求められています。また、人生100年時代となり、一生学び続けるために、
社会人の学生(学士～博士課程)も増えていきます。18歳人口の減少により、大学に
は、学生定員の削減や学部・研究科の再編も求められています。さらに、マイクロクレ
デンシャルも普及しつつあります。教員でも職員でもない「第3の職種」として、UAやU
RAが増えています。そして、AIの発展によって、求められる業務が大幅にかつ急速に
変わる可能性もあります。高校教育の改革にも大学が係わることも期待されています。

このような状況の中、FD・SD活動を中心とするSPODの内容が、従来のまま、ま
たは、従来の発展のみを目指しているだけで、有効な取組であり続けられるかについ
ては、かなりの懸念を感じます。社会がどのように変わるのかを敏感に予測し、どのよう
な「内容」のプログラムが求められるようになるのかを時々刻々議論し、「新たなSPOD
活動」を模索していくべき時になっていると考えます。従来の枠にとらわれず、発想の転
換と新たな努力によって、時代に沿った新たなSPODへの転換を検討して欲しい
と考えます。

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク会長

愛媛大学長 仁科弘重

2. SPOD事業の概要

SPODの将来構想(令和4年度～9年度)

【全体方針】

1. FD・SDの地域ネットワークのリーダーとしてのプレゼンスを維持する
 - ・プログラムの見直し及び新規開発に取り組むことで、FD・SDを一層発展させる
 - ・活動の内容と成果を広く発信していく
2. SPODフォーラムを国内最高のFD・SDの機会にする
 - ・優れたFD・SDプログラムをフォーラムで提供する
 - ・ポスターセッションによって発信や交流の場を提供する
3. 対面研修では対面の特徴を活かした学習や交流の機会を提供する
 - ・対面ならではの参加型の学習を取り入れる
 - ・参加者間のネットワークづくりを促進する
4. 希望する時間と場所で学習できるオンデマンド研修の機会を増加する
 - ・ニーズに合ったオンデマンドの教材を開発し提供する
 - ・オンデマンドの教材を活用してハイブリッド型の研修を増加する
5. 持続可能なSPODの組織体制を構築する
 - ・会議等の遠隔開催、書面開催を積極的に行う
 - ・刊行物は書類を減らし、ウェブサイトなどの情報提供を充実させる
 - ・事業予算の柔軟な運用などによって安定的な財政基盤を維持する

【FDの方針】

1. FD・SDの地域ネットワークのリーダーとしてのプレゼンスを維持する
 - ・プログラムの見直し及び新規開発に取り組むことで、FD・SDを一層発展させる
 - ・活動の内容と成果を広く発信していく
2. オンラインによるFDプログラムの共同開発
 - ・大学を超えた新たな取組として、SPODコア校のFD担当者が共同でオンラインによるFDプログラムを開発、実施し、SPOD加盟校に提供する

3. 大学院生を対象としたプレFD開発

- ・大学院設置基準の改正に伴う取組として、共同でプログラムを開発し、共有する
- ・大学院生のニーズを把握し、プログラム開発に活かす

4. 分野別FDプログラム開発・FD担当者養成

- ・加盟校の文脈や専門分野に即した具体的で実効的なプログラムとするため、SPOD加盟校における分野別FDプログラムをコア校以外の加盟校の担当者も含めて共同で開発する
- ・学部や小規模大学においてFDを推進する担当者の育成、支援を行う

5. TA・SAを活用した教育の質向上

- ・TA・SAを適切に活用し、授業の可能性を広げ、学生の学習効果を高めるためのFDプログラム開発及びTA・SAの育成を行う

【SDの方針】

1. オンラインによるSDプログラムの共同開発

- ・オンデマンド動画コンテンツを開発する
- ・既存のSDプログラムの一部または全部のオンライン化を検討および導入する

2. SDプログラムの体系再構築

- ・SPOD加盟校のニーズ調査に基づく新規プログラムを開発する
- ・既存のSDプログラムの内容の点検・評価および再構築を行う

3. SDプログラム修了者のフォローアップ体制の充実

- ・次世代リーダー養成ゼミナール修了生やSPOD-SDC取得者への研修や勉強会を実施する

4. 加盟校間のSDコミュニティ構築

- ・日常的な意見交換、定期的な勉強会（経営学や心理学など業務に活用可能な知識習得）の場を構築する

5. SDの内製化の推進と支援

- ・研修設計と評価に関するSDを充実させる
- ・SDの年間計画に関するコンサルティングを実施する

3. 令和7年度事業計画

令和7年度SPOD事業計画

1. SPOD共通事業

- ・ SPODフォーラム
令和7年8月27日（水）～8月29日（金） 開催場所：徳島大学
「全体テーマ：学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」
トップリーダーセミナーを併せて開催
- ・ 大学教育カンファレンス in 徳島
令和7年12月26日（金） 開催場所：徳島大学
- ・ SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計27回） 開催場所：各加盟校
原則として、1法人あたり1回とする。
ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。
- ・ FD・SDに関する調査研究
- ・ 情報提供サービス
 - ① 研修プログラムガイド2025の発行（年1回、ホームページ掲載）
 - ② 令和7年度SPOD活動報告書の発行（年1回、ホームページ掲載）
 - ③ SPODホームページの管理・更新
 - ④ SPODメールマガジンの発行
- ・ その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

- ・ FD担当者研修（分野別・指導補助者養成） 開催場所：徳島大学
SPODフォーラム2025において開催
- ・ 新任教員研修の実施・公開 開催場所：各コア校
- ・ ティーチングポートフォリオ作成ワークショップの実施・公開
開催場所：徳島大学、愛媛大学
- ・ 各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2025に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）

開催場所：

新任職員 1回 対面 5月14日～16日 開催場所：愛媛県内

レベルⅠ 1回 対面 10月30日～31日 開催場所：愛媛大学

レベルⅡ 2回 対面 6月19日～20日 開催場所：香川大学

11月20日～21日 開催場所：愛媛大学

レベルⅢ 1回 対面 10月2日～3日 開催場所：愛媛大学

主担当：SPOD事務局 協力校：香川大学

- ・職務別能力開発研修、SD担当者研修 開催場所：徳島大学

SPODフォーラム2025において開催

- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年5回）

※うち1回は「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）」をもって充てる

開催場所：徳島県、高知県、愛媛県

主担当：SPOD事務局 協力校：各コア校

- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2025に掲載したプログラム

4. SPOD運営

①総会（年1回）

②ネットワークコア運営協議会（年6回程度）

※うち1回は愛媛大学での対面開催を予定（第4回目/10月）

③監査（年1回）

④その他

i) FD/SD分科会

・FD分科会（年1回）

・SD分科会（年1回）

ii) SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

iii) スポンサーの獲得

4. 令和7年度全体総括

(1) SPOD共通事業

①SPODフォーラム2025

令和7年8月27日～29日の3日間、「SPODフォーラム2025」を徳島大学で開催した。SPODフォーラムは、毎年実施しているSPODの最大イベントであり、教職員の能力開発のための実践的なプログラムを数多く提供している。今年度は全40プログラムを提供し、加盟校外から、477名（延べ1,567名）の参加があった。事後全体アンケートでは、全体の満足度が約98.2%になるなど、受講者からは満足の声を多く聞くことができた。SPODフォーラムでは初めての試みとして、①参加者企画枠設置、②一部プログラムのハイブリッド形式での実施、③テーマに関連するプログラムの体系的な配置「学生理解・学生支援ゾーン」を実施し、参加者から好評を得た。

プログラムは、講義形式のもの、ワークを多く取り入れたものなど多岐にわたり、シンポジウムやポスターセッションも実施した。当日の運営は、主催校である徳島大学と徳島県内加盟校、次年度開催校の愛媛大学が協力して行った。

②第21回大学教育カンファレンスin徳島

令和7年12月26日（金）に、「第21回大学教育カンファレンスin徳島」を徳島大学で対面（一部オンライン）開催した。SPOD加盟校や他の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取組を共有し発展させる機会となるよう、口頭及びポスターによる研究発表、ワークショップ、特別講演など様々なプログラムを提供した。今年度は、138名（対面99名、オンライン39名）の参加があり、オンライン配信のプログラムを実施したことで、徳島大学以外の機関からも多数の参加があった。全体の満足度も100%と好評であり、参加者のニーズや関心に合った研究発表の内容や特別講演のテーマを提供できた。

③SPOD内講師派遣

各加盟校が希望するプログラムについて、SPODから担当講師を年1回派遣するSPOD内講師派遣として、今年度も全加盟校（27機関）に派遣し、受講者は1,253名となった。本事業により、FD・SD担当専任教員等の配置が困難な小規模校においても、自校での研修開講が可能となっている。各組織等に与える影響も大きく、ほとんどの加盟校が継続を希望している。

④情報提供

SPODプログラムガイド、SPOD活動報告書についてホームページで公開しているほか、研修イベントやSPODに関する各種情報を配信するSPODメールマガジンを運営している。また、愛媛大学FD・SDチャンネルのYouTube、XなどにもSPODのイベント情報等を掲載し、SNSでの広報にも取り組んだ。さらにFD専門部会調査研究プロジェクトの一環として、各コア校が作成したFD・SDオンラインコンテンツを取りまとめ、検索・アクセスできるサイトをSPODホームペー

ジに公開した。本サイトで公開する各コンテンツは、教員個人の課題意識に合わせた授業改善のための学習の機会となるとともに、様々なコンテンツを組み合わせて、各大学のニーズに応じたFD・SDプログラムの開発に資するものである。

(2) FD事業

①各種研修の実施

SPODフォーラム2025において3つの「FD担当者研修」を実施したほか、新任教員研修やティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップなど、各種研修を実施した。新任教員研修については、各ネットワークコア校（以下、コア校という）が主催するどの研修を受講しても同様の効果が得られるよう、コア校間でプログラムを標準化している。今年度はコア校すべてで対面開催し、加盟校7校から65名の参加があった。

②FDに関する調査研究

FD専門部会において、SPOD将来構想のFDの方針達成に向けた取組を行っている。今年度は、FDの5つのプロジェクトチームに分かれて調査研究を行った。研究成果については、SPODフォーラム2025のポスターセッションにおいて発表を行ったり、分野別FDプログラムを開発し、SPODフォーラム2025で実施したりした。次年度以降も、現在準備を進めているプロジェクトの実現に向けて、各チームでのミーティングや調査研究に取り組んでいく。

(3) SD事業

①各種研修の実施

「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」を各階層で開催し、加盟校17校から253名の参加があった。

「次世代リーダー養成ゼミナール」は、令和5年度から実施期間を2年から1年に変更したプログラムで開催しており、加盟校5校から6人が受講した。オンデマンド学習も取り入れることで、これまでと同程度の学習を提供しつつ、短期間で将来のリーダーを担う人材の育成が可能となっている。

②SDに関する調査研究

SD専門部会においては、SPOD将来構想のSDの方針に基づく取組を行っている。今年度は、職員のキャリア段階に応じた能力育成の基準となる「SPOD-SD能力育成ルーブリック」を作成し、これをもとに新たな研修体系およびレベル別研修プログラムの見直しを行った。研究成果については、SPODフォーラム2025のポスターセッションにおいて発表を行ったり、大学職員の仕事に関心がある学生向けイベント「プレSD大学職員のリアル」を実施したりした。次年度も加盟校への聞き取り調査やSD設計に関するワークショップを実施し、将来構想実現に向けた活動に精力的に取り組んでいく。

(4) SPOD運営

①ネットワークコア運営協議会

コア校のFD・SD担当者等が事業の実施、運営等の諸課題について教職協働で協議することを目的に開催している。今年度は対面開催1回を含む、計6回開催した。

また、コア校のFD・SD担当者それぞれで構成する専門部会も併せて開催し(FD専門部会：計6回、SD専門部会：計6回)、各事業の進捗状況や成果及び今後の課題について意見交換を行った。

②その他会議等

8月に事業評価委員会、1月にFD／SD分科会、3月に会計監査をそれぞれオンラインで実施した。また、3月には事業評価委員から書面で今年度の事業実施状況について意見をいただいた。加盟校や事業評価委員からいただいた指摘や意見については、ネットワーク運営協議会で対応策を検討し、SPOD事業の改善に繋げていく。

5. 令和7年度活動実績

(1) SPOD共通事業

① SPODフォーラム2025

- 日 時：令和7年8月27日（水）～29日（金）
開催方法：対面（徳島大学常三島キャンパス）
主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）／徳島大学
全体テーマ：「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」
参加費：SPOD加盟校の教職員 無料
SPOD加盟校以外の教職員 10,000円
参加者数：477名（延べ1,567名）

SPODフォーラムとは

大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いFD・SDプログラムならびに組織を越えた持続的な相互交流・関係づくりの場

特徴

1. 多彩な講師陣
2. 職場で使える実践型プログラム
3. SDプログラムも多数開講

実施内容及び成果

あらゆる立場の教職員が、その場でスキルアップにつながるような実践的なプログラムを提供することを目的として、8月27日～29日の3日間、徳島大学常三島キャンパスで「SPODフォーラム2025」を開催した。今年度は、40プログラムの開講に加え、ポスターセッションを実施した。また、SPODフォーラムでは初めての試みとして、①参加者企画枠設置、②一部プログラムのハイブリッド形式での実施、③テーマに関連するプログラムの体系的な配置「学生理解・学生支援ゾーン」を実施した。本フォーラムでは、全体テーマに「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」を掲げ、近年高い関心が寄せられている学生理解・学生支援のほか、日常的な授業や業務の改善に関するものなど、過去のアンケートや時代のニーズ等を反映した多彩なプログラムとなり、参加者それぞれの立場ごとに、自身が何を身につければよいのかを考える契機とした。

シンポジウムでは、「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」をテーマに、森朋子氏（桐蔭横浜大学）、島田くみこ氏（高知工科大学）、井ノ崎敦子氏（徳島大学）の3名のシンポジストによる講演の後、佐藤浩章氏（東京大学）を指定討論者に交え、ディスカッションや質疑応答が行われた。参加者からは、「学生支援について、大局的な視点と現場的な肌感覚について触れることができた」「学生がどのような支援を必要としているのか学内の状況について把握し、必要な政策の検討を行いたい」等のコメントがあった。



大学等の経営管理を担うために必要な情報を収集し、トップリーダーとしての能力を高めることを目的とした「トップリーダーセミナー」は、2名の講師によって2コマ開講された。「現代の社会課題と大学の役割」では、大学における日々の業務の意味や、今後の可能性を改めて考える機会となった。受講者からは、「現代社会の抱える課題、地方大学が抱える課題のひとつひとつを再確認することができた」「地方の社会問題を前向きに考えるきっかけになった」等のコメントがあった。2コマ目の「学び続ける事務組織と実践する職員の育て方」では、職場を取り巻く様々な課題を緩和することと、学び実践する職員をどのように育成するか、という2つの難題を職場単位の取り組み中心に考える研修となった。受講者からは、「部下の育て方について、具体的でとてもわかりやすい講義で、自身の業務にいかせる内容であった」「管理職がどのようにあるべきか、役割とその役割を果たすために何が必要かを端的にわかりやすく学べた」等のコメントがあった。



1日目の夜には、ポスターセッションを開催した。ポスターセッションでは、加盟校内外から23組（うち発表代表者の所属が加盟校14組、加盟校外9組）の取組発表があり、発表者と参加者の間で活発な議論が行われた。

本フォーラムには全国各地から、477名（延べ1,567名）の参加があり、約36%が加盟校外（四国外）からの参加であった。フォーラム終了4週間後からWeb回答形式で実施した事後全体アンケートでは、回答者の約98.2%から「満足」の評価を得るとともに、所属組織を越えた人脈の形成について、約79%から肯定的な回答を得ることができた。

次回の「SPODフォーラム2027」は、愛媛大学を主催校とし、愛媛大学城北キャンパスでの開催が予定されている。

SPODフォーラム2025の受講者数について (プログラム別)

日時	番号	プログラム名	講師	受講者数	内訳			SPOD内	SPOD外
					教員	職員	その他		
8月27日 (水) 1時限	2701B	参加者企画枠 組織外コミュニティが促す大学職員のキャリアと能力開発への影響	山田 尚彦	24	2	22	0	6	18
	2701C	参加者企画枠 教学マネジメント・内部質保証に寄与する学生参画の実践とは	荒木 俊博	37	7	30	0	5	32
	2701D	参加者企画枠 分野横断・分野融合の学びの価値とカリキュラム設計を考えよう!	林 透	24	13	11	0	5	19
	2701E	参加者企画枠 失敗から学ぶ教育への新たな視点	竹内 一	10	10	0	0	6	4
	2701F	参加者企画枠 フューチャー・デザインで大学の未来を考える	佐藤 浩輔	16	6	10	0	7	9
8月27日 (水) 2時限	2702A	大学IR入門-意思決定を支援する実践	中井 俊樹	59	21	38	0	20	39
	2702B	設置基準/設置手続入門-組織改革と活性化	宮内 卓也	29	2	27	0	6	23
	2702C	AIx教育: 未来の授業デザインを創出するワークショップ	金西 計英 田巻 公貴	32	28	4	0	12	20
	2702D	初めてでもできるSD研修の企画・運営・評価	葛西 崇文 阿部 光伸	10	1	9	0	3	7
	2702E	パフォーマンスが上がる職場とは	島田 くみこ 浜田 昌代 高木 佳代子 坂本 規孝	14	1	13	0	6	8
	2702F	学生支援のこれまでと最新動向を知り、考える	蝶 慎一	47	15	32	0	24	23
8月27日 (木) 3時限	2703A	卒業時の学修成果の可視化と内部質保証	竹中 喜一	85	35	49	1	23	62
	2703B	ゲームで考える職員間のギャップ	藤巻 晃 野口 里美	19	2	17	0	12	7
	2703C	地域の未来を拓くアントレプレナーシップ教育	佐野 淳也 石原 佑	33	23	10	0	19	14
	2703F	障害学生支援の観点から考えるユニバーサルデザイン	高橋 由子	41	14	27	0	18	23
8月28日 (木) 1時限	【対面】 2801A	トップリーダーセミナー 現代の社会課題と大学の役割	斉藤 卓也	88	31	55	2	49	39
	2801B	明日から使える大学業務システム内製開発ハンズオン	末廣 紀史 木村 悠佑 川瀬 舞	29	5	24	0	12	17
	2801C	Power Query for Excel を用いた効率的なデータ処理	高畑 貴志	39	18	21	0	15	24
	2801D	保育・幼児教育分野のためのFDを企画しよう	寺川 夫央 塩川 奈々美	9	8	1	0	8	1
	2801E	学務系職員のための学生理解・支援	野口 悟	24	1	23	0	9	15
	2801F	留学生支援のための制度理解	岩田 剛	29	7	21	1	17	12
8月28日 (木) 2時限	【対面】 2802A	トップリーダーセミナー 学び続ける事務組織と実践する職員の育て方	宮林 常崇	94	11	81	2	46	48
	2802B	「SPODオンラインFDコンテンツプラットフォームサイト」を活用する	飯尾 健	9	7	2	0	3	6
	2802C	ルーブリック評価入門~考える、つくる、活用する~	俣野 秀典	21	16	5	0	14	7
	2802D	自大学のFDを発展させるための評価と改善	上月 翔太	26	9	17	0	4	22
	2802E	ケースを通して考える学生対応	清水 栄子	24	9	15	0	15	9
	2802F	合理的配慮とその学生支援について考える	坂井 聡	39	16	23	0	17	22
8月28日 (木) 3時限	【対面】 2803G	シンポジウム 「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」	森 朋子 島田 くみこ 井ノ崎 敦子 佐藤 浩章	179	69	109	1	85	94
8月28日 (木)	オンライン	トップリーダーセミナー 現代の社会課題と大学の役割	斉藤 卓也	69	18	50	1	59	10
8月28日 (木)	オンライン	トップリーダーセミナー 学び続ける事務組織と実践する職員の育て方	宮林 常崇	56	10	45	1	41	15
8月28日 (木)	オンライン	シンポジウム 「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」	森 朋子 島田 くみこ 井ノ崎 敦子 佐藤 浩章	69	17	51	1	34	35
8月29日 (金) 1時限	2901A	デジタル学修歴証明書入門	鈴木 洋	35	12	23	0	15	20
	2901B	教学IRにおけるデータ分析入門	真鍋 亮	29	4	25	0	5	24
	2901C	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	俣野 秀典	20	18	2	0	10	10
	2901D	指導補助者 (TA) 研修・ブレFDプログラムをどう立ち上げるか?	佐藤 浩章	14	7	7	0	4	10
	2901E	Excelではじめる統計分析	飯尾 健	22	9	13	0	14	8
	2901F	実践事例から考えるキャリア支援	原 瑞穂 園子 賀津美 篠原 佳代	29	8	21	0	20	9
8月29日 (金) 2時限	2902A	40代からのキャリアデザイン: リスキリングで未来を拓く	久保 秀二 石川 尚	34	33	1	0	17	17
	2902B	自分の成長につながる自己啓発を考えよう	藤本 正己 杉原 康弘	17	1	16	0	6	11
	2902C	電子テキスト型コンテンツの制作と授業運用	林 敏浩	22	19	3	0	14	8
	2902D	大学生をリフレクティブラーナーとして育てる	上田 勇仁	13	11	2	0	5	8
	2902E	テキストマイニング入門	塩川 奈々美	26	13	13	0	14	12
	2902F	組織的な学習支援について考えてみよう	石田 明菜 清水 栄子	22	7	15	0	8	14
合計				1567	574	983	10	732	835

SPODフォーラム2025 ポスターセッション取組一覧

ポスター番号	テーマ	発表代表者			共同発表者
		氏名	所属	SPOD加盟校	
1	教育DXを深化させるデジタル教科書の導入と展開	荒木 俊博	淑徳大学 大学事務局長室		杉原 亨(淑徳大学高等教育研究開発センター)
2	分野横断学修者をピアサポートするSA研修のデザイン	上島 洋佑	新潟大学 教育基盤機構		石井 義人(新潟大学教育基盤機構) 青柳 匠馬(新潟大学法学部(4年)) 長澤 広瀬(新潟大学法学部(3年)) 福澤 桃子(新潟大学人文学部(2年)) 内山 真枝(新潟大学理学部(2年)) 吉田 もとな(新潟大学創生学部(2年))
3	学習支援組織と連携した学部1年生のライティング指導	多田 泰紘	京都橘大学 経営学部		青木 美智子(京都橘大学発達教育学部)
4	学生が学びに向き合う基盤づくりの挑戦—LJMの活用	前河 泰正	大阪国際大学 IR室 兼 基幹教育機構事務局		安達 康生(大阪国際大学 IR室長、基幹教育機構 教授) 尾上 政範(大阪国際学園 法人本部情報システム課 兼 IR室) 渡辺 隆史(UCI Lab.合同会社 代表・所長)
5	部局横断で取り組む業務DXの実践と風土醸成	沼田 耕並	滋賀大学 教育学部事務部 (同志社大学大学院ビジネス研究科)		水谷 勇太(滋賀大学図書情報課)
6	『学修の手引き』改訂を通じた学生と教職員の協働	紅谷 水葵	広島市立大学 事務局教務・学部運営室教務グループ		加藤 成美(広島市立大学事務局教務・学部運営室教務グループ) 八木 恵里沙(広島市立大学事務局教務・学部運営室教務グループ) 坂本 規孝(広島市立大学教育基盤センター)
7	アンケートからわかる学生支援ニーズと教員意識のズレ	坪井 泰士	大分工業高等専門学校 校長		小林 睦(豊田工業高等専門学校環境都市工学科) 藤本 正己(山口大学教育・学生支援機構) 杉田 郁代(高知大学教育研究部)
8	卒業予報の導入と展開	真鍋 亮	愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室	○	中井 俊樹(愛媛大学教育・学生支援機構) 尾崎 良太郎(愛媛大学工学部)
9	ライティング能力育成のための授業科目の現状と課題	上月 翔太	愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室	○	蝶 慎一(香川大学大学教育基盤センター) 飯尾 健(徳島大学高等教育研究センター教育改革推進部門)
10	SPOD-SD能力育成ルーブリックの提案	小川 達也	愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課	○	上月 翔太(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室) 西村 優作(愛媛大学教育学生支援部教育企画課)
11	他大学教員とのインフォーマル連携による協同授業開発	寺田 悠希	高知大学 学び創造センター	○	杉野 弘明(山口大学ひと・まち未来共創学環)
12	大学教員の担う学生支援の現状と課題	杉田 郁代	高知大学 学び創造センター	○	山本 啓一(北陸大学経済経営学部) 藤本 正己(山口大学教学マネジメント室) 坂本 智香(高知大学 学び創造センター)
13	学生生活調査から見る適応感と大学を知るプロジェクト	藤巻 晃	徳島文理大学 地域連携センター	○	多田 一子(徳島文理大学 教務部教務課) 武市 久恵(徳島文理大学 学生部学生支援課) 松下 宗孝(徳島文理大学 学生部学生支援課(高松駅キャンパス))
14	官学連携による消費者教育の実践と授業改善の取り組み	南川 慶二	徳島大学 教養教育院	○	宮本 麗子(消費者庁新未来創造戦略本部) 今中 厚志(消費者庁新未来創造戦略本部)
15	徳島大学防災サークルの取り組みとその波及効果	松重 摩耶	徳島大学 環境防災研究センター	○	湯浅 恭史(徳島大学環境防災研究センター) 上月 康則(徳島大学環境防災研究センター)
16	大規模災害時における大学の安全配慮義務についての考察	湯浅 恭史	徳島大学 環境防災研究センター	○	松重 摩耶(徳島大学環境防災研究センター) 上月 康則(徳島大学環境防災研究センター)
17	コロナ禍前・コロナ禍・コロナ禍後におけるハラスメント相談の変化	井ノ崎 敦子	徳島大学 キャンパスライフ 健康支援センター	○	後藤 龍太(徳島大学キャンパスライフ健康支援センター) 糸林 剛志(徳島大学キャンパスライフ健康支援センター) 佐藤 健二(徳島大学キャンパスライフ健康支援センター)
18	徳島大学における高校教員向け入試広報活動の展開	上岡 麻衣子	徳島大学 高等教育研究センター アドミッション部門	○	植野 美彦(徳島大学高等教育研究センターアドミッション部門)
19	学生が安心して社会に巣立つためのキャリア教育開発	畠 一樹	徳島大学 高等教育研究センター キャリア支援部門	○	中西 理江(徳島大学キャリア支援室) 鳥羽 美帆(徳島大学キャリア支援室)
20	主体的な学生プロジェクト活動支援の取り組み	森口 菜梨亜	徳島大学 高等教育研究センター 学修支援部門創新教育推進班	○	
21	保育・幼児教育分野FDプログラムの開発に向けた取組	塩川 奈々美	徳島大学 高等教育研究センター 教育の質保証支援室	○	寺川 夫央(今治明徳短期大学幼児教育学科) 船本 孝子(徳島文理大学短期大学部保育科) 十河 治幸(今治明徳短期大学幼児教育学科) 吉井 ゆだね(今治明徳短期大学幼児教育学科)
22	SPOD「FD・SDコンテンツ」のこれまでとこれから	飯尾 健	徳島大学 高等教育研究センター 教育改革推進部門	○	吉田 博(徳島大学高等教育研究センター教育改革推進部門) 仲道 雅輝(愛媛大学教育・学生支援機構) 上月 翔太(愛媛大学教育・学生支援機構) 杉田 郁代(高知大学学び創造センター)
23	SPODフォーラム新たな挑戦、その真価を問う	吉田 博	徳島大学 高等教育研究センター 教育改革推進部門	○	飯尾 健(徳島大学高等教育研究センター教育改革推進部門) 塩川 奈々美(徳島大学高等教育研究センター教育の質保証支援室)

SPOD フォーラム 2025



学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



SPODフォーラムとは … 大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いFD/SDプログラムならびに組織を越えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

日時・場所	2025年8/27(水) ▶ 29(金) 徳島大学 常三島キャンパス
主催	四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD) / 徳島大学
参加申込	SPOD加盟校の教職員限定受付 2025年6月16日(月)正午~6月30日(月)正午
	一般受付(SPOD加盟校の方も申込可) 2025年7月2日(水)正午~7月18日(金)正午
※事前申込制(先着順)	申込みはWEBから https://www.spod.ehime-u.ac.jp
参加費	SPOD加盟校の教職員 無料 SPOD加盟校以外の教職員 10,000円

<p>特徴 1 多彩な講師陣</p>	<p>先進的な教育改革で知られる大学のトップ、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェッショナルなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえました。</p>
<p>特徴 2 職場で使える実践型プログラム</p>	<p>グループワークを含む講義が数多く開催されます。参加者には、意見を出し合い知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。</p>
<p>特徴 3 SDプログラムも多数開講</p>	<p>SPODでは、FD同様にSDに力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講しています。教育改善に関心のある多くの教職員の方の参加をお待ちしております。</p>

参加者の声

- ・専門分野以外の方と話せる機会があり、豊富な種類のセミナーがあるため、新しいこと、知りたいことが見つけやすいです。
- ・大学の運営に関わるさまざまな立場の方とつながることができました。また、それにより自身の大学を見る視角を広げることができました。



徳島大学常三島キャンパス

徳島市南常三島町1丁目1番地
駐車場はありません。公共交通機関のご利用をお願いします。

JR徳島駅から

- 徒歩…約30分
- バス利用…約20分

徳島駅前から徳島市営バス

- 「島田石橋」行「助任橋・徳島大学前」下車
 - 「中央循環(左回り)」「助任橋・徳島大学前」下車
 - 「川内循環(左回り)」「助任橋・徳島大学前」下車
- 徒歩約5分



●お問い合わせ先
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育支援部教育企画課)
☎089-927-9154 ☑E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

●当日のお問い合わせ先
徳島大学学務部教育支援課
☎088-656-7679

全体受付 プログラムを受講する方は、必ず各自の受講初日に全体受付を済ませてください。 場所:教養教育4号館2階201

会場	A	B	C	D	E	F	
教室	教養教育4号館 3階301	教養教育4号館 2階202	教養教育4号館 3階302	教養教育4号館 4階402	地域創生・国際交流会館 1階コモンラウンジ	地域創生・国際交流会館 5階フューチャーセンター	
1日目 8月27日(水)	1 10:00~12:00 参加者企画枠	2701B 組織外コミュニティ促す 大学職員のキャリアと 能力開発への影響 山田尚彦(新潟大学) ワーク・講義 30名	2701C 教学マネジメント・内 部質保証に寄与する 学生参画の実践とは 荒木俊博(淑徳大学) ワーク・講義 60名	2701D 分野横断・分野融合の 学びの価値とカリキュ ラム設計を考えよう! 林透(金沢大学) ワーク・講義 40名	2701E 失敗から学ぶ教育へ の新たな視点 竹内一(徳島文理大学) ワーク 30名	2701F フューチャー・デザイン 大学の未来を考える 佐藤浩輔(大阪体育大学) ワーク 30名	
	2 13:00~15:00 講義 140名	2702A 大学IR入門ー意思 決定を支援する実践 中井俊樹(愛媛大学) 講義 140名	2702B 設置基準/設置手続 入門ー組織改革と活 性化 宮内卓也(高知大学) ワーク・講義 36名	2702C AIx教育:未来の授 業デザインを創出す るワークショップ 金西計英(徳島大学) 田巻公貴(徳島大学) ワーク・講義 50名	2702D 初めてでもできるSD 研修の企画・運営・ 評価 葛西崇文(愛媛大学) 阿部光伸(愛媛大学) ワーク・講義 40名	2702E パフォーマンスが上 がる職場とは 島田くみこ(高知工科大学) 浜田昌代(高知大学) 高木佳代子(愛媛大学) 坂本規孝(広島市立大学) ワーク・講義 30名	2702F 学生支援のこれまで と最新動向を知り、 考える 蝶慎一(香川大学) ワーク・講義 50名
	3 15:30~17:30 講義 140名	2703A 卒業時の学修成果の 可視化と内部質保証 竹中喜一(近畿大学) 講義 140名	2703B ゲームで考える 職員間のギャップ 藤巻 晃(徳島文理大学) 野口里美(香川大学) ワーク 30名	2703C 地域の未来を拓くアント レプレナーシップ教育 佐野淳也(神山まると高専) 石原 佑(徳島大学) ワーク・講義 60名	2703D 初めてでもできるSD 研修の企画・運営・ 評価 葛西崇文(愛媛大学) 阿部光伸(愛媛大学) ワーク・講義 40名	2703E パフォーマンスが上 がる職場とは 島田くみこ(高知工科大学) 浜田昌代(高知大学) 高木佳代子(愛媛大学) 坂本規孝(広島市立大学) ワーク・講義 30名	2703F 障害学生支援の観点 から考えるユニバー サルデザイン 高橋由子(高知大学) 講義 50名
	18:00~19:00 ポスターセッション	会場:教養教育4号館4階404講義室(リベラホール)					学生理解・支援ゾーン

ハイブリッド: けやきホール・オンライン配信 PCルームで実施

2日目 8月28日(木)	1 10:00~12:00 講義 会場240名	2801A トップリーダー セミナー 現代の社会課題と 大学の役割 斉藤卓也(情報システム研究機構) 講義 会場240名	2801B 明日から使える大学業務シ ステム内製開発ハンズオン 末廣紀史(香川大学) 木村悠佑(香川大学) 川瀬 舞(香川大学) ワーク・講義 40名	2801C Power Query for Excel を用いた効率 的なデータ処理 高畑貴志(高知大学) 講義 60名	2801D 保育・幼児教育分野の ためのFDを企画しよう 塩川奈々美(徳島大学) 寺川夫央(今治明徳短期大学) ワーク・講義 12名	2801E 学務系職員のための 学生理解・支援 野口 悟(高知大学) ワーク・講義 30名	2801F 留学生支援のための 制度理解 岩田 剛(愛媛大学) 講義 40名
	2 13:00~15:00 講義 会場240名	2802A トップリーダー セミナー 学び続ける事務組織と実 践する職員の育て方 宮林常崇(東京立大学) 講義 会場240名	2802B 「SPODオンライン FDコンテンツブラッ クフォームサイト」を活 用する 飯尾 健(徳島大学) ワーク・講義 60名	2802C ループ/リグ評価入門 ~考える,つる,活用する~ 俣野秀典(高知大学) ワーク 40名	2802D 自大学のFDを発展させ るための評価と改善 上月翔太(愛媛大学) ワーク・講義 60名	2802E ケースを通して考える 学生対応 清水栄子(愛媛大学) ワーク・講義 30名	2802F 合理的配慮とその学生 支援について考える 坂井 聡(香川大学) ワーク・講義 50名
	3 15:30~17:30 シンポジウム	「学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」 会場: けやきホール 森 朋子(桐蔭横浜大学) 島田くみこ(高知工科大学) 井ノ崎敦子(徳島大学) 指定討論者: 佐藤浩章(東京大学) 進行: 吉田 博(徳島大学) 会場240名					2803G
	18:00~20:30 情報交換会	会場: 食堂kirara2階 会費: 4,000円(事前申込み制) 余興: 阿波踊り(参加者の方への踊りのレッスン・踊りの体験を含みます)					

3日目 8月29日(金)	1 10:00~12:00 講義 140名	2901A デジタル学修歴証明 書入門 鈴木 洋(芝浦工業大学) 講義 140名	2901B 教学IRにおける データ分析入門 真鍋 亮(愛媛大学) ワーク・講義 60名	2901C 小グループ・ペア学 習を取り入れた授業 デザイン 俣野秀典(高知大学) ワーク・講義 40名	2901D 指導補助者(TA)研修 ・ブレFDプログラムをどう 立ち上げるか? 佐藤浩章(東京大学) ワーク・講義 60名	2901E Excelではじめる 統計分析 飯尾 健(徳島大学) ワーク・講義 30名	2901F 実践事例から考えるキャ リア支援 原 瑞穂(香川大学) 園子寅津美(香川大学) 篠原佳代(香川大学) ワーク・講義 50名
	2 13:00~15:00 講義 100名	2902A 40代からのキャリア デザイン: リスキリン グで未来を拓く 久保秀二(愛媛大学) 石川 尚(愛媛大学) 講義 100名	2902B 自分の成長につながる 自己啓発を考えよう 藤本正己(山口大学) 杉原康弘(松山大学) ワーク・講義 32名	2902C 電子テキスト型コンテ ンツの制作と授業運用 林 敏浩(香川大学) 講義 60名	2902D 大学生をリフレクティブ ラーナーとして育てる 上田勇仁(帝京大学) ワーク・講義 60名	2902E テキストマイニング入門 塩川奈々美(徳島大学) ワーク・講義 30名	2902F 組織的な学習支援に ついて考えてみよう 清水栄子(愛媛大学) 石田明菜(立命館大学) ワーク・講義 30名

参加者企画枠: 高等教育機関に所属する教職員を対象に企画案を募集し、応募のあった企画案から採択された5件を実施する枠
学生理解・学生支援ゾーン: SPOD フォーラム2025 のテーマに関連するプログラムを体系的に集中して学ぶことができるプログラム帯

SPODフォーラム2025事前アンケート集計結果

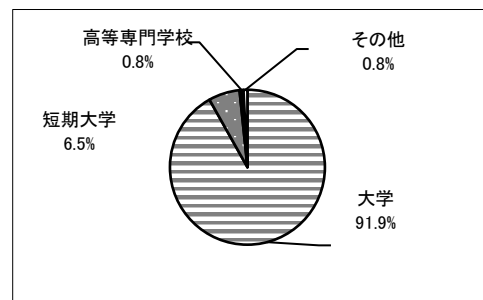
アンケート回答者数:491名

参加者の属性

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	451	91.9%
② 短期大学	32	6.5%
③ 高等専門学校	4	0.8%
④ その他	4	0.8%
計	491	100.0%

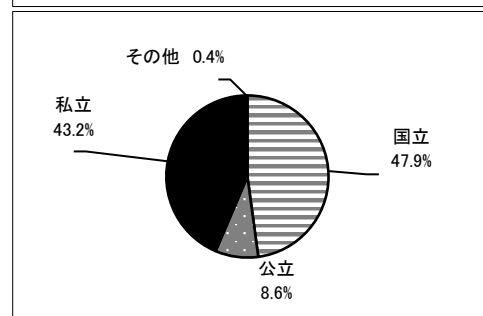
その他：学校法人本部(2), 公益財団法人(2)



(2) 所属先の設置者

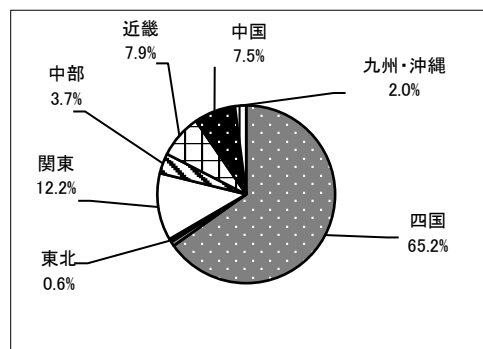
	度数	割合
① 国立	235	47.9%
② 公立	42	8.6%
③ 私立	212	43.2%
④ その他	2	0.4%
計	491	100.0%

その他：公益財団法人(2)



(3) 所属先の所在地

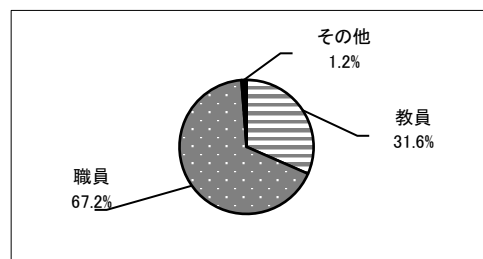
	度数	割合
① 四国	320	65.2%
② 北海道	4	0.8%
③ 東北	3	0.6%
④ 関東	60	12.2%
⑤ 中部	18	3.7%
⑥ 近畿	39	7.9%
⑦ 中国	37	7.5%
⑧ 九州・沖縄	10	2.0%
計	491	100.0%



(4) 職種

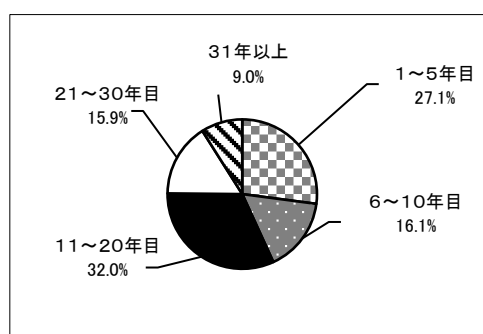
	度数	割合
① 教員	155	31.6%
② 職員	330	67.2%
③ その他	6	1.2%
計	491	100.0%

(その他:教員職員の兼業)



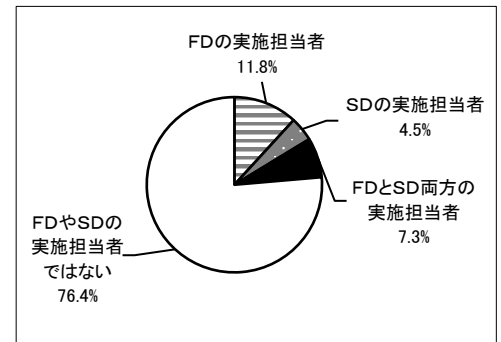
(5) 大学教職員等の経験年数

	度数	割合
① 1~5年目	133	27.1%
② 6~10年目	79	16.1%
③ 11~20年目	157	32.0%
④ 21~30年目	78	15.9%
⑤ 31年以上	44	9.0%
計	491	100.0%



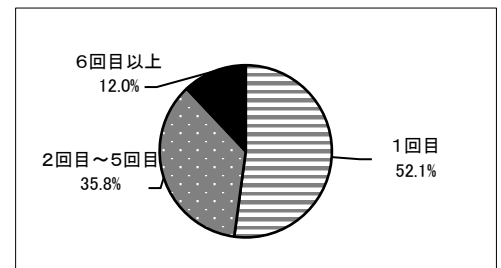
1. あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？

	度数	割合
① FDの実施担当者	58	11.8%
② SDの実施担当者	22	4.5%
③ FDとSD両方の実施担当者	36	7.3%
④ FDやSDの実施担当者ではない	375	76.4%
計	491	100.0%



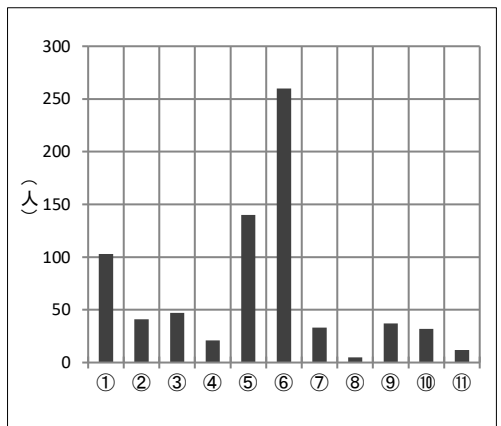
2. SPODフォーラムの参加は何回目ですか？

	度数	割合
① 1回目	256	52.1%
② 2回目～5回目	176	35.8%
③ 6回目以上	59	12.0%
計	491	100.0%



3. SPODフォーラムをどこで知りましたか？（複数選択可）

	度数	割合
① SPODホームページ	103	21.0%
② SPODメールマガジン	41	8.4%
③ SPODフォーラムチラシ	47	9.6%
④ SPOD研修プログラムガイド	21	4.3%
⑤ SPOD関係者からの案内	140	28.5%
⑥ 職場の同僚・上司からの案内	260	53.0%
⑦ 知人からの案内	33	6.7%
⑧ 愛媛大学FD・SDチャンネルのX(旧Twitter)	5	1.0%
⑨ ぽっちゃんメーリングリスト	37	7.5%
⑩ メーリングリスト(tulip)	32	6.5%
⑪ その他	12	2.4%
アンケート回答者数	491	

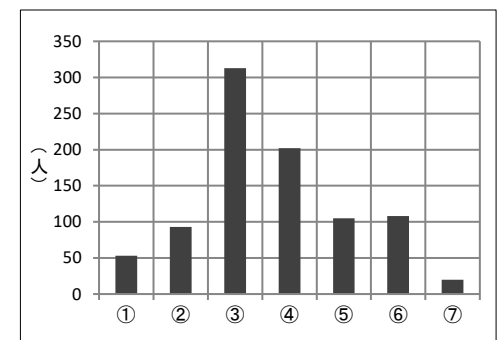


その他の記述回答

・ 大学からの案内	4
・ 職場からの案内	1
・ 関係者からの案内	3
・ 不明	1
・ 未回答	3

4. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？（複数選択可）

	度数	割合
① 過去の参加者に参加をすすめられたため	53	10.8%
② 上司に参加をすすめられたため	93	18.9%
③ 自分自身の能力開発のため	313	63.7%
④ 組織の課題を解決するヒントを得るため	202	41.1%
⑤ 組織を越えた人脈づくりのため	105	21.4%
⑥ FDやSDに関する情報収集のため	108	22.0%
⑦ その他	20	4.1%
アンケート回答者数	491	



その他の記述回答

・ 同僚、知人から案内があったため	2
・ 業務内容に関わるプログラムがあるため	2
・ 講師を引き受けたため	6
・ オンラインでも参加できるプログラムがあるため	1
・ 受講したいプログラムがあるため	1
・ 受講したい講師がいるため	2
・ 未回答	6

SPODフォーラム2025全体アンケート集計結果

回答者数 : 224名
 回答率 : 45.5% (2023: 48.0% 2022: 41.3%) ※2024(香川大学)は台風のため中止
 回答期間 : 9月22日(月)～10月6日(月) ※Googleフォームから回答

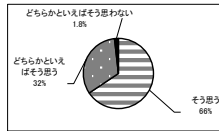
申込者数 : 492名
 SPOD加盟校から : 318名
 SPOD加盟校以外から : 174名

1. SPODフォーラムでの研修成果について

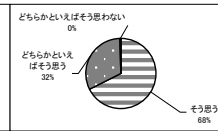
【SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった】

	度数	割合
① そう思う	147	65.6%
② どちらかといえばそう思う	73	32.6%
③ どちらかといえばそう思わない	4	1.8%
④ そう思わない	0	0.0%
計	224	100.0%

SPODフォーラム2025(徳島大学)

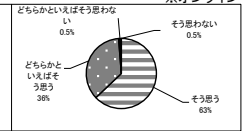


SPODフォーラム2023(愛媛大学)



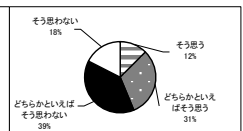
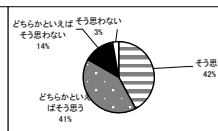
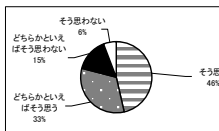
SPODフォーラム2022(愛媛大学)

※オンライン



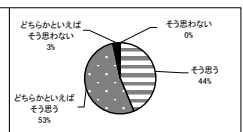
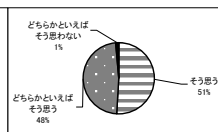
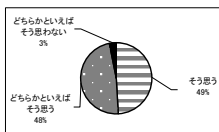
【所属組織を越えて人脈を広げることができた】

	度数	割合
① そう思う	104	46.4%
② どちらかといえばそう思う	73	32.6%
③ どちらかといえばそう思わない	34	15.2%
④ そう思わない	13	5.8%
計	224	100.0%



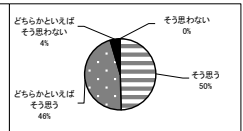
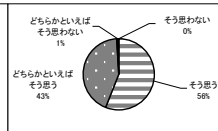
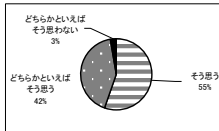
【自分に必要な知識やスキルを身につけることができた】

	度数	割合
① そう思う	110	49.1%
② どちらかといえばそう思う	107	47.8%
③ どちらかといえばそう思わない	7	3.1%
④ そう思わない	0	0.0%
計	224	100.0%



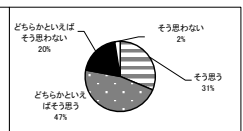
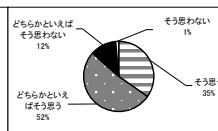
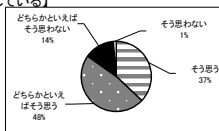
【業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった】

	度数	割合
① そう思う	124	55.4%
② どちらかといえばそう思う	94	42.0%
③ どちらかといえばそう思わない	6	2.7%
④ そう思わない	0	0.0%
計	224	100.0%



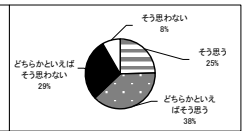
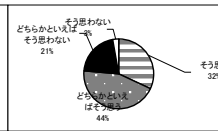
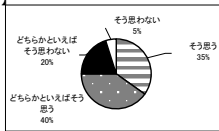
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している】

	度数	割合
① そう思う	83	37.1%
② どちらかといえばそう思う	107	47.8%
③ どちらかといえばそう思わない	31	13.8%
④ そう思わない	3	1.3%
計	224	100.0%



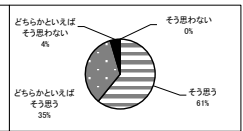
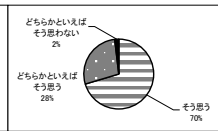
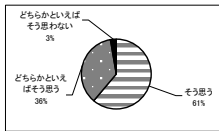
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している】

	度数	割合
① そう思う	78	34.8%
② どちらかといえばそう思う	90	40.2%
③ どちらかといえばそう思わない	45	20.1%
④ そう思わない	11	4.9%
計	224	100.0%



【今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい】

	度数	割合
① そう思う	137	61.2%
② どちらかといえばそう思う	81	36.2%
③ どちらかといえばそう思わない	6	2.7%
④ そう思わない	0	0.0%
計	224	100.0%



2. 感想、ご意見、ご要望等 (別紙参照)

3. 参加者ご自身について

【所属先1】

	度数	割合
① SPOD加盟校	133	59.4%
② SPOD加盟校外	91	40.6%
計	224	100.0%

【所属先2】

	度数	割合
① 大学	209	93.3%
② 短期大学	13	5.8%
③ 高等専門学校	2	0.9%
④ その他	0	0.0%
計	224	100.0%

※その他：公益財団法人

【所属先の学生数】

	度数	割合
① 10,000人以上	24	10.7%
② 5,000人以上10,000人未満	93	41.5%
③ 1,000人以上5,000人未満	71	31.7%
④ 1,000人未満	35	15.6%
⑤ 該当なし	1	0.4%
計	224	100.0%

【所属先の設置者】

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	104	46.4%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	15	6.7%
③ 学校法人	105	46.9%
④ その他	0	0.0%
計	224	100.0%

【所属先の所在地】

	度数	割合
① 四国	132	58.9%
② 東北	1	0.4%
③ 関東	28	12.5%
④ 中部	12	5.4%
⑤ 近畿	18	8.0%
⑥ 中国	22	9.8%
⑦ 九州・沖縄	9	4.0%
⑧ 北海道	2	0.9%
計	224	100.0%

【職種】

	度数	割合
① 教員	72	32.1%
② 職員	152	67.9%
③ その他	0	0.0%
計	224	100.0%

【大学教職員等の経験年数】

	度数	割合
① 1～5年	51	22.8%
② 6～10年	35	15.6%
③ 11～20年	77	34.4%
④ 21～30年	42	18.8%
⑤ 31年以上	19	8.5%
計	224	100.0%

【SPODフォーラムへの参加回数】

	度数	割合
① 1回目	97	43.3%
② 2回～5回目	100	44.6%
③ 6回以上	27	12.1%
計	224	100.0%

【あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？】

	度数	割合
① FDの実施担当者	27	12.1%
② SDの実施担当者	10	4.5%
③ FDとSD両方の実施担当者	20	8.9%
④ FDやSDの実施担当者ではない	167	74.6%
計	224	100.0%

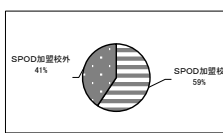
4. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？(複数選択可)

	度数	割合
① 過去の参加者に参加をすすめられたため	35	15.6%
② 上司に参加をすすめられたため	48	21.4%
③ 自分自身の能力開発のため	158	70.5%
④ 組織の課題を解決するヒントを得るため	101	45.1%
⑤ 組織を越えた人脈づくりのため	79	35.3%
⑥ FDやSDに関する情報収集のため	73	32.6%
⑦ その他	10	4.5%
アンケート回答者数	224	

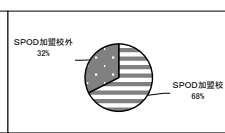
その他の記述内容

- ・ 講師を引き寄せたため(2件)
- ・ FDの一環として職員に誘われたため(1件)
- ・ 自大学で開催されたため(1件)
- ・ 参加必須の部署だったため(1件)
- ・ 講師が元所属の方だったため(1件)
- ・ ワークショップを実施するため(1件)
- ・ 自大学のSD講師となるような方を探すため(1件)

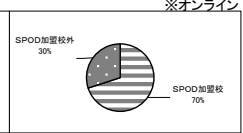
SPODフォーラム2025(徳島大学)



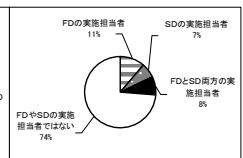
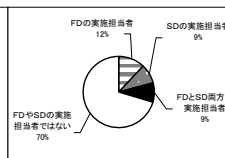
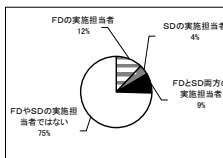
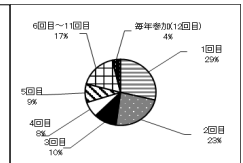
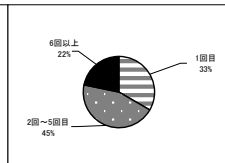
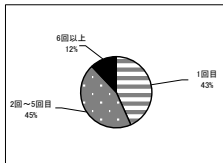
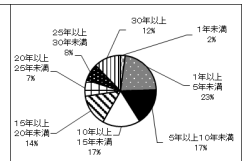
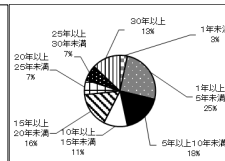
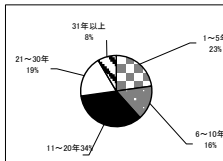
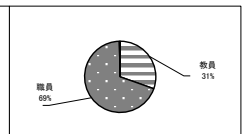
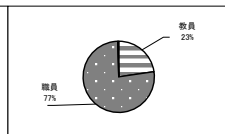
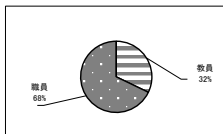
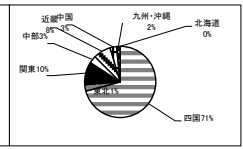
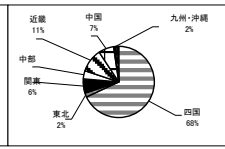
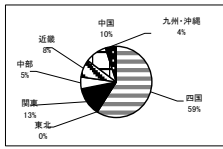
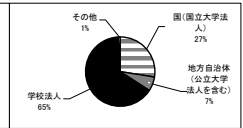
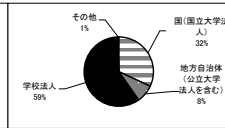
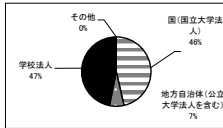
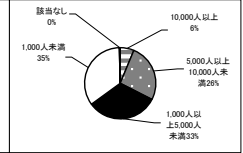
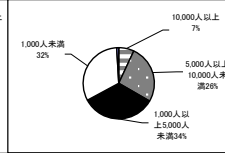
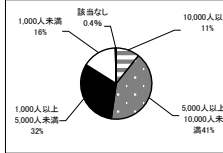
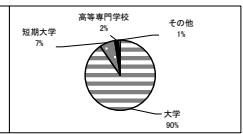
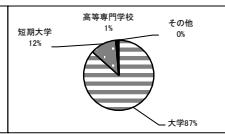
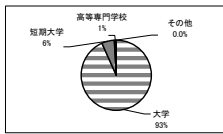
SPODフォーラム2023(愛媛大学)



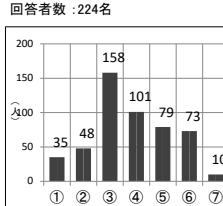
SPODフォーラム2022(愛媛大学)



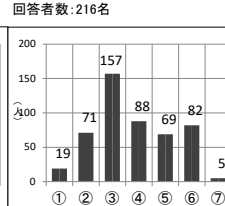
※オンライン



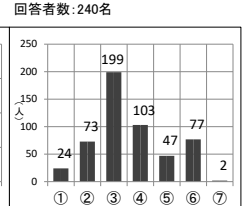
SPODフォーラム2025(徳島大学)



SPODフォーラム2023(愛媛大学)



SPODフォーラム2022(愛媛大学)



SPODフォーラム2025全体アンケート集計結果(SPOD加盟校内外)

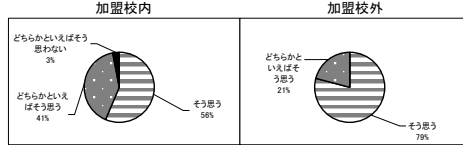
回答者数：224名 (回答率：45.5%)
 SPOD加盟校内：133名 (回答率：41.8%)
 SPOD加盟校外：91名 (回答率：52.3%)
 回答期間：9月22日(月)～10月6日(月) ※Googleフォームから回答

申込者数：492名
 SPOD加盟校内：318名
 SPOD加盟校外：174名

1. SPODフォーラムでの研修成果について

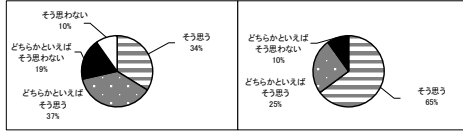
【SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった】

	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	75	56.4%	72	79.1%
② どちらかといえばそう思う	54	40.6%	19	20.9%
③ どちらかといえばそう思わない	4	3.0%	0	0.0%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



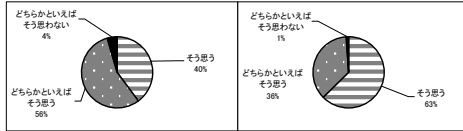
【所属組織を越えて人脈を広げることができた】

	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	45	33.8%	59	64.8%
② どちらかといえばそう思う	50	37.6%	23	25.3%
③ どちらかといえばそう思わない	25	18.8%	9	9.9%
④ そう思わない	13	9.8%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



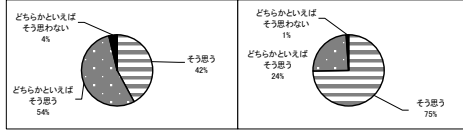
【自分に必要な知識やスキルを身につけることができた】

	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	53	39.8%	57	62.6%
② どちらかといえばそう思う	74	55.6%	33	36.3%
③ どちらかといえばそう思わない	6	4.5%	1	1.1%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



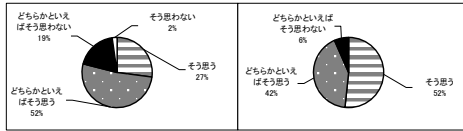
【業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった】

	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	56	42.1%	68	74.7%
② どちらかといえばそう思う	72	54.1%	22	24.2%
③ どちらかといえばそう思わない	5	3.8%	1	1.1%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



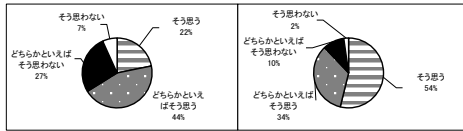
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している】

	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	36	27.1%	47	51.6%
② どちらかといえばそう思う	69	51.9%	38	41.8%
③ どちらかといえばそう思わない	25	18.8%	6	6.6%
④ そう思わない	3	2.3%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



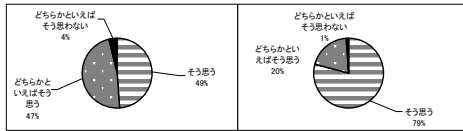
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している】

	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	29	21.8%	49	53.8%
② どちらかといえばそう思う	59	44.4%	31	34.1%
③ どちらかといえばそう思わない	36	27.1%	9	9.9%
④ そう思わない	9	6.8%	2	2.2%
計	133	100.0%	91	100.0%



【今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい】

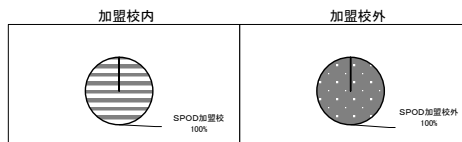
	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	65	48.9%	72	79.1%
② どちらかといえばそう思う	63	47.4%	18	19.8%
③ どちらかといえばそう思わない	5	3.8%	1	1.1%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



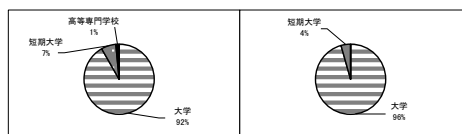
2. 感想、ご意見、ご要望等 (別紙参照)

3. 参加者ご自身について

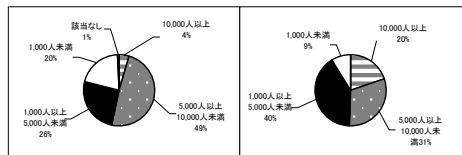
【所属先1】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① SPOD加盟校	133	100.0%	0	0.0%
② SPOD加盟校外	0	0.0%	91	100.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



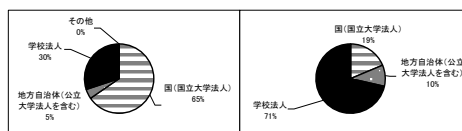
【所属先2】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 大学	122	91.7%	87	95.6%
② 短期大学	9	6.8%	4	4.4%
③ 高等専門学校	2	1.5%	0	0.0%
④ その他	0	0.0%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



【所属先の学生数】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 10,000人以上	6	4.5%	18	19.8%
② 5,000人以上10,000人未満	65	48.9%	28	30.8%
③ 1,000人以上5,000人未満	34	25.6%	37	40.7%
④ 1,000人未満	27	20.3%	8	8.8%
⑤ 該当なし	1	0.8%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%

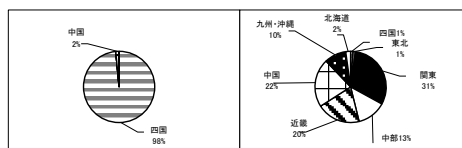


【所属先の設置者】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 国(国立大学法人)	87	65.4%	17	18.7%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	6	4.5%	9	9.9%
③ 学校法人	40	30.1%	65	71.4%
④ その他	0	0.0%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%

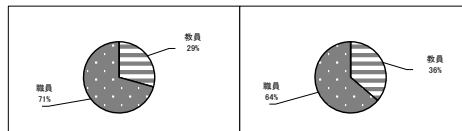


※その他：公益財団法人

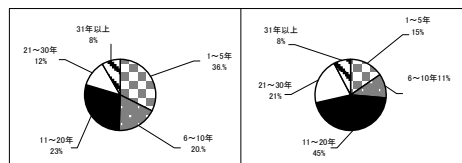
【所属先の所在地】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 四国	131	98.5%	1	1.1%
② 東北	0	0.0%	1	1.1%
③ 関東	0	0.0%	28	30.8%
④ 中部	0	0.0%	12	13.2%
⑤ 近畿	0	0.0%	18	19.8%
⑥ 中国	2	1.5%	20	22.0%
⑦ 九州・沖縄	0	0.0%	9	9.9%
⑧ 北海道	0	0.0%	2	2.2%
計	133	100.0%	91	100.0%



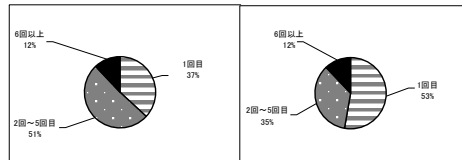
【職種】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 教員	39	29.3%	33	36.3%
② 職員	94	70.7%	58	63.7%
③ その他	0	0.0%	0	0.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



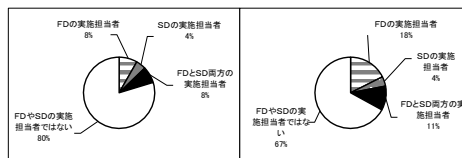
【大学教職員等の経験年数】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 1~5年	37	27.8%	14	15.4%
② 6~10年	25	18.8%	10	11.0%
③ 11~20年	36	27.1%	41	45.1%
④ 21~30年	23	17.3%	19	20.9%
⑤ 31年以上	12	9.0%	7	7.7%
計	133	100.0%	91	100.0%



【SPODフォーラムへの参加回数】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 1回目	49	36.8%	48	52.7%
② 2回~5回目	68	51.1%	32	35.2%
③ 6回以上	16	12.0%	11	12.1%
計	133	100.0%	91	100.0%

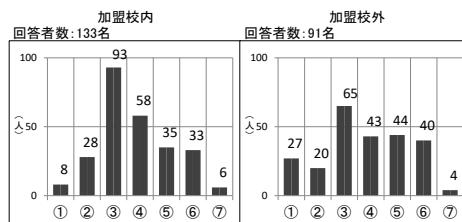


【あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？】	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① FDの実施担当者	11	8.3%	16	17.6%
② SDの実施担当者	6	4.5%	4	4.4%
③ FDとSD両方の実施担当者	10	7.5%	10	11.0%
④ FDやSDの実施担当者ではない	106	79.7%	61	67.0%
計	133	100.0%	91	100.0%



4. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？(複数選択可)

	加盟校内		加盟校外	
	度数	割合	度数	割合
① 過去の参加者に参加をすすめられたため	8	6.0%	27	29.7%
② 上司に参加をすすめられたため	28	21.1%	20	22.0%
③ 自分自身の能力開発のため	93	69.9%	65	71.4%
④ 組織の課題を解決するヒントを得るため	58	43.6%	43	47.3%
⑤ 組織を越えた人脈づくりのため	35	26.3%	44	48.4%
⑥ FDやSDに関する情報収集のため	33	24.8%	40	44.0%
⑦ その他	6	4.5%	4	4.4%
アンケート回答数	133		91	



その他の記述内容

- ・ 講師を引き受けたため(2件)
- ・ FDの一環として職員に誘われたため(1件)
- ・ 自大学で開催されたため(1件)
- ・ 参加必須の部署だったため(1件)
- ・ 講師が元所属の方だったため(1件)
- ・ ワークショップを実施するため(1件)
- ・ 自大学のSD講師となるような方を探すため(1件)

SPODフォーラム2025全体アンケート集計結果【規模別】

回答者数：224名（回答率：45.5%）

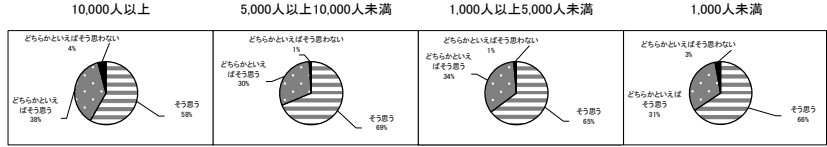
- ・10,000人以上 24名
- ・5,000人以上10,000人未満 93名
- ・1,000人以上5,000人未満 71名
- ・1,000人未満 35名
- ・該当なし 1名

回答期間：9月22日（月）～10月6日（月） ※Googleフォームから回答

1. SPODフォーラムでの研修成果について

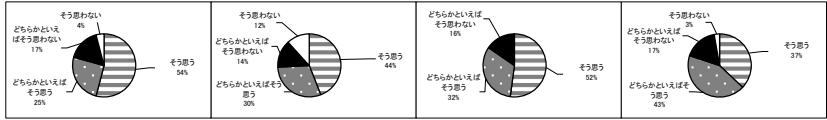
【SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった】

	10,000人以上		5,000人以上10,000人未満		1,000人以上5,000人未満		1,000人未満	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
① そう思う	14	58.3%	64	68.8%	46	64.8%	23	65.7%
② どちらかといえばそう思う	9	37.5%	28	30.1%	24	33.8%	11	31.4%
③ どちらかといえばそう思わない	0	0.0%	1	1.1%	1	1.4%	1	2.9%
④ そう思わない	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	24	100.0%	93	100.0%	71	100.0%	35	100.0%



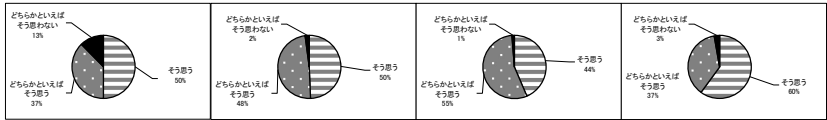
【所属組織を越えて人脈を広げることができた】

	10,000人以上		5,000人以上10,000人未満		1,000人以上5,000人未満		1,000人未満	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
① そう思う	13	54.2%	41	44.1%	37	52.1%	13	37.1%
② どちらかといえばそう思う	6	25.0%	28	30.1%	23	32.4%	15	42.9%
③ どちらかといえばそう思わない	4	16.7%	13	14.0%	11	15.5%	6	17.1%
④ そう思わない	1	4.2%	11	11.8%	0	0.0%	1	2.9%
計	24	100.0%	93	100.0%	71	100.0%	35	100.0%



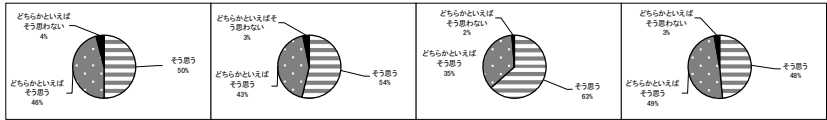
【自分に必要な知識やスキルを身につけることができた】

	10,000人以上		5,000人以上10,000人未満		1,000人以上5,000人未満		1,000人未満	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
① そう思う	12	50.0%	46	49.5%	31	43.7%	21	60.0%
② どちらかといえばそう思う	9	37.5%	45	48.4%	39	54.9%	13	37.1%
③ どちらかといえばそう思わない	3	12.5%	2	2.2%	1	1.4%	1	2.9%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	24	100.0%	93	100.0%	71	100.0%	35	100.0%



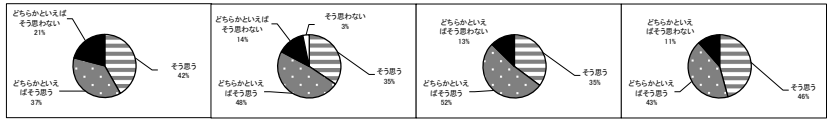
【業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった】

	10,000人以上		5,000人以上10,000人未満		1,000人以上5,000人未満		1,000人未満	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
① そう思う	12	50.0%	50	53.8%	45	63.4%	17	48.6%
② どちらかといえばそう思う	11	45.8%	40	43.0%	25	35.2%	17	48.6%
③ どちらかといえばそう思わない	1	4.2%	3	3.2%	1	1.4%	1	2.9%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	24	100.0%	93	100.0%	71	100.0%	35	100.0%



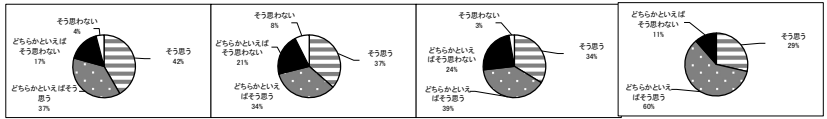
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している】

	10,000人以上		5,000人以上10,000人未満		1,000人以上5,000人未満		1,000人未満	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
① そう思う	10	34.7%	32	39.7%	25	27.5%	16	27.5%
② どちらかといえばそう思う	9	52.8%	45	49.3%	37	55.1%	15	55.1%
③ どちらかといえばそう思わない	5	12.5%	13	9.6%	9	14.5%	4	14.5%
④ そう思わない	0	0.0%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
計	24	100.0%	93	100.0%	71	100.0%	35	100.0%



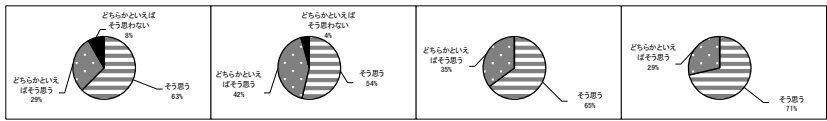
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している】

	10,000人以上		5,000人以上10,000人未満		1,000人以上5,000人未満		1,000人未満	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
① そう思う	10	27.8%	34	34.2%	24	31.9%	10	31.9%
② どちらかといえばそう思う	9	45.8%	32	45.2%	28	43.5%	21	43.5%
③ どちらかといえばそう思わない	4	22.2%	20	17.8%	17	23.2%	4	23.2%
④ そう思わない	1	4.2%	7	2.7%	2	1.4%	0	1.4%
計	24	100.0%	93	100.0%	71	100.0%	35	100.0%



【今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい】

	10,000人以上		5,000人以上10,000人未満		1,000人以上5,000人未満		1,000人未満	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
① そう思う	15	68.1%	50	76.7%	46	65.2%	25	65.2%
② どちらかといえばそう思う	7	30.6%	39	19.2%	25	34.8%	10	34.8%
③ どちらかといえばそう思わない	2	1.4%	4	4.1%	0	0.0%	0	0.0%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	24	100.0%	93	100.0%	71	100.0%	35	100.0%



2. 感想、ご意見、ご要望等（別紙参照）

3. 参加者ご自身について

【所属先1】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① SPOD加盟校	6	18	62.5%	37.5%	65	28	50.7%	49.3%	34	37	91.3%	8.7%	27	8	91.3%	8.7%
② SPOD加盟校外	18				28				3				3			
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

【所属先2】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 大学	24		100.0%		93		98.6%		70		60.9%		21		60.9%	
② 短期大学	0		0.0%		0		0.0%		0		37.7%		13		37.7%	
③ 高等専門学校	0		0.0%		0		0.0%		1		1.4%		1		1.4%	
④ その他	0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

【所属先の学生数】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 10,000人以上	24		20.8%		0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%	
② 5,000人以上10,000人未満	0		0.0%		93		79.2%		0		0.0%		0		0.0%	
③ 1,000人以上5,000人未満	0		0.0%		0		0.0%		71		0.0%		0		0.0%	
④ 1,000人未満	0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%		35		100.0%	
⑤ 該当なし	0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

【所属先の設置者】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 国(国立大学法人)	11		66.7%		65		23.3%		22		5.8%		5		5.8%	
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	1		0.0%		1		17.8%		13		7.2%		0		0.0%	
③ 学校法人	12		33.3%		27		58.9%		36		87.0%		30		87.0%	
④ その他	0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%		0		0.0%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

※その他：公益財団法人

【所属先の所在地】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 西国	6		62.5%		63		50.7%		34		92.8%		28		92.8%	
② 東北	1		1.4%		0		0.0%		0		2.9%		0		2.9%	
③ 関東	6		13.9%		17		5.5%		5		0.0%		0		0.0%	
④ 中部	2		4.2%		1		6.8%		8		0.0%		1		0.0%	
⑤ 近畿	7		11.1%		2		19.2%		9		0.0%		0		0.0%	
⑥ 中国	2		6.9%		8		9.8%		8		4.3%		4		4.3%	
⑦ 九州・沖縄	0		0.0%		1		5.5%		6		0.0%		2		0.0%	
⑧ 北海道	0		0.0%		1		1.4%		1		0.0%		0		0.0%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

【職種】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 教員	6		26.4%		26		19.2%		21		43.5%		19		23.2%	
② 職員	18		73.6%		67		80.8%		50		75.4%		16		75.4%	
③ その他	0		0.0%		0		0.0%		0		1.4%		0		1.4%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

※その他：教員と職員の兼任

【大学教職員等の経験年数】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 1~5年	1		18.1%		21		35.6%		21		43.5%		8		43.5%	
② 6~10年	4		15.3%		14		24.7%		8		14.5%		8		14.5%	
③ 11~20年	11		40.3%		29		27.4%		25		18.8%		12		18.8%	
④ 21~30年	6		16.7%		20		8.2%		14		11.6%		2		11.6%	
⑤ 31年以上	2		9.7%		9		4.1%		3		11.6%		5		11.6%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

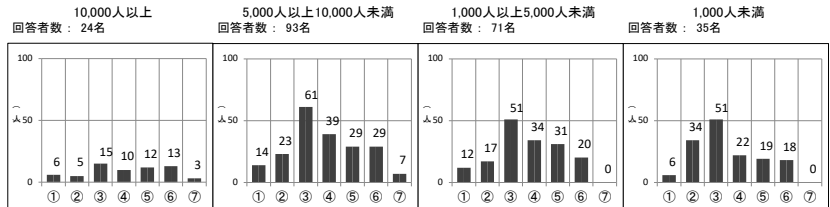
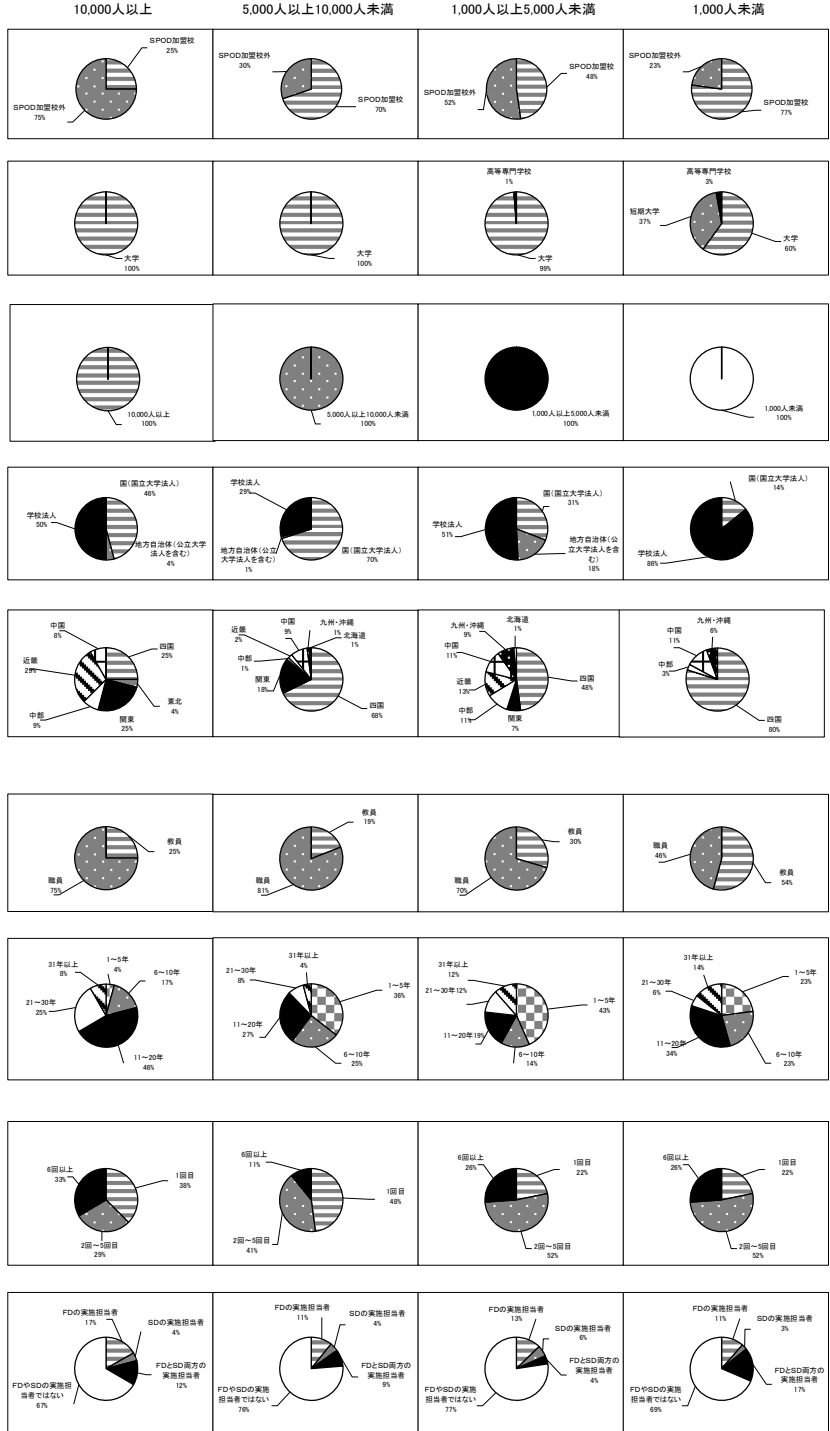
【SPODフォーラムへの参加回数】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 1回目	9		27.8%		44		47.9%		32		21.7%		12		21.7%	
② 2回~5回目	7		43.1%		41		41.1%		33		52.2%		18		52.2%	
③ 6回以上	8		29.2%		8		11.0%		6		26.1%		5		26.1%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

【あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか?】	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① FDの実施担当者	4		18.1%		10		13.7%		9		4.3%		4		4.3%	
② SDの実施担当者	1		5.6%		4		11.0%		4		10.1%		1		10.1%	
③ FDとSD両方の実施担当者	3		12.5%		8		6.8%		3		5.8%		6		5.8%	
④ FDやSDの実施担当者ではない	16		63.9%		71		68.5%		55		79.7%		24		79.7%	
計	24		100.0%		93		100.0%		71		100.0%		35		100.0%	

4. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか? (複数選択可)

	度数		割合		度数		割合		度数		割合		度数		割合	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
① 過去の参加者に参加をすすめられたため	6		25.0%		14		15.1%		12		16.9%		6		8.5%	
② 上司に参加をすすめられたため	5		20.8%		23		24.7%		17		23.9%		34		47.9%	
③ 自分自身の能力開発のため	15		62.5%		61		65.6%		51		71.8%		51		71.8%	
④ 組織の課題を解決するヒントを得るため	10		41.7%		39		41.9%		34		47.9%		22		31.0%	
⑤ 組織を越えた人脈づくりのため	12		50.0%		29		31.2%		31		43.7%		19		26.8%	
⑥ FDやSDに関する情報収集のため	13		54.2%		29		31.2%		20		28.2%		18		25.4%	
⑦ その他	3		12.5%		7		7.5%		0		0.0%		0		0.0%	
アンケート回答数	24				93				71				35			

- その他の記述内容
- ・ 講師を引き受けたため(2件)
 - ・ FDの一環として職員に誘われたため(1件)
 - ・ 自大学で開催されたため(1件)
 - ・ 参加必須の部署だったため(1件)
 - ・ 講師が元所属の方だったため(1件)
 - ・ ワークショップを実施するため(1件)
 - ・ 自大学のSD講師となるような方を探すため(1件)



SPODフォーラム2025全体アンケート集計結果(設置者別)

回答者数：224名 (回答率：45.5%)

国立：119名

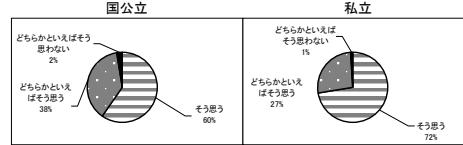
私立：105名

回答期間：9月22日(月)～10月6日(月) ※Googleフォームから回答

1. SPODフォーラムでの研修成果について

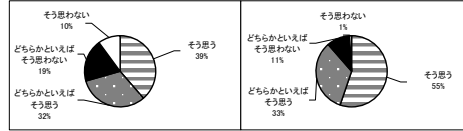
【SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった】

	国立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	71	59.7%	76	72.4%
② どちらかといえばそう思う	45	37.8%	28	26.7%
③ どちらかといえばそう思わない	3	2.5%	1	1.0%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



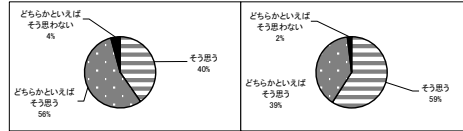
【所属組織を越えて人脈を広げることができた】

	国立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	46	38.7%	58	55.2%
② どちらかといえばそう思う	38	31.9%	35	33.3%
③ どちらかといえばそう思わない	23	19.3%	11	10.5%
④ そう思わない	12	10.1%	1	1.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



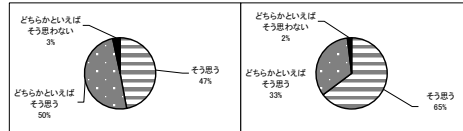
【自分に必要な知識やスキルを身につけることができた】

	国立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	48	40.3%	62	59.0%
② どちらかといえばそう思う	66	55.5%	41	39.0%
③ どちらかといえばそう思わない	5	4.2%	2	1.9%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



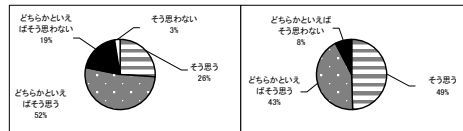
【業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった】

	国立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	56	47.1%	68	64.8%
② どちらかといえばそう思う	59	49.8%	35	33.3%
③ どちらかといえばそう思わない	4	3.4%	2	1.9%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



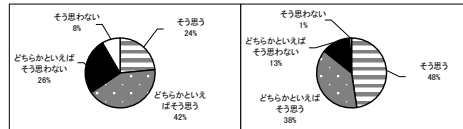
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している】

	国立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	31	26.1%	52	49.5%
② どちらかといえばそう思う	62	52.1%	45	42.9%
③ どちらかといえばそう思わない	23	19.3%	8	7.6%
④ そう思わない	3	2.5%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



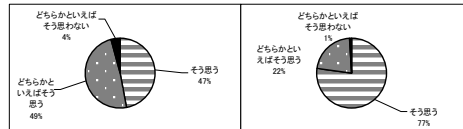
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している】

	国立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	28	23.5%	50	47.6%
② どちらかといえばそう思う	50	42.0%	40	38.1%
③ どちらかといえばそう思わない	31	26.1%	14	13.3%
④ そう思わない	10	8.4%	1	1.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



【今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい】

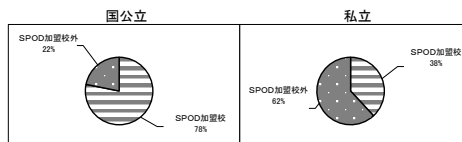
	国立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① そう思う	56	47.1%	81	77.1%
② どちらかといえばそう思う	58	48.7%	23	21.9%
③ どちらかといえばそう思わない	5	4.2%	1	1.0%
④ そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



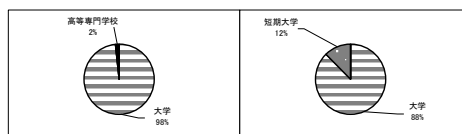
2. 感想、ご意見、ご要望等 (別紙参照)

3. 参加者ご自身について

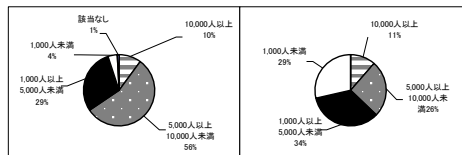
【所属先1】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① SPOD加盟校	93	78.2%	40	38.1%
② SPOD加盟校外	26	21.8%	65	61.9%
計	119	100.0%	105	100.0%



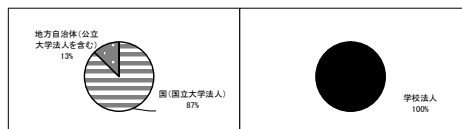
【所属先2】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 大学	117	98.3%	92	87.6%
② 短期大学	0	0.0%	13	12.4%
③ 高等専門学校	2	1.7%	0	0.0%
④ その他	0	0.0%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



【所属先の学生数】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 10,000人以上	12	10.1%	12	11.4%
② 5,000人以上10,000人未満	66	55.5%	27	25.7%
③ 1,000人以上5,000人未満	35	29.4%	36	34.3%
④ 1,000人未満	5	4.2%	30	28.6%
⑤ 該当なし	1	0.8%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%

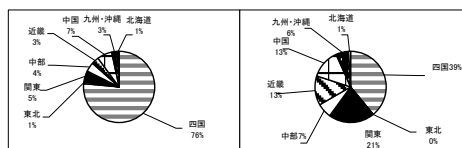


【所属先の設置者】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 国(国立大学法人)	104	87.4%	0	0.0%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	15	12.6%	0	0.0%
③ 学校法人	0	0.0%	105	100.0%
④ その他	0	0.0%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%

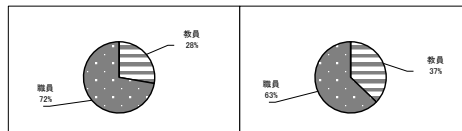


※その他：公益財団法人

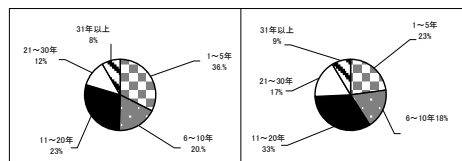
【所属先の所在地】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 四国	91	76.5%	41	39.0%
② 東北	1	0.8%	0	0.0%
③ 関東	6	5.0%	22	21.0%
④ 中部	5	4.2%	7	6.7%
⑤ 近畿	4	3.4%	14	13.3%
⑥ 中国	8	6.7%	14	13.3%
⑦ 九州・沖縄	3	2.5%	6	5.7%
⑧ 北海道	1	0.8%	1	1.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



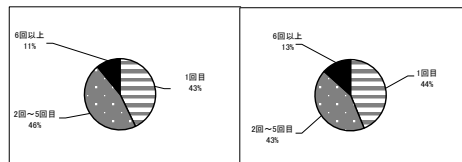
【職種】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 教員	33	27.7%	39	37.1%
② 職員	86	72.3%	66	62.9%
③ その他	0	0.0%	0	0.0%
計	119	100.0%	105	100.0%



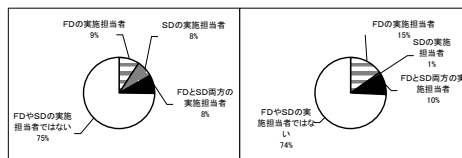
【大学教職員等の経験年数】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 1~5年	27	22.7%	24	22.9%
② 6~10年	16	13.4%	19	18.1%
③ 11~20年	42	35.3%	35	33.3%
④ 21~30年	24	20.2%	18	17.1%
⑤ 31年以上	10	8.4%	9	8.6%
計	119	100.0%	105	100.0%



【SPODフォーラムへの参加回数】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 1回目	51	42.9%	46	43.8%
② 2回~5回目	55	46.2%	45	42.9%
③ 6回以上	13	10.9%	14	13.3%
計	119	100.0%	105	100.0%

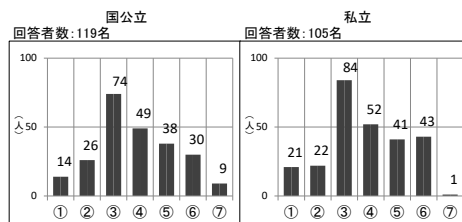


【あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？】	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① FDの実施担当者	11	9.2%	16	15.2%
② SDの実施担当者	9	7.6%	1	1.0%
③ FDとSD両方の実施担当者	10	8.4%	10	9.5%
④ FDやSDの実施担当者ではない	89	74.8%	78	74.3%
計	119	100.0%	105	100.0%



4. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？(複数選択可)

	国公立		私立	
	度数	割合	度数	割合
① 過去の参加者に参加をすすめられたため	14	11.8%	21	20.0%
② 上司に参加をすすめられたため	26	21.8%	22	21.0%
③ 自分自身の能力開発のため	74	62.2%	84	80.0%
④ 組織の課題を解決するヒントを得るため	49	41.2%	52	49.5%
⑤ 組織を越えた人脈づくりのため	38	31.9%	41	39.0%
⑥ FDやSDに関する情報収集のため	30	25.2%	43	41.0%
⑦ その他	9	7.6%	1	1.0%
アンケート回答数	119		105	



その他の記述内容

- ・講師を引き寄せたため(2件)
- ・FDの一環として職員に誘われたため(1件)
- ・自大学で開催されたため(1件)
- ・参加必須の部署だったため(1件)
- ・講師が元所属の方だったため(1件)
- ・ワークショップを実施するため(1件)
- ・自大学のSD講師となるような方を探すため(1件)

② 第21回大学教育カンファレンス in 徳島

日 時：令和7年12月26日（金）
場 所：徳島大学常三島キャンパス（一部オンライン配信）
主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）／徳島大学
参 加 費：無料
申 込 者 数：138名（対面参加99名、オンライン参加39名）

大学教育カンファレンス in 徳島とは

これまでの教育活動の成果を検証し、教育実践研究を充実・発展させる機会となるよう、SPOD加盟校や他の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取組を共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認する。

特徴

1. 口頭発表、ポスター発表、ワークショップ形式による研究発表を受け付ける
2. 特別講演及びディスカッションを実施する
3. 発表抄録集を作成し公開する (<https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/reform/fd/docs/70017.html>)

実施内容及び成果

令和7年度も島大学常三島キャンパスを会場として実施し、口頭発表、特別講演、ディスカッションについては、オンライン配信を行うハイブリッド型で実施した。オンラインについては、1つのアカウント内にZoomのブレイクアウトルーム機能を活用して、発表会場ごとにルームを設置し、参加者は自由にルーム間を移動できるように設定した。参加者138名のうち、39名がオンラインでの参加であった。オンライン配信の運営については、3年目を迎え、これまでに蓄積されてきた運営に関するノウハウをもとに、想定される対応事項を担当者間で共有し、動作確認を行い、ハイブリッド形式でのカンファレンスの運営に備えた。

特別講演では、京都大学大学院教育学研究科の佐藤万知氏による「SA・TAと共に授業経験を作るとは」と題した講演が行われた。特別講演後には、指定討論者として愛媛大学教育・学生支援機構の上月翔太氏より、「授業全体を「実践共同体」と捉え得るのではないか」という質問や、「シラバス作成など授業設計に指導補助者がいる重要性」などのコメントが提示された。さらに徳島大学FD委員会委員長の南川慶二教授も加わり、会場からの質問に回答するディスカッションを展開した。参加者は匿名で質問を投稿することができるLearn Wiz oneを活用し、対面会場及びオンラインから11件もの質問が寄せられた。ディスカッションでは、SAやTAとの関わり方や今後の徳島大学における指導補助者制度の在り方について意見交換が行われた。

カンファレンスでは、参加者を対象にカンファレンス終了後にアンケートを実施しており、70名から回答を得た（回収率51%）。「a. 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた」、「b. 参加したことによって業務の取り組み方が改善されると思う」という設問について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答をした参加者が80%以上である。「c. 研究発表や各プログラムの内容を十分に理解できた」という設問については90%以上であり、過去3年間に引き続き肯定的な回答を

得ている。これは研究発表の内容や特別講演のテーマ設定が参加者のニーズや興味に合致していること、研究発表者の研究が興味深く、発表が工夫されていたことなどが要因の一つにあると考える。今後も、多彩で魅力的な研究発表の投稿につなげていくためにも、引き続きカンファレンスのプレゼンスを高める努力をしていくことが必要である。「d. 他の参加者との交流を深めることができた」については、過去3年間の中では最も高く、肯定的な回答が60%を超えた。対面参加者に限ってみると約83%が肯定的な回答をしており、徐々に改善されていくと感じる。

「有益であったプログラムをすべて選択してください（複数選択）」では、すべてのプログラムで選択率が70%以上であることから、参加者にとって有益な内容を提供できていたと推察できる。「e. 特別講演の内容は興味深かった」という設問においても、未回答の参加者を除くと（未回答の参加者は特別講演に参加していないとみなす）、全員が肯定的な回答をしており、テーマ設定や内容、講師が魅力的であったことが窺える。自由記述では「TA SAは講義を通して育てることを目標にしない方がいい、良い授業をすることこそが重要でその過程で育っていくことがよいのではないか、という示唆をいただけた」との意見があり、今後の指導補助者研修や制度について参考となる示唆が与えられたことが分かる。「f. カンファレンスは全体的に満足できるものだった」については、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が90%を超えており、多くの参加者にとって満足できるカンファレンスであったものと推察できる。

最後に、自由記述を見てみると、参加して良かったと思われる点として、新しい発見があった、新たな視点を得ることができた、新鮮であったという意見が多く得られた。次いで、参加者同士のコミュニケーションや情報発信ができた、コメントをいただけたという意見が多く挙げられた。本カンファレンスは、「専門分野」における学会や研究会とは違い、「教育」という共通点のもとに、大学を超えて、立場の違う教職員や学生が集い、さまざまなタイプの教育実践等の発表が行われるという特徴がある。これによって、参加者は、普段は見聞きすることがない情報や実践、視点などに触れることができ、新しい知見を得ることにつながったと考えられる。また、発表者と参加者との距離も近く、意見交換がお互いにしやすい雰囲気であったことも窺える。一方で、課題として、参加者の少なさ、広報の課題が指摘されている。主催者としても、その点は十分に認識しており、次年度に向けて、新たな取組を取り入れていくなど、具体的な改善策を出していきたいと思う。テーマのニーズについては、生成AIに関するものがいくつか挙げられていた。生成AIは、近年急速に技術が進展しており、教育においても重要な課題であると考えられる。次年度の特別講演のテーマとして有力候補になると考える。その他、参加者全員への名札（ネームホルダー）の提供、資料の事前配付や送付などの意見もあった。今回挙げられた意見を踏まえて、次年度以降のカンファレンスの運営につなげていきたい。



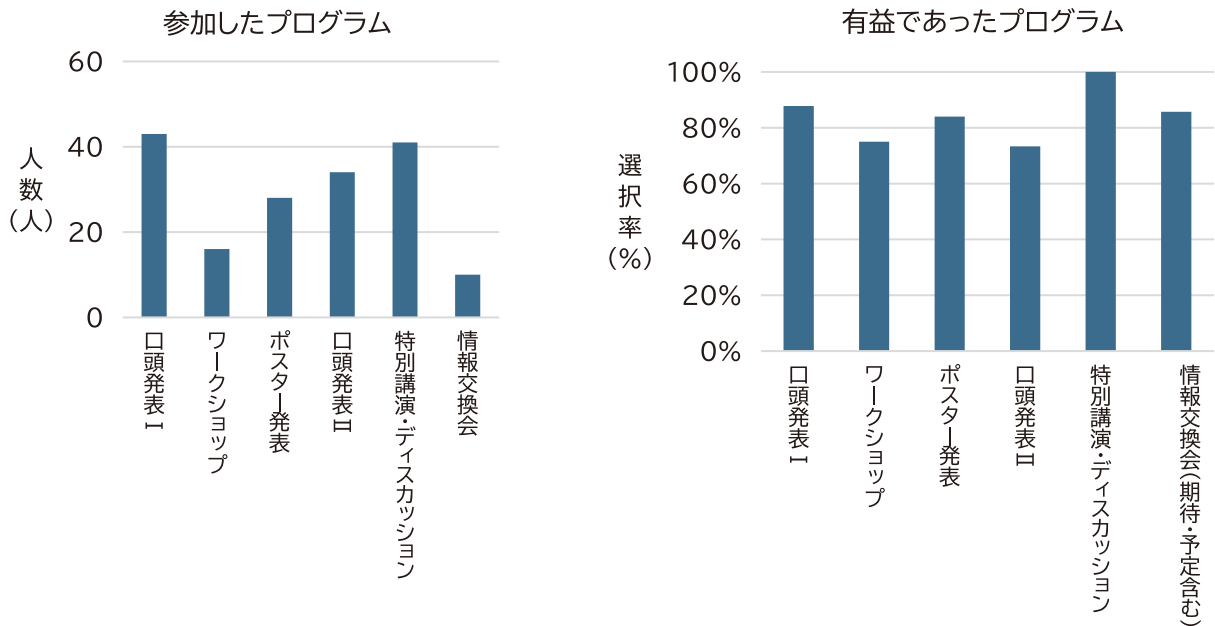


図 6 大学教育カンファレンスで参加したプログラムについて

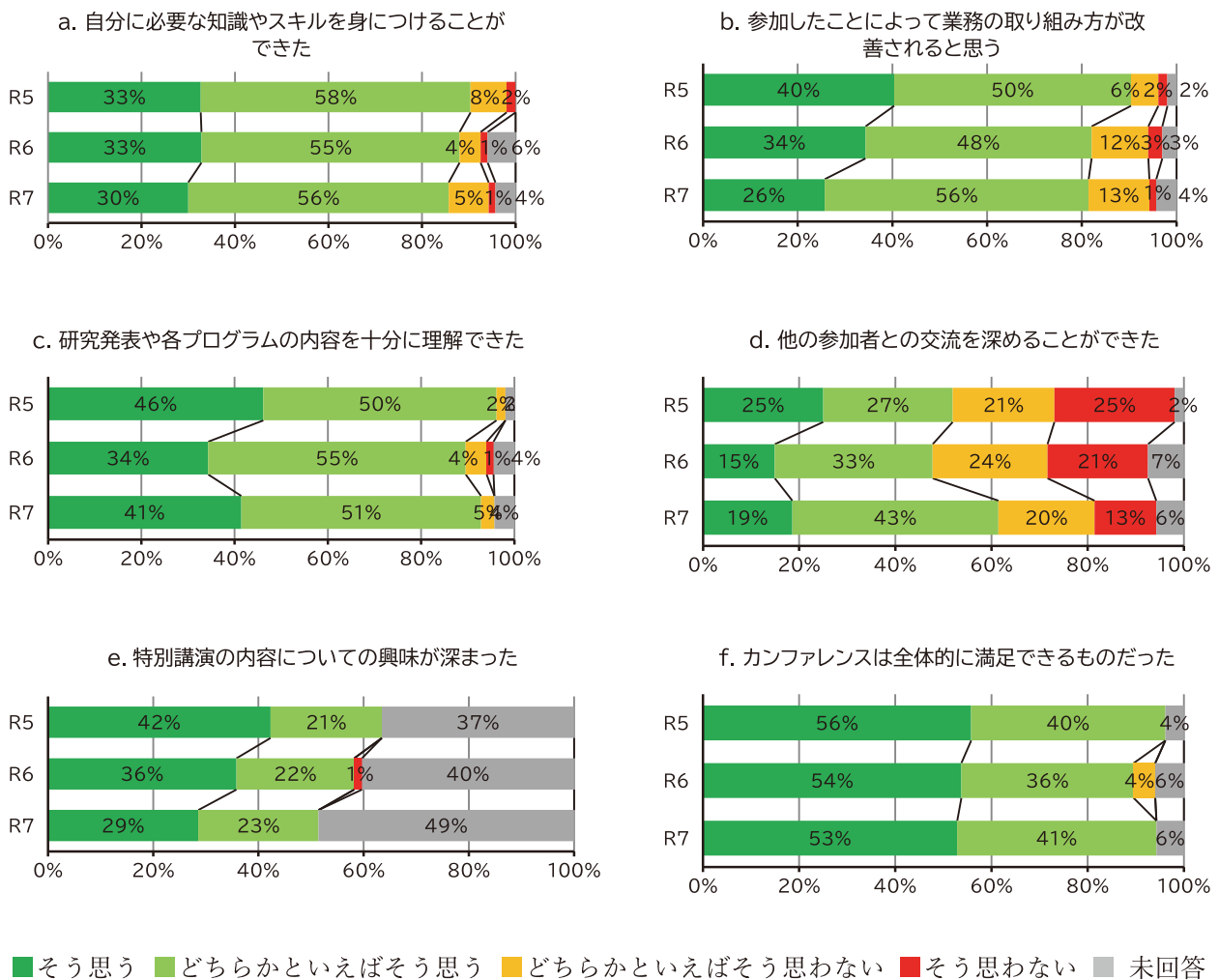


図 7 大学教育カンファレンスで参加したプログラムについて

出典：大学教育研究ジャーナル第23号「2025年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告」p.55より

③ SPOD内講師派遣

各加盟校が希望するプログラムについて、SPODから担当講師を年1回（1法人あたり年1回、高等専門学校は1校1回）派遣するSPOD内講師派遣事業を実施し、加盟校内の講師12名を36機関に派遣した。本事業により、FD・SD担当専任教員等の配置が困難な小規模校においても、自校で各種研修プログラムの開講が可能となっている。74の多岐にわたるプログラムを取り揃えており、派遣プログラム決定にあたっては、希望プログラムを選択した経緯や今後の各校のFD・SD活動の見通し、研修の目的や目標等について事前に調査を実施している。各加盟校におけるFD・SD活動等の方針に沿った活用ができることから、各加盟校からの評価も高く、組織等に与える影響も大きいと考えられる。

今年度の受講者は1,253名であった。ほとんどのプログラムは対面開催であったが、オンライン開催の場合は、当日の参加以外に事後の録画視聴などを通じて、多くの教職員の受講を促している加盟校もあった。

開催日	プログラム名	開催校	対象	講師所属校	講師	開催形式	受講者数		参加校数
							対面	遠隔	
2025年6月6日(金)	大学の授業と著作権	高知リハビリテーション専門職大学・高知学園大学・高知学園短期大学	学内限定	高知大学	高畑 貴志	遠隔	38	18	3
2025年6月27日(金)	教学の基礎と政策動向	徳島大学	学内限定	愛媛大学	真鍋 亮	対面	40	0	1
2025年7月3日(木)	学生の主体性を促す学習支援	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	学内限定	香川大学	蝶 慎一	対面	47	0	1
2025年7月4日(金)	大学教職員の倫理－学生との関係を省察する	徳島工業短期大学	SPOD加盟校開放	愛媛大学	上月 翔太	対面	21	0	2
2025年7月18日(金)	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	岡山理科大学獣医学部	学内限定	香川大学	蝶 慎一	対面	17	0	1
2025年7月29日(火)	組織の力を引き出す観察力養成講座	愛媛県立医療技術大学	学内限定	愛媛大学	仲道 雅輝	対面	37	0	1
2025年7月31日(木)	事例から考えるハラスメント	今治明德短期大学	学内限定	愛媛大学	高木 佳代子	対面	27	0	1
2025年7月31日(木)	授業構成を考えるためのインストラクショナルデザイン	弓削商船高等専門学校	学内限定	愛媛大学	仲道 雅輝	対面	42	0	1
2025年8月4日(月)	アカデミック・アドバイジング入門	高知工業高等専門学校	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	30	0	1
2025年8月18日(月)	学生の文章力をいかに高めるか－ライティング指14導を改善する	香川県立保健医療大学	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面	31	0	1
2025年8月26日(火)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	鳴門教育大学	学内限定	愛媛大学	阿部 光伸	対面	21	0	1
2025年9月1日(月)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	高知大学	県内のSPOD加盟校開放	愛媛大学	阿部 光伸	対面	31	0	3
2025年9月1日(月)	大学教職員の倫理－学生との関係を省察する	人間環境大学松山看護学部、総合心理学部および総合環境学部	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面	56	0	1
2025年9月2日(火)	高等教育機関の職員に必要な能力と専門性	香川短期大学	学内限定	人間環境大学	吉田 一恵	対面	42	0	1
2025年9月8日(月)	これからの教職協働	高知工科大学・高知県立大学	学内限定	愛媛大学	真鍋 亮	対面	38	0	2
2025年9月8日(月)	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	学内限定	香川大学	西本 佳代	対面	51	0	1
2025年9月10日(水)	職員のためのわかりやすい説明入門	香川大学	SPOD加盟校開放	愛媛大学	上月 翔太	対面	34	0	3
2025年9月10日(水)	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	学内限定	愛媛大学	真鍋 亮	遠隔	0	35	1
2025年9月10日(水)	これからの教職協働	高松大学・高松短期大学	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	59	0	1
2025年9月11日(木)	大学の授業と著作権	四国大学・四国大学短期大学部	県内のSPOD加盟校開放	高知大学	高畑 貴志	遠隔	0	141	2
2025年9月16日(火)	職員のためのわかりやすい説明入門	香川高等専門学校	SPOD加盟校開放	愛媛大学	上月 翔太	対面	23	0	4
2025年9月25日(木)	これからの教職協働	高知健康科学大学	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	18	0	1
2025年9月26日(金)	発達障がいのある学生に配慮した授業づくり	阿南工業高等専門学校	県内のSPOD加盟校開放	愛媛大学	三浦 優生	対面	44	5	1
2025年10月1日(水)	大学教職員として知っておきたい高等教育論入門	せとうち観光専門職短期大学	学内限定	愛媛大学	真鍋 亮	対面	18	0	1
2025年10月28日(火)	事例から考えるハラスメント	松山大学・松山短期大学	学内限定	愛媛大学	高木 佳代子	対面 動画視聴	62	170	1
2025年11月27日(木)	学生の文章力をいかに高めるか－ライティング指導を改善する	新居浜工業高等専門学校	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面	44	0	1
2026年1月23日(金)	試験問題・レポート課題の作り方	愛媛大学	県内のSPOD加盟校開放	徳島大学	飯尾 健	遠隔	0	13	6

④ FD・SDに関する調査研究

FD専門部会においては、SPOD将来構想のFDの方針に基づきチームを結成し、各チームがプロジェクトの実現に向けて調査研究や定期的なミーティングを実施している。今年度はSPODフォーラム2025のポスターセッションでの研究発表や、分野別FDプログラムの開発・実施を行うなど、各チームの取り組みを加盟校内外に還元することができた。各種試行をもとにしたプログラムの実践や調査結果の分析・共有を通じて、SPODにおけるFDの更なる発展が今後期待される。

SD専門部会においては、SPOD将来構想のSDの方針に基づく取組を行っている。今年度は、職員のキャリア段階に応じた能力育成の基準となる「SPOD-SD能力育成ルーブリック」を作成し、これをもとに新たな研修体系およびレベル別研修プログラムの再構築を目指している。その一環として12月には大学職員の仕事に関心がある学生向けイベント「プレSD大学職員のリアル」を実施した。今後は、加盟校へのヒアリングやSD設計に関するワークショップを実施し、そこで得られた意見を参考に研修プログラムを策定していく予定である。

⑤ 情報提供サービス

SPODでは、活動内容やその成果の周知のため「研修プログラムガイド」「活動報告書」「ホームページ更新・管理、メールマガジンの発行」等を中心に情報提供を行っている。また、愛媛大学がYouTubeで運営している「愛媛大学FD・SDチャンネル」では、過去のSPODフォーラムの様子を公開しているほか、FD専門部会のプロジェクトの一環として、各コア校が作成したオンラインFD・SDコンテンツを取りまとめた「FD・SDコンテンツサイト」をSPODホームページ上に公開した。

1) 研修プログラムガイド2025の発行

SPODでは、加盟校内で開催され、かつ加盟校教職員が相互に参加可能なFD・SDプログラムを網羅的に掲載した研修プログラムガイドを毎年発行し、ホームページに公開している。これにより、各加盟校の教職員は、自身の希望するプログラムを計画的に受講することができる。

2) 令和7年度SPOD活動報告書の発行

当該年度のSPOD事業の活動をまとめた「SPOD活動報告書」を毎年作成し、ホームページで公開している。また、本報告書を基に、SPOD事業評価委員による今年度の事業評価を行った。

3) ホームページ更新・管理、メールマガジンの発行

各種プログラムの開催情報や研修資料、会議の議事概要や資料等をSPODホームページへ掲載した。また、研修等のイベントやSPODに関する各種情報などについて発信を行うSPODメールマガジンを、約300名（全加盟校SPOD事務担当者を含む）の登録者に向けて配信した。さらに、加盟校からのイベント等の開催案内を、加盟校内においてメール等で情報共有するなど、ネットワークを活かした情報発信を行っている。

今年度からリニューアルしたホームページを公開し、イベント情報の発信や動画コンテンツの充実を図っている。

4) SPODフォーラムやFD/SD動画の公開

過去のSPODフォーラムのダイジェスト及び一部のプログラムの動画を愛媛大学FD・SDチャンネル」に公開しており、これまで合計6,600回以上視聴されている。また、FD専門部会が作成したFD・SDコンテンツサイトについては、全国の高等教育機関教職員の利用を推進するため、ホームページへの掲載やメールリスト等を通じて全国の高等教育機関に周知を行った。



(2) FD事業

① FD担当者研修

FDを企画・運営・評価するために必要となる基礎的な知識と技能の習得を目的として、「自大学のFDを発展させるための評価と改善」を実施した。本研修はSPODフォーラムのプログラムとして実施し、全国から26人の教員が参加した。また、分野別FD担当者研修として「保育・幼児教育分野のためのFDを企画しよう」を実施するとともに、指導補助者養成を目的としたプレFD担当者研修「指導補助者(TA)研修・プレFDプログラムをどう立ち上げるか？」を実施した。



SPOD フォーラム 2025 実施時の様子

② 新任教員研修

本研修は、各コア校が主催する新任教員研修のどれを受講しても同様の効果を得られるよう、コア校間でプログラムを標準化している。今年度は、加盟校5校から65人(国立大学4校62人、公立大学1校1人、私立大学2校2人)の教員が参加し、満足度は98.3%であった。

日程	プログラム名	開催校	受講者数	参加校数 (延べ)	満足度 (%)
6月14日(土)～15日(日)	授業デザインワークショップ	愛媛大学	11	2	100
8月21日(木)～22日(金)	授業設計ワークショップ	徳島大学	21	2	95.2
9月3日(水)～4日(木)	学生の学びを支援する授業準備ワーク	高知大学	18	1	100
9月4日(木)～5日(金)	よりよい授業のためのFDワークショップ	香川大学	15	2	100
			65	7	98.3

標準化された本プログラムは、授業設計やシラバスの作成方法について主にグループワーク形式で学ぶものである。本プログラムは新任教員以外も受講が可能であり、自身の授業を見直すきっかけになるとともに授業改善に役立つ内容となっている。受講者からは「学生の思考を促す授業デザインを考えることができた。」「ワークや模擬授業、意見交換を通じて、参加者自身がこれまでの授業を振り返り、改善すべき点を把握できた。」等のコメントがあった。

また、徳島大学開催の「授業設計ワークショップ」では、講義部分を事前に動画教材で学習し、事前課題を提出後に研修に参加するという「反転授業」形式を取り入れている。講義時間の短縮に加え、事前に研修の目的や内容を理解した上で参加できるため、受講者からも効率的に受講できるとの声がある。



③ ティーチング・ポートフォリオ研修

愛媛大学で「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催し、愛媛大学から12人が参加し、満足度は100%であった。

受講後のアンケートでは、「自身の教育活動の根底にある教育理念について改めて考えることができ、これまでの自身の教育活動の良かった点、改善点などを客観的に捉え直すことができた」「ティーチング・ポートフォリオの理解と自分が持つ教育に対する考えを内省できた」等のコメントがあり、参加者の今後の教育活動にとって有益なものになっていることが窺える。本研修は、今後のワークショップで必要となるメンターの育成も目的の一つとしており、受講者のメンタリングスキル習得のためのプログラムも兼ねている。

また、徳島大学ではワークシートで教育活動の振り返り、教育理念を明確にするティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ及びティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを開催し、徳島大学及び高知県立大学から3人が参加した。



日 程	プログラム名	開催校	受講者数	参加校数 (延べ)	満足度 (%)
9月3日(水)	ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ	徳島大学	1	1	100
9月3日(水)～5日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	徳島大学	2	1	100
9月4日(木)～5日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	12	1	100
			15	3	100

④ 各種FDプログラムの開発・実施

過去のアンケート結果や教育現場の課題を踏まえ、アクティブ・ラーニングや学習評価、シラバス作成法、講義法等多岐にわたるプログラムを開講した。研修の多くは対面で実施しているが、オンデマンド教材やオンライン掲示板での意見交換など非同期の学習を組み込み、研修の効率化や会場での応用・実践に重点を置いて実施しているプログラムもある。また、徳島大学、香川大学、高知大学の3校合同で、オンラインセミナーを木曜日の昼休みの時間帯に定期的で開催しており、その気軽さから年々参加者数が増加している。

FD専門部会では、コア校が開発したFDに関する動画や資料を取りまとめたサイトを運用しており、全国どこからでもSPODのFDコンテンツにアクセスすることができる。

新任教員研修プログラムの基準枠組対応表

国立教育政策研究所が作成した 新任教員研修プログラムの基準枠組		実施 区分	徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
学習領域	学習目標		研修名:授業設計ワークショップ	研修名:よりよい授業のための FDワークショップ	研修名:授業デザインワークショップ	研修名:学生の学びを支援する 授業準備ワークショップ
			日程:2日間	日程:2日間	日程:2日間	日程:2日間
1. 大学コミュニ ティについての 理解	1-1 大学に関する 基礎知識を得る。	各大学	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション
	1-2 同僚とのコ ミュニケーションをと る。	共通	「授業設計ワークショップ」研修全体を通して	「よりよい授業のためのFDワークショップ」 研修全体を通して	「授業デザインワークショップ」 研修全体を通して	「学生の学びを支援する授業準備ワークショ ップ」 研修全体を通して
2. 授業のデザイ ン(目標設定、 実施計画、成績 評価)	2-1 授業デザイ ンのための基礎知 識を得る。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 講義・ワーク「授業計画」	グループワークⅠ「学生の考える良い授業」 講義Ⅰ「シラバスの書き方」	事前学習「シラバス作成」 ミニ講義「授業設計」 ミニ講義「授業実践」 ミニ講義「学習評価」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 ミニレクチャーⅠ「目標設定と授業計画、シラバ スの書き方」 ミニレクチャーⅡ「成績評価」 ミニレクチャーⅢ「様々な授業方法と授業の工 夫」
	2-2 授業デザイ ンのためのスキルを 修得する。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 講義・ワーク「授業計画」	グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピ ア・レビュー」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発①」
3. 教育の実践	3-1 教育実践に 関する基礎知識を 習得する。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	講義Ⅱ「学生参加型授業の技法」	事前動画「アクティブラーニング」 ミニ講義「授業実践」 ミニ講義「大学教員の倫理」	ミニレクチャーⅢ「様々な授業方法と授業の工 夫」
	3-2 学習者中心 の授業および学習 支援を実現し、学生 の学びを促進する。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「自身の教育理念」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
	3-3 学生と適切 なコミュニケーション をとる。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 ワーク「自身の教育理念」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	講義Ⅱ「学生参加型授業の技法」 グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	事前動画「アクティブラーニング」 ミニ講義「授業実践」 ミニ講義「大学教員の倫理」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
4. 成績の評価、 フィードバック	4-1 教育の評価 やフィードバックに 関する基礎知識 を得る。	共通	事前学習教材「2: 評価」 ワーク「授業設計の基本」 模擬授業実施	講義Ⅲ「よりよい学習評価のために」	ミニ講義「学習評価」 ミニ講義「大学教員の倫理」	ミニレクチャーⅡ「成績評価」
	4-2 適切な成績 評価およびフィード バックを行う。	共通	事前学習教材「2: 評価」 ワーク「授業設計の基本」 模擬授業実施	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピ ア・レビュー」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
5. 教育活動の 自己改善・キャリ ア開発、教育開 発	5-1 授業改善・ キャリア開発や教育 開発に関する基礎 知識を得る。	共通	ワーク「自身の教育理念」 模擬授業準備、実施 模擬授業の振り返り プログラムのまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピ ア・レビュー」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
	5-2 自己改善・ キャリア開発や教育 開発のためのスキル を修得する。	共通	ワーク「自身の教育理念」 模擬授業準備、実施 模擬授業の振り返り プログラムのまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピ ア・レビュー」 「模擬授業」 振り返り	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」

令和7年度SPOD FD、FD・SD共通、プレFDプログラム

令和8年3月1日現在

FD事業

新任教員研修

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度 %
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
6月14日(土)・15日(日)	授業デザインワークショップ(第39回)	愛媛大学	12	0	12	12	0	0	12	0	100.0
8月21日(木)・22日(金)	授業設計ワークショップ	徳島大学	21	0	21	21	0	0	2	0	95.2
9月3日(水)・4日(木)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	18	0	18	18	0	0	1	0	100.0
9月4日(木)・5日(金)	よりよい授業のためのFDワークショップ	香川大学	15	0	15	15	0	0	2	0	100.0

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度 %
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
9月3日(水)	ティーチング・ポートフォリオチャート作成ワークショップ	徳島大学	1	0	1	1	0	0	1	0	100.0
9月3日(水)～5日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	徳島大学	2	0	2	2	0	0	1	0	100.0
9月4日(木)・5日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成・更新ワークショップ	愛媛大学	12	0	12	12	0	0	1	0	100.0

その他FD、SD、FD/SD共通、総合プログラム

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度 %
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
4月10日(木)	合理的配慮が必要な学生への支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	80	80	70	10	0	0	13	97.5
4月17日(木)	合理的配慮が必要な学生への支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	79	79	66	13	0	0	16	100.0
4月23日(水)	会議マネジメント	愛媛大学	13	0	13	13	0	0	3	0	100.0
5月8日(木)	自己調整学習の視点からオンデマンド型授業を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	84	84	73	11	0	0	12	100.0
5月15日(木)	自己調整学習の視点からオンデマンド型授業を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	77	77	68	9	0	0	11	96.4
6月4日(水)	授業設計の方法	愛媛大学	16	0	16	15	0	1	2	0	100.0
6月10日(火)	学習評価の基本	愛媛大学	10	0	10	10	0	0	2	0	100.0
6月12日(木)	授業時間外学習を促す授業設計 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	83	83	69	12	2	0	15	100.0
6月17日(火)	アクティブラーニング入門セミナー	愛媛大学	8	0	8	8	0	0	2	0	100.0
6月18日(水)	大人教講義法の基本	愛媛大学	13	0	13	13	0	0	3	0	100.0
6月19日(木)	授業時間外学習を促す授業設計 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	84	84	75	8	1	0	15	96.2
7月10日(木)	学習評価の原則と方法 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	67	67	60	6	1	0	14	100.0
7月17日(木)	学習評価の原則と方法 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	62	62	56	5	1	0	16	100.0
8月1日(金)	大学の危機管理－ハラスメント対応	愛媛大学	19	0	19	15	4	0	5	0	100.0
8月1日(金)	学生面談の方法	愛媛大学	20	0	20	20	0	0	4	0	100.0
9月2日(火)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン －考え方と進め方－	高知大学	15	0	15	15	0	0	3	0	100.0
9月3日(水)	高等教育政策論	愛媛大学	13	0	13	9	4	0	3	0	92.3
9月11日(木)	eラーニング活用(入門編)－学習支援システムMoodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう－	愛媛大学	7	0	7	7	0	0	3	0	85.7
9月11日(木)	通信制大学の学びから対面授業の意義を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	49	49	42	6	1	0	9	90.9
9月16日(火)	動画教材作成法	愛媛大学	10	0	10	10	0	0	10	0	100.0

その他FD、SD、FD/SD共通、総合プログラム

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加枚数		満足度 %
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
9月17日(水)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 －課題分析図の活用－	愛媛大学	2	0	2	2	0	0	1	0	100.0
9月17日(水)	ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計	愛媛大学	2	0	2	2	0	0	1	0	100.0
9月18日(木)	通信制大学の学びから対面授業の意義を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	49	49	45	4	0	0	10	92.3
9月25日(木)	多様化するTAおよびTFの最新動向と授業での協働	香川大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0
9月25日(木)	充実させよう！アクティブラーニング型授業 －話し合い・教えあいの技法	香川大学	5	0	5	5	0	0	3	0	100.0
9月26日(金)	充実させよう！アクティブラーニング型授業 －図解・文章作成の技法	香川大学	5	0	5	5	0	0	3	0	100.0
9月26日(金)	充実させよう！アクティブラーニング型授業 －問題解決の技法	香川大学	6	0	6	6	0	0	3	0	100.0
9月26日(金)	事例から学ぶ問題発見・解決型授業のコツ	香川大学	5	0	5	5	0	0	2	0	100.0
10月9日(木)	学生の学習への動機づけを高める授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	82	82	74	8	0	0	12	100.0
10月16日(木)	学生の学習への動機づけを高める授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	79	79	71	7	1	0	11	100.0
11月13日(木)	学生の能動的な学びを促すチーム基盤型学習 TBL 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	84	84	74	10	0	0	15	96.4
11月20日(木)	学生の能動的な学びを促すチーム基盤型学習 TBL 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	56	56	51	5	0	0	13	100.0
12月2日(火)	シラバス作成ワークショップ	愛媛大学	0	8	8	8	0	0	0	3	100.0
12月11日(木)	授業へのAIの活用 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	115	115	115	0	0	0	17	100.0
12月18日(木)	授業へのAIの活用 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	104	104	104	0	0	0	18	100.0
12月25日(木)	学生の学びを促すシラバスの書き方	香川大学	5	0	5	5	0	0	2	0	100.0
12月25日(木)	学生参加型授業の技法	香川大学	5	0	5	5	0	0	2	0	100.0
12月25日(木)	基礎から学ぶ学習評価法	香川大学	5	0	5	5	0	0	2	0	100.0
12月26日(金)	シラバス・授業を改善しよう！	香川大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0
1月8日(木)	学生が自ら考え主体的に学習するための授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	90	90	83	7	0	0	15	95.2
1月15日(木)	学生が自ら考え主体的に学習するための授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	82	82	72	10	0	0	16	100.0
1月23日(金)	試験問題・レポート課題の作成	愛媛大学	0	13	13	13	0	0	0	6	90.9
2月2日(月)	グループワークのためのファシリテーション入門	高知大学	10	0	10	10	0	0	4	0	100.0
2月2日(月)	新任教員のためのリフレクションセミナー	高知大学	21	0	21	21	0	0	4	0	100.0
2月3日(火)	学生の主体的な学びを促す非同期型オンライン授業	高知大学	11	0	11	11	0	0	3	0	100.0
2月5日(木)	社会人大学院生の学びと支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	59	59	52	7	0	0	12	92.3
2月12日(木)	社会人大学院生の学びと支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	55	55	47	8	0	0	12	100.0
2月18日(水)	留学生とのコミュニケーション	愛媛大学	2	0	2	2	0	0	1	0	100.0

(3) SD事業

① 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム

今年度実施した「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（新任、レベルⅠ～Ⅲ）」の研修では、加盟校17校から合計253人（国立大学5校182人、公立大学3校11名、私立大学・短期大学7校53人、高等専門学校2校7名）の職員が参加した。



このうち、5月に愛媛大学主催で開催された新任職員研修は、四国地区の国公立大学等の新任職員が集まる研修で、四国4県の持ち回りで毎年実施している。本研修は、職員として必要な基礎知識の習得だけでなく、設置形態を越えた職員間の相互交流・関係づくりの場を提供することも目的としており、受講者からは、「大学を取り巻く外的要因は早いスピードで変化しているため、常に将来どうなるかを考えながら考え、働くことが重要だと気付くことができたので、実務に生かしていきたい。」「常に学ぶ姿勢を持ち、他部署の業務にも関心を持つことや、物事の良い面を考えてストレスに対処するといった、自分が業務に取り組む上でできていないことを学ぶことができた。」「他県の職員の方ともたくさん関わることができたり、悩んでいることを相談できたりする機会が設けられていたため、少し不安を解消することができた。」等のコメントが多数寄せられた。

また、係長、主任相当級の職員を対象とするレベルⅡは、例年、受講希望者が多く、受講希望者のニーズに応えるため、今年度も6月と11月の2回開催し、あわせて64人が参加した。なお、11月の2回目は、次世代リーダー養成ゼミナール（第4回）と同時開催した。講義では、実際に企画書を作成したり、身近な事例をもとにグループで意見交換し発表資料を作成したりするなど、実務的なワークを多数行った。受講者からも「批判的思考、部下・後輩とのコミュニケーションのとり方、企画作成における注意点など、職場で実践できそうな学びが多くあった。」「他大学・他部署の情報収集ができるとともに、自分の考えや環境を改めて見直すきっかけになった。」等、中堅職員としての自身のスキルや実践的な内容における気づきに関するコメントが多くみられた。

■大学人・社会人としての基礎力養成プログラム

日 程	プログラム名	開催場所	受講者数	参加校数	満足度 (%)
5月14日(水)～16日(金)	新任職員	愛媛県内	115	12	98.1
6月19日(木)～20日(金)	レベルⅡ(1回目)	香川大学	37	11	100.0
10月2日(木)～3日(金)	レベルⅢ	愛媛大学	34	12	96.9
10月30日(木)～31日(金)	レベルⅠ	愛媛大学	40	13	97.3
11月20日(木)～21日(金)	レベルⅡ(2回目)	愛媛大学	27	11	100.0
合 計			253	59	98.3

② 次世代リーダー養成プログラムの実施

「次世代リーダー養成ゼミナール」は、将来、所属大学のトップリーダーや高等教育界のリーダーとして大学等の経営を担うために必要な知識、技能、態度を身につけた人材を養成することを目的としている。今年度は、14期生6人（国立大学3校4人、公立大学1校1人、私立大学1校1人）で実施した。プログラムは「講義」「プロジェクト」「SD実践・演習」の3つの柱で構成されており、受講生には主体的・自主的に学ぶ姿勢が求められる。ゼミナールを修了するためには、毎回課されるレポートやプレゼンテーション課題をこなす必要があり、各自が企画したプロジェクトの実施とそのレポート作成も含まれる。受講した翌年度の第1回次世代リーダー養成ゼミナール第1回には、前年度修了生のプロジェクト及びSDプログラムの発表会を実施することとしている。また、開催県の大学に在籍している修了生に、プログラムの視察及び受講生へのアドバイスを依頼することにより、交流の機会を確保した。



今期6人が修了したことにより、本ゼミナール修了生は96人となった。修了生は、ゼミナールの経験を活かし、各所属機関で責任あるポストに配属されて様々な業務の企画・実施を行ったり、SPODや学内外の研修講師を務めたりしている。また、積極的に「SPOD-スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（以下、SPOD-SDC）」の資格を取得する者も多い。

なお、本ゼミナールの一部講義は、高等教育の第一人者を講師に招いて開講しており、ゼミナール受講生以外も受講できるよう、SPOD加盟校の教職員にも開放している。今年度は延べ12人が開放講義に参加した。

■次世代リーダー養成ゼミナール

日 程		開催場所	受講者数			参加校数	満足度 (%)
			対面	遠隔	計		
第1回	5月21日(水)～23日(金)	愛媛大学	6		6	5	-
第2回	7月7日(月)～9日(水)	愛媛大学	6		6	5	-
第3回	10月16日(木)～17日(金)	徳島大学	6		6	5	-
第4回(※)	11月19日(水)～21日(金)	愛媛大学	6		6	5	-
第5回	1月22日(木)～23日(金)	高知大学	6		6	5	-

※第4回は、大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）と同時開催

■プロジェクトの紹介（14期生）

プロジェクト名	所属・氏名
若手職員の内部質保証の理解 —自分の業務と内部質保証—	香川大学 企画総務部戦略企画課 課員 福井 雅英
RPAを用いた業務効率化プロジェクト ～会計業務を起点としたDXの推進を目指して～	愛媛大学 教育学生支援部教育企画課教育企画チーム チームリーダー 河内 貴博
生成AIとの関係づくり支援プロジェクト —気軽な活用から、使い方を考え続ける文化へ—	愛媛大学 総務部評価IR課IR企画チーム サブリーダー 黒田 輝紀
大学における教職員のウェルビーイング向上に関する実践 —文化的活動を媒介とした交流の試み—	高知大学 学務部学生支援課就職室就職支援係 主任 山本 詩乃
テクノガール育成支援プロジェクト	高知工科大学 学生支援部学生支援課 主任 中山 晋吾
事務職員における生成AIの理解と利用促進	松山大学 情報センター事務部情報センター課 課員 松野 紘己

■SPOD加盟校の職員に開放した講義

※受講者数はゼミナール生を除く人数

日程	プログラム名	開催場所	受講者数			参加校数
			対面	遠隔	計	
10月16日(木)	第3回 「高等教育政策論」(愛媛大学 清水栄子 氏)	徳島大学	5		5	3
10月16日(木)	第3回 「大学マネジメント論」(近畿大学 竹中喜一 氏)	徳島大学	7		7	3
合計			12	0	12	6

③ SD担当者研修の実施

SPODフォーラム2025内のSD担当者研修として、「初めてでもできるSD研修の企画・運営・評価」を開催し、加盟校内外から10名の参加があった(加盟校内3名、加盟校外7名)。

本講座では、研修の運営・評価の起点となる企画段階に焦点を当て、受講者の意欲や効果を高めるうえで重要となる研修の目的及び到達目標の設定プロセスについて、座学とワークを通して学んだ。ワークでは、業務上の課題を共有するなどの相互交流を行い、研修終了時には、各参加者が自大学で活用可能な研修テーマ・目的・到達目標の案を持ち帰ることを目指した。受講者からは、「SDの意義とミッションの大切さを理解した」「ワークを通じて、研修テーマの設定から研修内容、到達目標の立て方まで、一連の流れを理解することができた」等のコメントがあった。

④ SPOD-SDCの輩出

SPOD-SDCは、職員の能力開発に関する知識・技術を修得していると認定された教職員に付与される。SPODでは、各大学等のSDの自立的運営を目指しており、各加盟校が「SDの義務化」に対応し、自校のSD事業を推進できるよう、SPOD-SDC資格取得者の輩出を積極的に支援している。これまでの資格認定者は41人にのぼり、それぞれが自校及び学外でのSD推進に貢献している。今後も、資格認定者輩出に向けた取組を継続的に実施していく。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおける
スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定に関する申合せ

平成26年11月19日
ネットワークコア運営協議会

(趣旨)

第1条 この申合せは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という。）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、自大学及びSPOD加盟校におけるSDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格の名称)

第2条 資格の名称は、「SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（Staff Development Coordinator）」（以下「SPOD—SDC」という。）とする。

(資格の認定)

第3条 SPOD—SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、SPOD加盟校人事課長又はSD担当課長相当が別紙様式1により推薦する自大学の教職員に対して、SPODが別紙様式2の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、SD専門部会において研修プログラム受講歴及び研修講師歴等を踏まえ審査し、SPODネットワークコア運営協議会が承認した者に授与する。

(資格の有効期間)

第4条 SPOD—SDC資格の有効期間は、認定日から、SPOD事業の運営終了日までとする。

(資格認定・授与原簿)

第5条 SPOD—SDC資格を認定して資格認定証書を授与したとき、及び第7条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式3のSPOD—SDC認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

(資格認定証書の再交付)

第6条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を受けることができるものとする。

(資格の取消し)

第7条 SPOD—SDC資格を認定された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

(事務)

第8条 SPOD—SDC資格認定に関する事務は、SPOD事務局において処理する。

(雑則)

第9条 この申合せに定めるもののほか、SPOD—SDCの認定に関し必要な事項は、SPODネットワークコア運営協議会が別に定める。

附 則

- 1 この申合せは、平成26年11月19日から施行する。
- 2 この申合せの施行の際、現に認定されている者については、第3条に規定する資格認定証書を授与する。

【別 紙】

SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. SPOD—SD（又は自大学におけるSD）講師を務めることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築方法について説明することができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオの有益性を説明することができる。

(4) SPOD運営

コア校のFD・SD担当者等が一堂に会し、教職協働でSPOD事業の実施、運営上の諸課題を検討するネットワークコア運営協議会を6回開催し、うち1回は、愛媛大学において対面で開催した。本協議会では、SPOD事業の進捗状況の報告の他、事業経費の執行、次年度の事業計画及び事業経費等についての検討を行っている。また、協議会終了後には、各加盟校への情報提供として、協議会の議事概要や配付資料をSPODホームページに掲載している。

さらに、コア校のFD・SD担当者それぞれで構成する専門部会を開催し（FD専門部会：計6回、SD専門部会：計6回）、SPOD将来構想に基づく取組、各事業の進捗状況や成果及び今後の課題等について意見交換を行った。また、徳島大学では、昨年度に引き続き徳島県内加盟校会議（T-SPOD会議）を開催して情報共有や意見交換を行った。

1月には、FD・SD分科会をオンラインで実施し、各校のFD・SD担当者から広く意見を伺う機会とした。加盟校からのご意見等を今後のSPOD事業に活かし、事業継続に繋げていく。

令和7年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会議開催日程

令和7年 4月28日（月）	第1回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
5月28日（水）	第2回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
7月23日（水）	第3回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
10月31日（金）	第4回SPODネットワークコア運営協議会（会場：愛媛大学） ※オンライン併用
11月18日（火）	第1回T-SPOD会議（オンライン会議）
12月17日（水）	第5回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
令和8年 1月28日（水）	令和7年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD・SD分科会 （オンライン会議）
2月4日（木）	第6回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
3月中旬～下旬	令和7年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会（書面審議）

6. 令和7年度各加盟校の取組報告

目次

徳島県

徳島大学（国）	47
鳴門教育大学（国）	48
四国大学・四国大学短期大学部（私）	49
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部（私）	50
徳島工業短期大学（私）	51
阿南工業高等専門学校（国）	52

香川県

香川大学（国）	53
香川県立保健医療大学（公）	54
高松大学・高松短期大学（私）	55
香川短期大学（私）	56
せとうち観光専門職短期大学（私）	57
香川高等専門学校（国）	58

愛媛県

愛媛大学（国）	59
愛媛県立医療技術大学（公）	60
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部（私）	61
松山大学・松山短期大学（私）	63
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学（私）	64
岡山理科大学獣医学部（私）	65
人間環境大学松山看護学部、総合心理学部 及び総合環境学部（私）	66
今治明德短期大学（私）	67
新居浜工業高等専門学校（国）	68
弓削商船高等専門学校（国）	69

高知県

高知大学（国）	70
高知県立大学（公）	71
高知工科大学（公）	72
高知学園大学・高知学園短期大学（私）	73
高知リハビリテーション専門職大学（私）	74
高知健康科学大学（私）	75
高知工業高等専門学校（国）	76

令和7年度 FD/S D活動の取組報告

学校名： 徳島大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

これまで研究科ごとに定めていたTA、RA制度について、学部学生を対象としたSA及び高度な教育活動に携わることができるTF制度も含め、全学的に指導補助者(SA、TA、RA、TF)制度を整備し、統一した研修を実施することとした。また、「シラバス作成ガイドライン」の改訂を行った。

【FD/S Dの取組事例ハイライト】

<FD>大学組織全体、学部等の教育プログラム、教員個人の能力開発の3つのレベルにおけるFDを実施している。今年度は、これまでの取組に加え、上述の「指導補助者研修」や、教育活動に対する個別相談に対応する「教育開発コンサルティング」を新たに「全学FD推進プログラム実施計画」に組み込んで実施した。また、SPOD共通事業である「SPODフォーラム2025」を8年ぶりに本学で開催した。SPODフォーラムとして初めての取組である、①参加者企画枠の設置、②一部プログラムのハイブリッド形式での実施、③テーマに関連するプログラムを体系的に配置した「学生理解・学生支援ゾーン」の設置を行った。

<SD>本学独自の取組である「徳島大学新任教職員研修会」、「心のサポーター養成講座」、「英会話研修」等を実施するとともに、SPOD事業、人事院や文部科学省等が主催する各種SD研修に職員を派遣した。

【成果及び波及効果】

<FD>高知大学と香川大学との3大学共催で実施している「授業について考えるランチセミナー」では、今年度さらに参加者数が増加し、参加者数が100名を超えるテーマもあった。オンラインで気軽に参加できることで、SPOD加盟校全体に広がっていることが分かる。SPODフォーラムでは、①参加者企画枠では、5枠の募集に対して7件の応募があり、実施後の企画代表者アンケートでは、満足度や気づきがあったとの設問に対して、全員が肯定的な回答をした。②ハイブリッド形式で実施したことにより参加者数が増加し、特に、出張や業務の都合で席を外すことが難しい事務職員からのオンライン参加が多く見られた。



<SD>SD研修において、本学職員が他機関職員との交流により刺激を受け、業務に対する姿勢や職場における立ち振る舞い等に変化が見られる。また、「心のサポーター養成講座」では、メンタルヘルス不調に悩む教職員が増加傾向にある中で、周囲のサポートのあり方や受入側の対応等について学ぶことができ、今後の職場環境の向上に期待できる。

【FD/S Dに関わる次年度の課題】

<FD>「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」は、本年度2年ぶりに開催することができたが、参加者は2名であり、両名とも高等教育研究センターの教員であったことから、依然として参加者数は少なく、学内の各学部への広がりが見られない。ティーチング・ポートフォリオの意義を広く広報していくことは課題である。今年度から新しく設置されたTF制度について、TFとして教育活動に従事した大学院生は1名であった。TF制度やTFが担える業務、TFとして教育活動に従事する価値などを学内に広げていくことが課題である。

<SD>社会情勢の変化が多岐にわたる中、職員のニーズに合った研修の検討が必要である。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 鳴門教育大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

<FD> 「学修者本位の教育」の構築を優先課題とし、学生調査や授業評価の結果を基にした抜本的な教育改革を推進している。特に、学生が主体的に課題解決に取り組む姿勢を養うための授業設計の見直しに注力している。

<SD> 本学の人事方針に基づき効果的・効率的な事務組織運営を目指し、SD研修を計画、実施している。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

<FD> 全教員を対象とした「FD workshop 2025」では、専門領域を横断した議論が展開された。

AL (アクティブ・ラーニング)：模擬授業やロールプレイ、ケーススタディの実践例を共有し、学生が受け身にならない授業形態を追求した。

ICT・生成AIの活用：Moodleを用いた双方向の対話や、AIによる練習メニューの提案、振り返りテキストの分析など、学びを深めるための「手段」としてのICT活用が報告された。

<SD> SPOD内講師派遣プログラム「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」を若手・中堅職員対象として、大学職員としてこれから成長していくにあたり、各職員の業務力を高めることを目的として実施した。

また合理的配慮に関する教職員研修会を「心のサポーター養成講座」と「多様性を「認める」から「ある」へ」をテーマに開催し、ストレスへの対処、多様性についてそれぞれ知見を得ることを目的として開催した。

【成果及び波及効果】

<FD> ALを単なる「実施率」などの数値で測るのではなく、授業特性に応じた「学びの深度」を重視すべきとの共通認識が得られた。また、予習・復習の内容を具体化・見える化することで、学生の学修時間を効果的に確保する仕組みが学内に浸透し始めている。

<SD> SPOD内講師派遣プログラムでは、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、正しい判断のためには「情報収集」「全体を俯瞰」「比較」することが大切であり、次に、「判断することを明確にする」、判断の優先順位をつけることが大切であることを学び、今後の業務力向上に繋がっていった。合理的配慮に関する教職員研修では、今日的課題について研修により知見・対処を得ることにより、今後の業務遂行を円滑に実施することの下地を有することができた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

<FD> 今後の課題は、生成AI利用におけるデータプライバシーや倫理的問題への対応、および学生の批判的思考力の育成。また、学生への丁寧なフィードバックを維持しつつ、教員の業務負荷を軽減し持続可能な指導体制をいかに構築するかが重要な焦点となる。

<SD> 予算減少等厳しい環境により、職員1人あたりの業務量が増加する中、職員各自の業務遂行力及び大学職員の資質向上が求められる。継続的に各職員の能力向上に努め、事務組織力を効率よく高めていきたい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 四国大学・四国大学短期大学部

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

大学経営をめぐる課題が高度化、複雑化する中で、教職員の職能開発と研修制度はますます重要性を増している。そのため本学では、教職員の自己啓発のために、また高度な専門知識・技術を習得するために、集合研修に加えてeラーニングシステムを活用したオンライン研修を実施するなど、多様な研修機会の提供を行っている。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD/SD 共通】

- ・SPOD 講師派遣事業「大学の授業と著作権」
- ・FD/SD 合同研修会 ※新任研修を兼ねる
「TINKERABLES ~Unlock Your Potential~」

【FD の取り組み】

- ・各学部・学科専攻ごとに FD 活動を実施
- ・前期・後期学生による授業改善アンケート
- ・授業公開

【SD の取り組み】

- ・新規採用者職員研修
- ・職階別大学職員育成研修（若手・中堅・管理職）eラーニング
- ・部門別大学職員育成研修 eラーニング
- ・目的別研修（人権教育・ハラスメント・ICT リテラシー・心のサポーター）
- ・専門別研修（キャリア相談）

【成果及び波及効果】

e-learningにより、職員それぞれが、隙間時間を見つけて研修を受けることができ、且つ自分自身の不足を補う研修を受けることができたため、効率的であった。

対面で開催する研修会ではグループワークをとおして活発な討議が行われるほか、学部・学科を問わず教職員の交流の場ともなっている。また、教員が他学部・他学科の授業を参観することで、自身の授業に取り入れたい内容など、授業運営の見通しにつながっている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

e-learning は受講率が高まるが、理解度や実務への定着が測れないため、確認テストを組み合わせられればなお良い。

教職員ともに、業務が年々多忙化しており、研修会の日程調整が課題となっているため、研修プログラムや開催方法、開催時期などを検討する必要がある。



令和7年度 FD/S D活動の取組報告

学校名： 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

【FD】 本学の教育活動の質の向上に向け、授業アンケート・学修状況アンケート（在学生対象）・大学生生活満足度アンケート（卒業生対象）のアンケート集計結果や全学FD研修会・研究授業などを通して授業改善に取り組んだ。

【SD】 SD活動推進に関する基本方針・実施計画を踏まえ、高等教育機関としての教育機能の質的向上を支援するため、計画的に教職員の能力開発等の研修を実施した。

【FD/S Dの取組事例ハイライト】

【FD/SD 共通】

- ・ 新任・昇任教員対象の研修会（4月）

【FDの取り組み】

- ・ 全学FD研修会（9月）
「大学の授業設計を極める」を Google クラウドで個別研修（約60分）

【SDの取り組み】

- ・ 防火・防災研修会、ハラスメント研修会（8月）
- ・ 全学防災訓練（11月）
- ・ 全学SD研修会（1月）
「地域と連携した日本文理大学の取り組み
ー学生が育ち地域に必要とされる地方私立大学を目指してー」
- ・ 人権・ハラスメント講演会（2月予定）
「大学のハラスメント防止対策とケーススタディ」



全学SD研修会



防火・防災研修会

【成果及び波及効果】

【FD】 全学授業アンケートの学生の回答率は65%を超え、定着してきた。さらに、教員コメントをフィードバックすることにより、学生の授業への取り組み意識や教員の授業改善への意識も高まってきている。また、FD研究部会の取組成果は活動報告として本学のHPで公開している。

【SD】 大学における教育・研究活動の質的向上を図るためには、教職員に必要な知識・技能習得のための研修機会を設けることが重要であることから、SPODの職能別研修会に職員を積極的に派遣しており、その中で、問題意識を持ち主体的に業務に取り組む者も出ている。

【FD/S Dに関わる次年度の課題】

【FD】 研修会や研究授業への参加について、次年度も研修会の参加率を向上するための方策を考えていきたい。また、授業改善への研修意識も高まってきており、視聴形式で参加できる効率的で有意義な研修を考えていきたい。

【SD】 今後とも将来的な展望を踏まえ、計画的な人材育成に取り組む必要がある。そのために、個別の研修プログラムを充実させるとともに、研修方法や開催時期などを検討し全学で研修を行う体制を一層充実させていく。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：徳島工業短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

留学生の増加や大学の地域開放の効果をより高めるため、教職員の倫理観を育成する取り組みに力を入れた。また、本年も引き続き、ICT を活用した教育改善と事務改善の高度化に取り組んでいる。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

FD/SD 講師派遣事業「大学教職員の倫理 学生との関係を省察する」

四国大学共同 FD/SD 研修として実施した。

倫理教育「自動車整備士に必要な倫理観を育成する教育を考える」をテーマに、教職員それぞれの立場から授業改善や学生とのコミュニケーション改善につなげるレポートを作成した。

SPOD フォーラム（徳島大学）、その他各種研修会に参加した。学内グループウェアによる情報提供、参加推進・指示等により、参加を促し、結果一人が複数の研修講座を受講することに繋がった。



【成果及び波及効果】

本学の SPOD フォーラム参加率は教職員共に高く、県外開催時に於いても複数の公用車に乗り合わせるなどで参加している。FD/SD 講師派遣事業への関心も高く、教職員全員によるテーマ選択のアンケートでは、その時々の課題解決に即したテーマとして「倫理」に関する内容となった。

教職員の言動が学生に与える影響、多様な学生への配慮、学校の社会に対する倫理的責任についての理解が深まったと考えている。自動車整備士に絞った倫理観は現在進行中であり、今後のカリキュラムに反映したいと考えている。今回だけでなく、今後も継続して行っていくテーマの一つでもある。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

グループウェアを活用し、各種研修（オンライン含む）への積極的な参加を促すと共に、情報共有と学内展開を進めたい。また大学事務・学生支援・授業における DX 推進はまだ途上にあり、今後も継続的に支援体制を整えていく必要がある。

また、「発達障害や学習障害を持つ学生への対応として、FD／SD 研修はどうあるべきか」という課題もかかえており、障害を正しく理解をすることで、「公平＝同じ対応」ではなく「平等＝必要に応じた調整」という考え方を共有したいと考えている。障がい者に優しい授業は、誰にとっても学びやすい授業であるという方向性で研修を行いたいと考えている。

他には、「留学生も含めた学生支援の在り方」や「論理的でわかりやすい説明方法」などの研修希望も多くあり、随時内容の検討を進めていきたいと考えている。

令和7年度 FD/SD活動の取組報告

学校名： 阿南工業高等専門学校

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本校では、高専機構本部や外部機関が主催する各種研修会、ならびに SPOD 講師派遣プログラムを活用し、FD/SD 活動を推進している。また、オンラインで受講できる環境整備を進め、教職員個々のニーズに応じた FD/SD 活動の実施を促進している。

【FD/SDの取組事例ハイライト】

【FD/SD 共通】4月に新任教職員研修を行った。9月に SPOD 講師派遣プログラムを活用して、教職員研修会（テーマ：発達障がいのある学生に配慮した授業づくり、講師：愛媛大学 三浦 優生氏）を開催した。加えて、オンデマンド教育システムによる英会話研修及び AI・データサイエンス研修を継続して実施した。1月～2月には「教育現場におけるセクシュアルハラスメント～つもりでは済まされない責任～」をテーマとしたセクシュアルハラスメント防止研修会を開催した。

【FD】授業改善の取り組みとして教員相互の授業参観や、シラバス到達目標達成度アンケート、学修（学習）達成アンケート等を実施している。【SD】高専機構本部、人事院、SPOD、外部機関が主催する研修等に職員が参加し、キャリア段階に応じた能力向上を図っている。

【成果及び波及効果】

新任教職員研修により、本校教職員として必要な基礎的知識の習得が進んだ。

教職員研修会では、増加傾向にある発達障がいのある学生への理解を深めるとともに、個々の特性に応じた授業づくりの工夫について学ぶことができた。

また、シラバス到達目標達成度アンケートでは、学生自身の理解度やシラバスに沿った授業運営の状況を把握し、学修（学習）達成アンケートでは教員の熱意、学生の学修意欲、予習・復習状況等を把握することで、授業改善に役立っている。

【FD/SDに関わる次年度の課題】

研修のためのスケジュール調整が難しいため、引き続き高専機構本部や外部機関が主催する各種研修・オンライン研修の活用が中心となる。今後は、教職員のキャリア段階に応じた資質向上や意識改革をより効果的に進めるため、テーマ別・役職別などの体系的な研修の整備を検討していきたい。



SPOD 講師派遣を活用した研修会



セクシュアルハラスメント防止研修会

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：香川大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

令和7年度は、第4期中期目標・中期計画の4年目にあたり、全学共通教育における新カリキュラムを具体的に展開し、より良い取組を図るためにFD／SDともに多様な研修を実施した。特に、文理横断型の授業づくりに役立つ全学共通教育におけるFDの企画・実施や継続的に推進している「数理・データサイエンス・AIプログラム」に係る各種事業について積極的に内容の充実を図っている。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

FD関係では、大学教育基盤センター能力開発部主催の「新任教員研修会『よりよい授業のためのFDワークショップ』」（対面／SPOD開放）、「FDスキルアップ講座」（同左）に加え、文理横断型の授業づくりに関するFDの研修を実施した。また、SPODコア校との連携・協力に関して、徳島大学・高知大学・本学の3大学共催で企画・実施している令和7年度「授業について考えるランチセミナー」に参画し、「学生が自ら考え主体的に学習するための授業づくり」と題したテーマで全学共通教育における授業づくりの好事例を紹介することでSPOD加盟校に有用な情報を提供できた。

SD関係では、評価者（管理職）研修、フォローアップ研修等の階層別研修に加え、語学研修や事務職員大学院研修等、職員の知識習得及び課題解決能力向上を支援する研修を実施した。事務職員大学院研修においては、博士後期課程への職員派遣制度を改正し、博士後期課程研修生に対する支援策の充実を図った。また、語学研修においては、研修内容を見直し、内容の充実を図った。



【成果及び波及効果】

FD関係では、対面形式の研修に加え、オンライン型やオンデマンド型の研修を配信するなど改善を図った。特に、医学部・創造工学部・農学部の幸町キャンパス以外の教員がオンラインで受講しやすい実施方法を更に取り入れたことで、新任教員をはじめ幅広い教員から各種FDの研修への参加者数の増加が確認できた。今後も受講しやすい環境を整備することで参加者数の増加が見込まれる。

SD関係では、本学創発科学研究科へ職員を派遣することで、教職協働を実践しつつ、指導的役割を果たすことのできる人材の育成に繋がることが期待される。また、海外学術交流協定校へ職員を派遣することで、事務スキルと語学力を兼ね備えた人材の育成に繋がることが期待される。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

FD関係では、引き続き、オンラインで受講可能な研修を企画し、さらに充実に努めたい。また、本学が主催する研修に限らず、SPOD開放プログラムへの研修を視野に入れた多様なFDの研修に係る受講方法について積極的に広報して参りたい。

SD関係では、人材育成上の必要性やニーズに応じた体系的な研修体制を構築し、職員に提供する。また研修参加が特定の職員に偏らないよう、広く職員に研修参加を促すとともに、研修に参加しやすい風土の構築を目指したい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：香川県立保健医療大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

令和7年度のFD/SD活動として、大学教育の授業評価の効果的運用及び学生支援への対応力向上にむけて活動を実施している。そのために授業評価に関しての効率的運用においては、教務学務システムの活用が必須となるが、来年度システムの更新が予定されており、現在導入されているシステムで実施可能な範囲での対応を実施している。また、対応力向上に向けて集合研修やオンライン研修等を活用して展開している。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

大学教育の授業評価においては、回収率アップに対して、ポスター掲示や教員への協力依頼等に加え学生個々へのメール配信を開始し対応した。今後も評価を継続的に実施していく。

学生支援への対応力向上に向けては、FD/SD研修会を開催し、SPODの講師派遣プログラムを活用して、愛媛大学 上月翔太氏による「学生の文章力をいかに高めるかーライティング指導を改善するー」と題して集合研修を実施した。

更にティータイムサークルとして、(仮題)「ICTを活用した授業」について、本学教員の事例提供を実施し、現行システムでのICT活用の講義についてグループワークを開催する予定である。

併せて、ICT研修に関しては、オンライン研修をFD/SD委員が受講し、より本学教員に適正と思われる研修を探索した。

【成果及び波及効果】

授業評価を教務学務システム活用により実施しており、学生及び教職員の業務量の軽減には繋がってきている。しかし、回収率については徐々にアップはしているが、広報活動等を実施しても、まだ低い状況である。

研修会においては、教員の希望の多かった内容について研修を実施することで、日々の教育での課題や問題についての解決に向けての知識を得ることや教員同士の共有が図れてきている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

令和8年度は、新しく更新されるシステムを活用し、授業評価やどの様にPDCAサイクルを回していくかを検討していく必要がある。また大学院教育における教育力向上のための支援についても検討していく必要がある。



令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：高松大学・高松短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

【FD】

「全教員を対象とした研修」、「特にテーマに関係する教員を対象とした研修（参加希望の教職員を含む）」、「教員個々の研修」からなる事業計画を立て実施している。

【SD】

「全教職員を対象とした研修」、「特にテーマに関係する教職員を対象とした研修（参加希望の教職員を含む）」、「キャリア段階別研修」、「職務別能力開発研修」、「自己啓発研修」からなる事業計画を立て実施している。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD】

「メディア授業と生成AIの基礎」をテーマに、全教員を対象に対面で実施した。欠席者は、後日、録画を視聴し、視聴後にアンケートを提出した。

【SD】

SPOD内講師派遣プログラムから、「これからの教職協働」をテーマに、全教職員を対象に対面で実施した。欠席者は、後日、録画を視聴し、視聴後にアンケートを提出した。

【成果及び波及効果】

【FD・SD共通】

対面が基本ではあるが、オンラインや欠席者に対しては動画視聴といった方法で研修を実施したため、受講者の希望に応じた実施方法が選択できるようになった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

【FD】

SPODその他の研修会への積極的な参加を促し、教員個々の能力向上に努めるとともに、令和8年度以降のFD活動について、「FD活動推進委員会」で検討していく。

【SD】

SPODその他の研修会への積極的な参加を促し、教職員のSD活動への理解を深めるとともに、令和8年度以降のSD活動について、「SD活動推進委員会」で検討していく。

令和7年度FD／SD活動の取組報告書

学校名：香川短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

教育運営、大学経営改革の課題が山積する中、教職員に求められるスキルも高度化されている。本学は、今までに①アセスメント・ポリシーの実質的運用の推進、②授業改善、③カリキュラム改革、④IRの課題理解と実質運用、⑤ティーチング・ポートフォリオ作成、⑥コンプライアンス等の意識改革、⑦学生の大学づくり参画、⑧生成AIの活用、⑨教職協働、⑩短期大学の方向転換等に取り組んでいるが、今年度より新たに「県内短期大学共同のFD／SD研修」、「防災」を加えて短期大学改革を実現するための研修を着実に実施している。



【FD・SDの取組事例ハイライト】

令和7年度の学内FD／SD研修は右下の表のとおりであり、参加率の平均は概ね80%程度となっている。

高等教育の大学間連携が求められる中、今年度、県内の短期大学と共同でFD／SD研修会を本学主導で開催した。



【成果及び波及効果】

「認証評価の観点」については最新の情報を知ることができ、令和8年度に受審する認証評価のポイントを学ぶことができた。また「職員に必要な能力と専門性」の研修においては、教員と事務職員が高等教育の環境変化、大学改革に伴う総務、教務、学生支援、社会連携、研究、補助金等について相互に連携協力して大学運営に取り組むことの重要性を学内で共有できた。

学修成果の評価・改善については、定例研修としてその手法や内容に関して充実が図られている。

危機管理については、宇多津町と連携した研修により、東南海巨大地震等の防災意識を高めることができた。FD／SD活動を通じて、個々が意識して目標達成に取り組む姿が見られた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

今年度の研修内容を踏まえて、さらに

充実を図ることは当然であるが、地域社会が求める人材にマッチングできる学生の育成のための具体的な方法についての研修が継続課題である。一方、教職学協働、働き方改革を含め、誰もが活躍できる短期大学を目指すための意識改革も課題である。

また、「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える私立大学等戦略的経営改革支援」に採択されていることから教育研究、大学運営・経営に関して更なる方向転換を図ることも課題である。次年度に向けては教員、事務職員、学生の意識改革が大きく図れるように取り組む考えである。

令和7年度 香川短期大学FD／SD研修		
研修名	開催時期	目的・内容
FD/SD	8月26日	「第4期認証評価の観点(重点項目・改編点)」 講師:織田潤二 先生
FD/SD	9月2日	「高等教育機関の職員に必要な能力と専門性」 SPOD 講師:吉田一恵 先生(人間環境大学)
FD/SD	9月29日	香川短大／高松短大／せとうち観光専門職短大 「令和7年度共同FD・SD研修会」 講師:織田／大久保 先生(香川短大) 佃 先生(高松短大) 原田／濱島 先生(せとうち観光専門職短大)
FD/SD	10月28日	「香川短期大学教職員防災研修」 車谷豊文 先生(宇多津町危機管理課)
FD/SD	1月27日	「教務グループ主催による学修成果の評価・改善」に関する研修
FD/SD	3月10日	「各学科・専攻課程にてアセスメント・ポリシーに基づいた学修成果の評価・改善案」等の報告
FD/SD	3月24日	「研究倫理について」の研修 講師:加野芳正 学長

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：せとうち観光専門職短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

開学から4年が経過した本学では、これまでの教育課題の検討を踏まえ、専門職大学にふさわしい教育改革を目指し、学長を中心とした「教育研究開発会議」にて議論をしている。「教育研究開発会議」では、シラバスの検討、授業や演習・臨地実務実習等の改善指導、授業評価の実施と取りまとめ等を行うことで、教育内容や方法の改善、教員の資質向上を図ってきた。

「観光を教材として学ぶ」ことを通し、「人生を自力で切り拓く能力を鍛える」「考える」を学ぶ教育をベースに人間力（思考力・実践力・協働力）を身に付ける」「土台教育・職業教育で学んだ知識やスキルなどを臨地実務実習で活用し、人間力を磨く」という3つのコンセプトから、『考える』を学ぶ「共に創る」を本学のスローガンとして、現在、カリキュラム改革案を構想中である。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○FD/SD 活動：SPOD 内講師派遣プログラムを活用

タイトル：高等教育論入門

実施日：令和7年10月1日（水）

講師：真鍋亮先生（愛媛大学 教育・学生支援機構）

受講人数：教職員18名（教員11名、職員7名）



○FD 活動：授業評価アンケートの実施、学内研究会を活用した教員相互の研究・実践報告、オープンキャンパス等の模擬授業等を活用した教員相互での授業改善

【成果及び波及効果】

○SPOD 内講師派遣プログラムで提供される多くのプログラムのうち「高等教育論入門」を選択したのは、本学において現在進行中であるカリキュラム改革の議論をより実りあるものとするためであった。このプログラムでは、「そもそも大学とは何か」という根本的なことから令和7年2月に出された「知の総和」答申についてまで、幅広く高等教育のありかたについて学ぶことができた。

カリキュラム改革を急務とする本学の教職員にとってこのプログラムはまさにタイムリーなものであり、受講後、会議における議論もより具体的なものとなった。なにより、教職員一人ひとりにとってカリキュラム改革が「我がこと」として感じられるようになっている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

○SPOD 講師派遣プログラムは、全ての教職員に対して積極的な参加を促す。また、「授業について考えるランチセミナー」など、オンラインで参加できるものを積極的に周知・案内する。

○「SPOD フォーラム 2026」などを利用して、教職員は各自の問題意識にもとづいた自己研鑽に励む。

○「きわめて小規模な大学」という特徴を生かし、教員間での教育研究面での交流を盛んにする。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：香川高等専門学校

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本校においても教育改革の推進を目的として、全教職員を対象としたFD・SD研修を継続して実施した。また、高専機構本部が主催する各種研修への参加に加え、本校教員が講師となるFD研修を毎月開催し、教育・運営に関する実践事例の共有を通して、教員全体のスキル向上を図った。

SD研修については、高専機構や人事院主催の研修の活用に加えて、SPOD内講師派遣プログラムを活用した研修を実施し、職員の専門性向上に努めた。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○FD・SD研修：全教職員を対象に、経営改善・ブランディング・広報をテーマとした研修を実施し、組織運営に必要な知識の習得を図った。

○FD研修：本校教職員が講師となり、毎月FD研修を開催した。教育・運営に関わる幅広いテーマで成果報告を行い、意見交換や質疑応答も活発に行われるなど、大変有意義な研修機会となった。

○教育実践研究会：本校の各種取組や特色ある教育に関する実践報告が行われた。報告に対して活発な質問や意見が寄せられ、教育改善に資する有意義な研究会となった。

○SPOD内研修：本校が開催校となり加盟校へ開放し、SPOD内講師派遣プログラムの講師を招いて、「職員のためのわかりやすい説明入門」をテーマとした研修を実施した。「わかりにくさはなぜ生じるのか」「わかりやすい説明に必要な要素は何か」について、講義とワークを通じて理解を深めることができた。



(SPOD内研修の様子)

【成果及び波及効果】

○FD・SD研修：本校の状況について学外からの専門的な視点を取り入れた研修の実施により、教職員は必要な知識習得や資質の向上を図ることができた。また、教育・運営の重要性を学び直す機会となり、意識改革にもつながった。

○SPOD内研修：「わかりやすい説明」の基本的な考え方や構成方法を学ぶことで、説明スキルの向上につながった。研修内容を業務に活かし、文書・口頭での説明の明確化や、学生・教員への案内の改善に取り組むきっかけとなった。加盟校への開放により他機関からも参加があり、情報交換ができた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

○引き続き、組織の円滑な運営に資する効果的な研修の企画に努め、教職員の資質向上・知識習得・意識改革を図る。

○教職員の成長を支えるため、人材育成に資する研修等への積極的な参加を計画的に推進する。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：愛媛大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

大学に入学する学生の多様化に伴う学習支援に対するニーズの拡大に対応するため、今年度、教育・学生支援機構内に学習支援ユニットを設置した。今年度は、学習支援をテーマに教育コーディネーター研修会を全4回実施するとともに、学習支援ユニットと各学部、研究科との意見交換を行った。学生の学習に関するニーズや、学習支援の課題の共有、中途退学予防の取組の事例紹介を通じて理解を深めるとともに、本学が目指す学習支援体制や学習支援方針を策定し、本学における学習支援の充実及び学内における連携強化に向けた取組を推進した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD／SD共通】本学教育・学生支援機構教育企画室は、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名称：教職員能力開発拠点）に認定されており今年度から第4期（～令和11年度）を迎えた。第4期は全国の高等教育機関を対象に行動変容や組織開発を目指した教職員能力開発の実現に取り組んでいる。今年度は、「アカデミック・アドバイザー養成講座」の新規を含む7講座を開催し、全国の高等教育機関から計259名の参加があった。また、YouTubeチャンネルにFD／SDに関する動画を新たに31本掲載するとともに、教育企画室が運営する「ぼっちゃんメーリングリスト」を通じて、教職員能力開発（FD／SD）に関する情報を配信している。

【FD】「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を対面およびフレキシブル方式で開催した。フレキシブル方式では、約1か月間の受講期間を設け、オンライン（非同期型）のオリエンテーションや講師との個別面談を通じて柔軟な受講を可能とし、本方式は受講者から好評を得た。

【SD】大学職員に関心のある学生を対象に「プレSD 大学職員のリアル～大学で働くという選択肢～」を実施した。一部を対面・オンラインのハイブリッド形式で実施し、現職職員による講義や企画からプレゼンまでを一貫して行う実践型のワークを通じて、大学職員の業務理解と企画力等の育成を図った。今後、他のSPODコア校で実施し、四国地域での展開を目指す。



令和7年12月プレSD(会場:愛媛大学)

【成果及び波及効果】

高等教育の最新動向を反映した講座を新たに実施することができ、学内にとどまらず全国から多くの教職員が参加した。また、令和8年2月末時点におけるYouTubeチャンネルの登録者数は727名、ぼっちゃんメーリングリストの登録者数は851名となり、情報発信の基盤整備が進むとともに、情報発信力の向上が図られた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

次年度のSPODフォーラム2026は、本学の城北キャンパスでの対面開催を予定している。従来の大学教職員に加え、民間企業関係者や学生など参加対象者の拡大を図り、多様な立場からの学びと交流を促進する。また、受付業務や配布資料等のデジタル化を進め、運営の効率化と参加者の利便性向上を実現できるフォーラムとなるよう検討、準備を進めていく。

令和7年度 FD/S D活動の取組報告

学校名： 愛媛県立医療技術大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

令和7年度は、第3期中期計画の4年目であり、目標達成に向けてのFD/S D活動は、確実に進捗している。

例年どおり、研修会の企画運営に加えて、学期ごとの授業評価アンケートや年度ごとのD P評価アンケートの実施、結果の分析等を実施した。

【FD/S Dの取組事例ハイライト】

1. 新任教員を対象に、新任教員研修を実施した。(4月、9月、12月)
2. SPOD内講師派遣プログラム事業として、愛媛大学 仲道 雅輝先生による「組織の力を生み出す観察力養成講座」研修を、全教職員を対象に実施した。(7月)
3. 「科研費獲得のための研修会」を、全教職員を対象に実施した。(7月)
4. 本学独自で、愛媛大学 満田 憲昭先生による「学術論文等の即時オープンアクセスについて」研修を、全教職員を対象に実施した。(7月)
5. 本学独自で、学生-教職員間ハラスメント防止研修を、全教職員を対象に実施した。(12月)
6. 学期ごとに、科目別授業評価アンケートを実施し、結果の分析等を行った(前期・後期)
7. D P評価アンケートを実施し、結果の分析等を行った。(令和6年度末・令和7年度初め)



【成果及び波及効果】

今年度の取組のうち研修関連では、テーマが偏ることなく、多様な研修内容(人材育成、業務改善、授業改善・教授法、危機管理等)を提供することができ、教職員にとって必要な知識の習得やスキル向上の良い機会となった。

科目別授業評価アンケートやD P評価アンケートについては、結果を確認し分析することで、授業改善の手助けとなった。

また、これらの活動状況について、FD委員会が中心となり、FD活動報告書を作成した。

【FD/S Dに関わる次年度の課題】

We bを利用した授業評価アンケートの回答率を向上させることや、FD/S D活動について、学外開催のものについても積極的に参加し、活用することが今後の課題である。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 聖カタリナ大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

<FD>前期・後期の授業公開期間では教員間で授業見学を行い、参考になった点や改善点について科目担当教員にフィードバックを行った。また、学生が回答する授業改善アンケートを前期・後期に実施し、科目担当教員はその結果を踏まえた改善案を作成した。これらについてより効果的な活用ができるよう、FD委員会において「取組事例ハイライト」に記載する改善に取り組んだ。

<SD>SD委員会が中心となり、大学教職員として主体的に考え行動するための意識づくりに取り組んだ。また、学外SPOD研修にも積極的な参加を呼びかけ、若手から中堅職員を中心に能力向上と人材育成に努めた。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

<FD>例年実施している活動の効果を上げるよう、授業改善アンケートについては学科別の結果を閲覧できるようにしたほか、学生の回答率を上げるため確実に授業内で回答時間を設けることを再確認した。授業公開では全ての専任教員が必ず参観することを徹底し、初めて大学教員として採用された教員の授業はFD委員を中心に参観を行い、積極的なアドバイスや提案を行うこととした。

ほか、令和7年度SPOD内講師派遣プログラムでは、「学生の自立を促す学生支援の実践とコツ」をテーマとした研修を全教員に対して実施した。

<SD>今年度はSD研修会において「性的マイノリティ理解促進セミナー」を実施した。性的指向やジェンダーアイデンティティなど性の多様性に関する正しい知識を学び、学生対応にも活かせるようロールプレイングを行いながら理解を深めることができた。

【成果及び波及効果】

<FD>学生が回答する授業改善アンケートの結果を大学ホームページ上で公表するほか、教員が詳細なデータにアクセスできるように見直しを行ったことで、アンケート結果の効果的な活用と成果を見込んでいる。

<SD>SD委員会での活動を学内ネットワークによる情報発信や、年度末に作成する活動報告書等で学内全体に周知している。また、SD研修会の動画配信によるアーカイブ視聴を可能とすることで、教職員の参加率向上を促した。本学が抱える課題改善や学生サービス向上につながる学内研修会の実施やSD研修会への参加により、教職員の意識が高まり、教育活動の改善に繋げることができた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

<FD>次年度については、今年度FD委員会で決定したことが実現できるよう取り組むほか、学生のタブレット必携が検討される中、教員が生成AIの効果的な活用を含めた効果の高い授業手法を獲得できる場を設けて学生に還元していきたい。

<SD>今年度と同様に、SD委員会が中心となり、教職員の能力向上や組織の活性化につながるような研修を継続して実施し、魅力ある大学づくりに努める。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 聖カタリナ大学短期大学部

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

<FD>本学では、教育研究活動の一環として、学生が自らの学修成果を可視化できるように「学修ポートフォリオ」を重視し、2年間の学業において学期ごとの目標を定めるように指導している。また、学生への修学指導規程の適切な運用に努めている。クラス担任は、学期の始めと終りに個別面談を実施し目標の達成を共有するとともに、学生の保護者面談含む履修指導を丁寧に実施している。また、新たな教育課程を導入し、2年間の効果を検証する予定である。ICT活用についても各授業形態に応じた取り組みを継続している。教員の研究活動については、研究費の傾斜配分を実施し、教員の研究活動を支援している。

<SD>SD委員会が中心となり、大学教職員として主体的に考え行動するための意識づくりに取り組んだ。また、学外SPOD研修にも積極的な参加を呼びかけ、若手から中堅職員を中心に能力向上と人材育成に努めた。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

<FD>今年度は、「学生の自立を促す学生支援の実践とコツ」について研修会を実施し、短期大学の教員は全員参加した。教員は授業内や日常的な学生指導において、学生の自主的な学習や課外活動を促すような支援を行っているが、個別支援に今回の研修を活用したい。

<SD>今年度はSD研修会において「性的マイノリティ理解促進セミナー」を実施した。性的指向やジェンダーアイデンティティなど性の多様性に関する正しい知識を学び、学生対応にも活かせるようロールプレイングを行いながら理解を深めることができた。

【成果及び波及効果】

<FD>本学は併設する4年制大学と合同のFD活動を実施している。学外SPOD研修への積極的な参加・発表や学外講師によるFD研修会の全員参加が定着している。また、年間2回の授業公開、授業改善アンケートの実施、研究活動報告書の提出など、大学全体のFD活動によって個々の教員の教育力が向上している。

<SD>SD委員会での活動を学内ネットワークによる情報発信や、年度末に作成する活動報告書等で学内全体に周知している。また、SD研修会の動画配信によるアーカイブ視聴を可能とすることで、教職員の参加率向上を促した。本学が抱える課題改善や学生サービス向上につながる学内研修会の実施やSD研修会への参加により、教職員の意識が高まり、教育活動の改善に繋げることができた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

<FD>次年度は、本年度以上に組織的な活動を継続していく。公開授業の活用として新任教員の支援を検討したい。

<SD>今年度と同様に、SD委員会が中心となり、教職員の能力向上や組織の活性化につながるような研修を継続して実施し、魅力ある大学づくりに努める。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：松山大学・松山短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

(FD)

松山大学長期ビジョン（2024-2033）、第1期中期計画（2024-2028）に基づき、各部門で取組を推進し、学修意欲を刺激する仕組みづくりや主体的な学修を促し学生が自身の成長を実感できる教育の推進を目指した。

(SD)

SD活動については、事務職員が積極的に教育改革等へ参画できるよう、大学の運営に必要な知識及び技能全般を身に付けるため、学校法人松山大学スタッフ・ディベロップメント委員会が立案した研修計画に基づき、職員全体の能力及び資質の向上を目指す研修を実施した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

(FD)

全学的な研修会として、教育の質やPDCAサイクル修得に関する講演会を実施したほか、各学部学科・研究科においては、授業評価アンケート結果を授業やカリキュラムの改善、教育の質の向上、オープンキャンパスの検証等のほか、学外講師を招いた安全保障の研修会が実施された。

(SD)

全教職員対象の研修については「松山大学が直面している現実と大学が目指すミライ」「松山大学の対応事例から考える特性のある学生への関わり方」「ハラスメントの防止について」をテーマとした研修を計3回実施した。また、マネジメント研修については「部下育成」をテーマとした研修を計2回実施した。

【成果及び波及効果】

(FD)

自己点検・評価と大学認証評価受審に向けた体制づくりが始動し、2回実施した全体FDは、関係者が教育の質の保証やプロジェクト管理に向けた共通認識を持つための機会となった。また、各学部学科・研究科の研修は、共通の課題と独自の課題に取組み、一部の学部では、他学部等の参加を可とする取組みも見られた。

実施状況が中心であるが、2023年度に遡ってオフィシャルサイトに情報を掲載し、取組みを継続的に公表することとした。

(SD)

SDにおいては、本学の現状を入試データや文部科学省の資料により客観的に把握し、今後の大学運営の基本方針を共有したほか、特性のある学生への関わり方、ハラスメント防止など大学職員として必要な知識を習得し、資質の向上に繋がった。また、マネジメント研修では、部下育成のための取組み方や課題を参加した管理職で共有することができた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

(FD)

授業評価アンケートや学生調査の分析結果がより教育改善に活用され易い仕組みを構築し、FDが活発に行われるように後押しする。また、教学マネジメントと内部質保証の実質化に向けた取り組みをさらに進める。

(SD)

FDとして実施する研修内容と重複しないよう所管部署間で情報共有を行い、次年度のSD研修を立案する。また、SD研修への教育職員の参加率を上げるために、今後も研修の実施方法や内容、参加を促すアプローチなど、様々な面で工夫を凝らしながら企画していく。

以上

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の令和7年度における主なFD/SD活動は、講師派遣プログラムを利用した研修会、学内講師による学園創立記念教職員研修会、学外講師によるFD/SD研修会の実施、職員対象のSD研修会及び「学生による授業改善のためのアンケート」をはじめとしたFD関連アンケートの実施であった。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

- ・第1回：7月3日（木）
「学生の主体性を促す学習支援」蝶 慎一 氏（香川大学 大学教育基盤センター 准教授）
- ・第2回：9月16日（火）
「キリスト教主義女子高等教育を巡る〈問題群〉」上島 一高 氏（本学宗教主事）
- ・第3回：12月18日（木）
「シラバス作成方法について」岩槻 ひなの 氏（日本システム技術株式会社）
- ・第4回：1月29日（木）
「ハラスメント対策と危機管理」熊本 園子 氏（メンタルサポート K's HOUSE）

<SD>

- ・事務職員研修会
第1回：前学期：8月8日（金）後学期：12月26日（金）： グループワークの実施

【成果及び波及効果】

今年度第1回の研修会は、講師派遣プログラムとして蝶慎一氏による「学生の主体性を促す学習支援」を開催し、授業運営の数々の工夫について学んだ。9月には学園創立記念教職員研修会として、上島一高氏による「キリスト教主義女子高等教育を巡る〈問題群〉」の講話があり、本学の建学の精神について理解を深める機会となった。第3回の研修会は、システム変更に伴うシラバス作成手順の研修として、岩槻ひなの氏から「シラバス作成方法について」の説明会があった。第4回研修会は、熊本園子氏を迎えた、「ハラスメント対策と危機管理」である。さまざまなハラスメントについて、個人のみならず管理運営側にもリスクマネジメントを行う必要性が強く求められていることを学んだ。

なお、年度内に本学ホームページにて今年度実施した研修について公表予定である。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

継続している案件である「学生による授業改善のためのアンケート」については、Web入力以降、回答率が低くなり、その向上に向けた取り組みが必要である。そのため、次年度は学生への告知方法や設問項目の見直し、実施方法の改善などに努めたい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 岡山理科大学獣医学部

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本学部においてはハラスメントに関する関心が高く、又学生の学習態度を危惧する声も多く聞かれたことから、ハラスメント対策及び学生の自主性の向上に重点を置いたFD／SD活動を実施した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

① 獣医学部独自のハラスメント研修会の実施

大学全体においてもハラスメント研修会が実施されるが、それとは別に獣医学部独自にハラスメント研修会を2回実施した。具体的には、第1回では本学におけるハラスメントに関するルールについて学ぶことにより、ハラスメントをしないために認識する事項及びハラスメントが発生したときに望まれる行動を学ぶ研修を行った。併せて新たに制定された「岡山理科大学における学生の性の多様性に関する対応ガイドライン」の内容を把握することにより、教職員に求められる行動を理解することを目的とした。第2回では、ハラスメントに関する具体的な事例の検討を通して、ハラスメントの判断基準を学ぶ研修を行った。

② SPOD 講師派遣プログラム「学生の自立を促す学生支援の実践とコツ」の実施

本学部は設立してからまだ10年未満であること、又コロナ禍による大幅な活動制限があったことから、学生による自主的な活動が不十分であるという問題がある。そこでSPOD講師派遣プログラムを利用し、学生の自主的な活動をいかに継続させるか、主体性に乏しい学生を大学イベント等に巻き込む方法、学生の主体性と大学の管理とのバランス等についての研修を実施していただいた。

③ 獣医学部定例FD・SD研修会

昨年度に引き続き、今年度も新任教員が過去、現在、及び将来の研究及び教育活動等について発表を行い、これに対して教員間において質疑応答を行うことにより、新任教員と既存教員との相互理解を深める研修会を実施した。

【成果及び波及効果】

ハラスメント研修により、本学におけるハラスメントに関する制度についての教職員の理解が深まった。またハラスメント自体に対する教職員の理解が深まった。SPOD講師派遣プログラムにより学生支援における課題や方法について教職員間において共有することができ、これにより各教職員の学生支援の取組みに活かされている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

ハラスメント研修は来年度以降も継続して実施する予定である。新たな課題としては授業における生成AIの活用方法が問題となっているので、この課題についての研修を実施する予定である。

令和7年度 FD/S D活動の取組報告

学校名：人間環境大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

愛媛地区では、令和6年度までの2学部3学科（松山看護学部・総合心理学部）に加え、令和7年度新設された総合環境学部（フィールド自然学科・環境情報学科）をあわせた2キャンパス・3学部5学科体制で合同研修を実施した。職階別研修、専門分野研修など SPOD 研修を最大限活用し、教職員への受講を促した。また、全学 SD 研修会を、SPOD・SDC、愛媛大学能力開発拠点 SDC を取得している本学職員が講師となり、オンラインで実施した。

【FD/S Dの取組事例ハイライト】

1. 全学 SD 研修会の実施：6学部10学科の全教職員を対象とした SD 研修会「教職員のためのクレーム対応の基礎」（松山エリア担当副学長・吉田一恵講師：SPOD・SDC、愛媛大学能力開発拠点 SDC）を6月27日オンラインで実施した。（当日参加できなかった教職員へも録画視聴研修を実施。）
2. 講師派遣プログラム：松山地区2キャンパス（3学部5学科）合同研修会として、9月1日に FD・SD 研修会「大学教職員の倫理」（愛媛大学・上月翔太講師）を実施した。
3. 事務職員合同 SD 活動：愛媛地区2キャンパスの職員が SPOD フォーラム（対面2名、オンライン5名）及び各プログラム：大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（新任職員5名、レベルⅠ3名、レベルⅡ1名、レベルⅢ1名）、を受講した。
4. 全科目の授業評価アンケートを前後期とも実施し、結果をふまえて各教員から学生へフィードバックを行い、その後の授業改善に努めた。さらに、定期試験時にコマシラバスアンケートを前後期ともに実施し、次年度のコマシラバス改善に活用している。
5. 松山看護学部では、教員相互の授業ピアレビューを前後期ともに実施し、全教員が参加した。



【成果及び波及効果】

1. では、クレームを危機管理対応としてとらえ、クレームを最小限にとどめるため本的事项や組織対応について学んだ。2. では倫理的な教育実践のため、教職員が行動すること意識すべきこと学び、倫理に配慮できる環境づくりを目指していくことについて講義・グループワークを通して理解を深めた。3. では令和7年度に新学部が設置されたことに伴い、中途採用の新採職員が増加した。異業種からの転職者が多く、大学職員としての専門的な知識やスキル向上が求められることから、積極的に SPOD プログラムを活用した。4. 5. については、個々の科目や領域での授業改善に繋がった。

【FD/S Dに関わる次年度の課題】

令和8年度は、松山道後キャンパスでの大学院の開設に伴い、教職員の業務範囲が増加し、より一層、教職員間の連携が必要となることから、教職員各々が本学独自の「教職協働」の実践を目指す。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 今治明德短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本学のFD／SD活動は、年度始めの新任教職員研修、ピアレビュー、学生授業評価アンケート、SPODフォーラム等の研修への参加、SPOD内講師派遣プログラム、卒業時アンケート等を定例的に実施している。令和7年度のFD／SD活動の目標として前年度から引き続き①学生を中心としたFD／SD活動の実施、②PDCAサイクルを回すFD／SDの取り組みの2つを掲げ、小さなことから改善する意識をもち、計画・実施・振り返りを行うこととしている。

令和7年度の新規事項としては、徳島大学の教員による保育・幼児教育分野FD企画ワークショップ試行会を本学で行った。この試行会が8月のSPODフォーラムでの企画や他学の教員と連携する機会につながっている。

昨年度からの改善点としては、卒業時アンケート（満足度調査）の回収率を上げるために実施時期の見直しを行い、これまでの3月実施から2月実施に前倒しすることとした。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

- ・新任教職員研修会：令和7年4月2日実施 参加者 教員3名。
- ・SPOD内講師派遣プログラム：令和7年7月31日実施 「事例から考えるハラスメント」をテーマに愛媛大学の高木佳代子先生にご講義いただいた。参加教職員数は27名（参加率73%）。
- ・ピアレビュー：令和7年5月12日～7月25日実施 教職員の主体性を重視し、学生のためのよりよい教育を組織的に向上させることを目標にした。本学の現状を踏まえ、無理のない範囲で行った。本学教員5名、延べ人数14人。
- ・保育・幼児教育分野FD企画ワークショップ試行会：令和7年5月22日実施 徳島大学の塩川奈々美先生がSPODフォーラムで企画するワークショップの試行会を本学にて開催した。塩川先生、徳島文理大学短期大学部の船本孝子先生、本学幼児教育学科教員3名、計5名で実施。プレ試行で改良した内容は8月28日にSPODフォーラムのプログラムとして実施された。（写真は本学でのプレ試行会の成果物。）



【成果及び波及効果】

これまで小規模校としての特色を生かし、教員も職員も共に研修する形で活動を実施している。SPOD内派遣講師プログラムは昨年度より受講者が増えた。また、FD／SD活動については、月に1回開催される職員連絡会において計画、研修案内、実施報告を小まめに行い、教職員全員で共有している。8月に開催されたSPODフォーラムの参加報告は10月の職員連絡会にて行った。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

次年度は、徳島大学教員、徳島文理大学教員及び学生、本学教員及び学生で保育・幼児教育分野FD企画ワークショップ試行会でのFD企画を徳島文理大学で実施する予定である。また、令和7年度自己点検・評価をもとにPDCAを回し、次年度以降の活動につなげていく。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：新居浜工業高等専門学校

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本校主催の研修のほかに、高専機構や人事院主催の研修、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）のFD/SD研修に教職員が参加した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○令和7年10月、国立高専機構学務総括参事の小林 幸人先生を招聘し、カリキュラム改善としてFD研修会を開催した。「①今後教育改善を進めるにあたり、ディプロマポリシー（DP）で目指す教育と現在の状況を『見える化』できる。」「②『見える化』するための具体的な手順、進め方について修得し、ワークを通じて実践できる。」「③DPに基づいた教育改善について、教員間で意見を出し合うことができる。」の3点を目標としてグループワークを行い、見える化を進めることで、授業内容の見直しの必要性や、お互いの授業内容を知り連携することの大切さを改めて認識できた。



(SPOD内講師派遣プログラム研修会)

○令和7年11月、SPOD内講師派遣プログラムにより愛媛大学の上月 翔太先生を招聘し、「学生の文章力をいかに高めるかーライティング指導を改善する」と題し研修会を開催した。生成AI技術の普及のもと、ライティング指導がどのような意義をもち、どのような工夫や配慮が考えられるのかなどについて、ワークを交えながら幅広く講演いただいた。

○令和7年11月、本校のダイバーシティ推進室が内閣府から提供のあったオンライン動画教材を使用し、研修を実施した。研修サイトから研修題目を選択して動画を視聴し、若年層に対して教育・啓発の機会を多く持つ教職員の効果的な予防啓発手法等の向上を図った。

○各主事による新任教員基礎研修を実施した。基本的な業務内容、業務の考え方、諸規則、指導、運営方法を新任教員に講義した。

【成果及び波及効果】

SPOD内講師派遣プログラムは、受講者の満足度が高く、業務への取組が改善できると期待している。今年度は上月 翔太先生による「学生の文章力をいかに高めるかーライティング指導を改善する」を実施し、ライティング能力を向上させるための工夫や考え方、生成AIとどう向き合うべきかについて考える良い機会になったとともに、現在進行中のカリキュラムの見直しにおいて、DPを満足するための科目間の繋がり的重要性について、より浸透した。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

多くの研修で対面での開催になっており、ほぼコロナ禍以前に戻った。一方、オンライン・オンデマンド形式での実施によって、より多くの教職員が参加しやすくなるため、対面・遠隔それぞれの利点を生かした研修を行っていきたい。

本校開催の研修においては、研修による効果を検証し、より効果的な研修を実施できるよう努めていきたい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 弓削商船高等専門学校

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本校では、SPOD内講師派遣プログラムによる全学共通の研修をはじめ本校内で実施する教職員を対象とした学生支援研修などのFD/SD研修が実施された。また、高専機構本部による研修やその他高専各校が主催する公開授業等に参加した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

〈FD／SD〉

○本校主催

- ・SPOD内講師派遣プログラム研修

令和7年7月31日に「授業構成を考えるためのインストラクショナルデザイン」として、愛媛大学准教授 仲道 雅輝氏による研修会を開催し、教員28名、職員14名が参加した。

- ・生成AI活用実践講座

令和7年12月4日に株式会社アクセスネット 大竹 秀幸氏ならびに清水 宏太氏による研修会を開催し、教職員12名が参加した。

○高専機構主催研修

新任教員研修（令和7年5月15日、16日、教員1名）、中堅教員研修（令和7年10月28日、29日、教員1名）および女性教員管理職育成研修（令和8年1月8日、教員1名）に参加した。

○高専間の連携研修

苫小牧高専DXアプリ開発研修会（令和7年9月9日、教員1名）などに参加した。

○この他、高専機構本部、人事院四国事務局、中四国国立大学法人等主催の研修に計25名（重複有り）を派遣することで、教職員の能力向上を図った。

〈FD〉

○学生による授業評価アンケート

○授業資料/答案用紙の電子ファイル化

○CBTの実施 ○卒業生アンケートの実施

○教員相互による授業参観の実施



SPOD研修の様子

【成果及び波及効果】

各研修では事後アンケートを実施しており、これらの結果などから教職員のスキルや意識の向上が見られ、研修の効果があると考えられる。また、本年のSPOD講師派遣研修では、昨年に比べ教員参加が増え、教員の授業改善につながるものと期待できる。また、授業評価アンケートは集計後教員からのコメントを付してHPにて学生に公開している。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

より多くの教職員に各種研修に参画してもらえよう、研修の機会を学内で広く周知して参加を促進するように努めたい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

教育力向上を目的とした新任教員研修プログラムの見直しを行い、プログラムの区分や研修数等を見直すとともに、必修の研修の実施方法や実施時期を修正し、すべての対象となる新任教員が、プログラムを受講しやすくなるように更新した。

また、入学から卒業までの学生の成長を、より分かりやすく可視化できるよう、教学 IR チームに BI ツール tableau を導入し、各部局に提供できる環境を整備した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD】 教学 IR チームに導入した tableau を用いて、それぞれの学部を対象に、各種アセスメントや調査結果から特徴的なものを紹介し、学習成果の確認や教育改善に資するエビデンスを提供する出前 FD を開始した。令和7年度は地域協働学部と農林海洋科学部で実施された。(2027年1月末時点)

【SD】 新任事務職員研修、「共通スキル等向上に向けた Off-JT (入門編)」、「管理職のための勤怠管理・人事評価研修」、「語学研修 (英語)」、「よさこい祭り高知大学演舞場設置プロジェクト」を実施した。

また、今年度新たに「プロジェクト公募・実践トライアル」を実施、講師派遣プログラムとして「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」を実施した。



(令和7年度 高知大学新任事務職員研修の様子)

【成果及び波及効果】

【FD】 上述の出前 FD では、「私どもが日ごろ漠然と感覚的に捉えている学生たちの状態をあらためてデータとして確認でき、今後の方向性を確かなものとする、とてもありがたい機会であった」との意見が得られた。また、今後の部局と教学 IR チームとの協働についても検討することとなった。

【SD】 「共通スキル等向上に向けた Off-JT (入門編)」では、各課で共通して求められる庶務的スキルを学び再確認することで、日々の業務への理解を深めた。また、研修内容に、新たに「大学の成り立ち・沿革」に関する項目を追加し、自大学に関する知識を深めた。

「語学研修」については、新たに forms を利用したクイズ形式の英語問題を入門編として、外国人とのマンツーマンのオンライン英会話を初級編として取り入れ、英語への抵抗感の払拭や、英語学習への継続した学習意欲向上に繋がった。

「プロジェクト公募・実践トライアル」については、多方面の部局等との調整・交流や情報収集の機会を通じて、実践的な能力の向上に繋がった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

【FD】 令和7年度から開始した出前 FD を拡大し、学部と教学 IR チームの数字を媒介とした対話を拡大していくこと、および、更新した新任教員研修プログラムを、円滑かつ効果的に実施していきたいと考えている。

【SD】 「語学研修 (英語)」について、入門編～中級まで受講生が継続受講できるよう順番に実施しているが、今年度は中級実施時期が繁忙期の年度末に近くなったため、全学的に繁忙期となる年度末にかからないよう、全体の実施時期を前倒して調整したい。

令和7年度 FD/S D活動の取組報告

学校名： 高知県立大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

令和5年度からの10年間で高知県立大学が目指す姿として「UoK Vision 2033」を定め、学びの多様性を通じた「自己実現」に向けたキャンパス、「即戦力人材」の育成と輩出及び地域共生社会を支援する実践的な教育・研究の3戦略を柱とし、大学運営・教育改革に引き続き取り組んでいる。

また、中教審答申で示されている「目指す人材像」や「育成する人材像」、「高等教育が目指す姿」等に対応していくための、本学の学修者本位の教育の更なるレベルアップ策を検討し、大学進学者が減少していく中においても「選ばれる大学」となるための教育プログラムの魅力向上につなげるプロジェクトを開始した。

【FD/S Dの取組事例ハイライト】

【FD/SD】

- ・第1回FD/SD研修会(8月):「強い公立大学の在り方を考える～誰も経験したことのない少子化時代への対応～」(高知工科大学主催・本学共催) 参加者:教職員53名
- ・学外研修を随時案内

【FD】

- ・第1回FD研修会(5月):第1回社会的処方研究会「健やかで幸せに老いるために—高知県津野町のニーズ調査を参考にして」 参加者:教職員53名及び学外者4名
- ・第2回FD研修会(11月):全学FD研修「学生対応のための精神障害の理解」 参加者:教職員94名



- 【SD】全学SD研修会(ハラスメント防止研修)(9月):「高等教育機関の特徴を踏まえた職場のウェルビーイング向上」 参加者:教職員108名

【成果及び波及効果】

【FD】本学の重点戦略である地域共生に関する具体的な取り組み事例の報告及び学生支援の課題についての研修を実施。前者は教職員の研究活動への関心を高め、分野横断的な連携や新たな研究の契機となることを期待している。後者は、学生対応に生かすことを目的として実施したが、学生対応だけでなく、自分の周りの人への対応や配慮について考えるよい機会となったとのアンケート回答が多くみられ、想定以上の教育効果があった。

【SD】研修後のアンケート回答から、意識や考え方に変化があった、今後の自身の行動や業務の取り組み方を変えていこうと思ったとの回答率が8割超となり、一定の成果があった。

【FD/S Dに関わる次年度の課題】

【FD】次年度は、「教職員における学生支援・教育支援の課題」に関する研修として、教育支援の課題に関する研修を実施することを検討している。なお、部局により参加率にばらつきがあるため、開催スケジュールの周知を早めに実施する等の工夫をする予定である。

【SD】人権に関する研修を次年度も引き続き実施することを検討している。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知工科大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

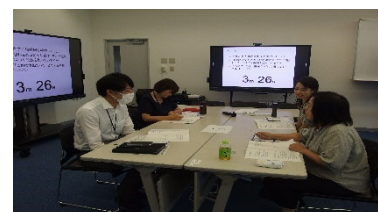
本学では、デジタル社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目的として、令和6年度に「データ&イノベーション学群」を開設した。令和8年4月には、同学群の教育・研究環境整備のため、永国寺キャンパス内に新棟を完成させ供用開始予定であり、教育・研究活動の高度化と充実を図る。データ&イノベーション学群では、講義等で修得した知識を実社会と結び付ける実践的学修を重視し、課題解決型学習（PBL）やインターンシップなど、多様な業種・分野をフィールドとした教育科目の充実に継続的に取り組んでいる。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

FD・SD研修の一環として外部講師を招聘し、「強い公立大学の在り方を考える～誰も経験したことのない少子化時代への対応～」をテーマとした講演を実施した。本講演では、地方公立大学を取り巻く環境の変化や大学教育に対する社会的期待、ならびに教職員に求められる役割について理解を深める機会となった。

また、「超少子化時代における公立大学」をテーマに、地方公立大学を巡る最新の状況や高等教育政策の動向、今後の方向性についての講演が行われ、今後、教職員一人ひとりが、どのような役割や行動を通じて大学運営・教育研究に貢献していくことが求められているのかを考える契機となった。

さらに、SD研修としては、SPOD内講師派遣事業を活用し、若手・中堅職員を対象に、外部講師による「これからの教職協働」をテーマとした研修を実施した。



令和7年8月開催 SPOD内講師派遣プログラム

【成果及び波及効果】

FD・SD研修の実施により、少子化が進行する中での公立大学の役割や、地方公立大学を取り巻く環境の変化、高等教育政策の動向について、教職員の共通理解が深まった。特に、大学教育に対する社会的期待や、教職員一人ひとりに求められる役割・行動を再認識する機会となり、大学運営や教育・研究活動への主体的な参画意識の向上につながった。

また、SD研修では、教職協働の重要性や、若手・中堅職員が今後果たすべき役割について考える契機となり、組織全体の機能強化に資する成果が得られた。

FD・SD研修の研修成果は、教職員懇談会での報告や、研修資料・動画の共有を通じて学内に周知しており、学内全体への波及効果を図っている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

研修で得た知識や気づきを日常の教育・研究活動に定着させる仕組みの構築、研修参加者以外への成果の波及、テーマ多様化と実践的学修の教化を課題とし、次年度はこれらを通じて教職員の主体的参画と大学全体への貢献を促進する。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知学園大学・高知学園短期大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本年度の事業計画の重点目標として教員の研究活動の推進を掲げ、「研究推進部」を組織した。研究インテグリティや研究倫理に関する規程の整備を進めつつ、研究倫理に関する研修会を5回にわたり開催した。また、FD委員会では、質の高い授業の提供を目指し「公開授業」「授業参観」の開催やICTの活用の観点から研修会を企画した。また、教員の授業改善につながることを期待できる「学生授業アンケート」の内容や方針を再検証し、次年度向けに見直しを検討している。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

- 1.研究倫理に関する研修会 【5/20, 5/27, 6/24 (2回)、2/3】 延べ教職員 261名参加
- 2.SPOD研修会 【6/6 大学の授業と著作権 講師 高畑貴志 高知大准教授】 36名参加
- 3.学内FD/SD研修会
【9/16 Microsoft Teamsの活用に関する研修会】 58名参加
【7/8, 1/20 ハラスメント研修会】 7/8：80名参加 1/20：80名参加
- 4.FD/SD活動研究発表会【3/4 予定】

【成果及び波及効果】

上記に示した取り組み事例については、各教職の都合により参加できないこともあるが、全てにおいてより多くの教職員の参加を促しており、次年度以降もこれを継続する。昨今の著しいICT化に伴い、ICTに関する研修会開催への要望に応じてMicrosoft Teams講習会を実施したが、参加した教職員からは継続して同様の内容の講習会の開催を要望する声が届いており、次年度以降もニーズに合わせた内容を実施したい。3/4には「第8回高知学園大学・高知学園短期大学FD・SD活動研究発表会」を開催する。今回は3部構成として、第2部に学生に対して実施した授業評価アンケートに関する意識調査の結果を報告し、現状における授業アンケートの問題点と今後への改善点を全学的に共有する。第3部として生成AIを題材とした研修会も企画し、特に文章作成に関する初心者向けの講習会として実施予定である。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

授業について、授業評価アンケートの抜本的な見直しを実施しており、学生ファーストとして質の高い授業を展開できるようにする。教員主導のアンケートから教員と学生が意見交換を行うことで共同して運用するアンケートの構築を目指し、最終的には本学で開講する授業においては受講する学生の満足感や充足感につながる「共に創る授業」を目指す。

FD/SD活動としては、教員の資質、研究力、授業力の向上を目的とした研修会、特にICT、AIに関する研修に取り組みたい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知リハビリテーション専門職大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

学内専任教員による研究授業における教案シートについて、今年度は記載内容を検討した。対象授業については、今年度より導入された電子教科書及び電子教材等の活用内容や指導方法の検討を行うため、1年次生の授業とし、他の教員が授業を参観した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD/SD 共通】「学修ポートフォリオの活用方法」及び「アカデミックアドバイザー」のテーマにて、学生への教育効果や個人への支援対応について、研修を実施した。例年開催している「ハラスメント防止」に関する研修を、全教職員対象と管理職対象と2回に分けて実施した。

【FD】学内のデジタル教育実態調査アンケートにて、学生から改善要望があったことから、「授業方法の工夫・開発と効果的な実施」をテーマに学内研修会にて現状の把握と今後の授業展開についてディスカッションを行った。デジタル教育の授業実践の取り組みを参考としたワークショップでは、学生への対応方法、授業のできる工夫、今後の改善事項についてまとめ、学生の希望する授業展開に取り組んだ。

【SD】昨年度実施した危機管理の内容をより展開し「リスクマネジメント実践」のテーマで、危機管理に関する実践的な事項について実施した。また、大学の運営に関する法律等必要な知識・技能を身に付ける研修会を実施した。



【成果及び波及効果】

1年次生の授業を研究授業対象としたことにより、デジタル授業実施の参考として役立てることができた。参加教員による授業参観評価アンケート結果は、全教員で共有している。学生の理解を深める授業展開のために、教員同士がディスカッションし、改善事項を共有できたことは、教員個人の学びに繋がり、授業展開を再考する動機づけとなった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

FDについては、資料のデジタル化対応が進むことからオンライン授業、生成AIの活用についての研修を予定している。授業改善の取り組みについては、引き続き学生による授業評価を踏まえ、学修者本位の教育を提供できる教育方法及び内容の開発・工夫を実践する。SDについては、人材育成のための人事評価について研修を設け、個人の能力評価・組織の活性化の促進に繋げていきたい。また、引き続きSPOD研修への積極的な参加を促していきたい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知健康科学大学

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

本年度、本学は開学2年目を迎えた。授業方略に関するテーマ、研究活動に関するテーマでの研修会を多く開催したが、その他にも、本年度は多彩なテーマを取り上げることができた。小規模大学であるため、教職員が一体となり大学を発展させられるよう、意識づけを行えている点が本学の強みとなっている。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○電子教科書 使用方法説明会「電子教科書の効果的な活用法」

出版社の電子教科書担当者を招いて、対面にて具体的な活用法の研修会を開いた。本学においても、教育のIT化・DX化を促進する方向である。動画・視覚的資料の活用により「学生の理解力・学習意欲の向上」が図れるよう、まずは教職員の活用力を高める取り組みを進めている。

○SPOD内講師派遣プログラム「これからの教職協働」

全教職員を対象に対面にて実施した。小規模校であるため、前身の専門学校時代から教職員が「共に力を合わせて働く」こと自体は比較的实践できていた。しかし、惰性で流されている部分や個々の感覚に頼っている部分があった。教職員がともにグループワークに取り組み、改善が必要な点や、一層発展させられる点は何かなど、具体的に整理をし、共通認識をもつことができた。



【写真】 「これからの教職協働」研修中の様子

【成果及び波及効果】

教職員全員参加を基本とする研修会の機会を意識的に何度か設けながら、個々で参加が可能な活動の情報提供も行えた。全体の士気の上昇に徐々に繋がっていると思われる。活動の成果は大学のホームページに掲載予定である。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

開学わずか2年目であるため、FD／SD活動は未だに新たに取り組み始めた活動のうちの一つであるが、徐々に定着の兆しがみられ始めている。教職員が同じ方向を向き、一丸となって大学を発展させられるよう、引き続きFD／SD活動に取り組みたい。

令和7年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知工業高等専門学校

【令和7年度の教育改革に関わる動向】

「教職員の資質向上」、「教育効果の点検」、「アントレプレナーシップ教育の推進」の3テーマを主な活動方針として取り組み、年度当初の目標を達成することができた。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

(1)学内新任教員 FD 研修

初任者10名の教員にメンター教員を配置して、前期・後期と2回に分け、相互授業を実施した。2025年7月29日(火)、11月25日(火)に実施した報告会では、メンター教員からの授業参観の感想やアドバイスを受けて、今後の参考にしたい点や要望に対する意見交換が行なわれた。

(2)SPOD 講師派遣プログラムによる学内 FD 研修会

2025年8月4日(月)に愛媛大学教育・学生支援機構准教授 清水栄子氏による「アカデミックアドバイジング入門」のテーマで、基本的な考え方や個別対応における活用方法について理解を深め、さらに学生対応の向上についての研修を行なった。研修は本校の教員38名、職員8名の計46名が参加した。



(3)教員による相互授業参観

学生にアンケート調査を行ない、評価の高かった教員2名の授業を動画撮影し、全教員を対象に9/8(月)～9/30(火)の期間で閲覧するよう周知を行なった。参観者数の合計は35名であった。

(4)SPOD 研修への参加

SPOD 関係研修には、教員1名、職員6名が集合形式で参加した。

(5)学内 FD/SD 研修会

11/21(木)に第一部「シラバスを考える」第二部「モデルコアカリキュラム(MCC)について」を実施し、学生へシラバスで伝えるべきことが伝えられているか研修を行ない、計51名が参加した。

【成果及び波及効果】

今年度のFD／SD研修も、集合形式での研修を開催し、受講者間の意見交換・情報共有も多く見られ、集合形式の利点もあらためて確認できた。FD/SD研修について、教職員の認知度が広まり、学内での研修も活発に行なわれた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

来年度も3つの方針に基づいて活動していく。課題としては、多忙な教職員に対してFD/SD研修に受講できる体制づくりや環境整備が必要であり、オンラインや録画視聴による参加ができる体制の整備も引き続き希望する。

7. 令和6年度事業評価委員会からの 事業評価とその対応

令和6年度SPOD事業評価委員会委員の評価への対応について

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(以下「SPOD」という。)では、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第11条及び事業評価委員会要項に基づき、SPODの実施する事業に対して評価を行い、その改善に資することを目的として、事業評価委員会を設置している。

令和6年度は、SPOD活動報告書等をもとに、委員2名から各々の立場で意見・評価をいただいた。SPODネットワークコア運営協議会では、事業評価委員会委員のご意見に基づきSPOD事業改善に向けて議論し、以下のとおり対応と今後の方向性の検討を行った。

1) 事務局担当事項

指摘事項 【SPODフォーラムについて】

●台風により開催とりやめとなったのは、残念であるが、できる範囲での企画継続(ポスターセッションのPDF掲示、基調講演の配信)を行なったことは評価できる。研修プログラムを全て中止、返金対応ということに対しては、並行セッションのうち1枠でもオンラインの併用セッションまたはオンデマンド企画があれば、部分開催もできたかもしれないので、検討の余地は残される。

●課題としては、説明にもあったように、危機管理体制の整備が急がれる。中止の判断など開始前、開催中など諸々の事態に備えなければならない。

●前回の指摘事項にあった、事前課題の通知時期の改善については、次回開催の際に改めて検証をお願いしたい。また、講義系セミナー、参加型ワークショップ、参加者交流のそれぞれの機会のバランスや、それぞれのプログラムの質の確保に努めていただきたい。

対応

SPODフォーラム2025では、台風や災害等の発生時における対応方針において中止等の判断開始時期を定め、開催前・開催中の様々な事態に備えた危機管理体制の強化を図った。トップリーダーセミナーおよびシンポジウムにおいては対面とオンラインのハイブリッドでの実施とし、災害等発生時に対面開催が困難となった場合でもオンラインによる実施が可能な体制とした。また、その他プログラムについても、不測の事態に備え、事前に各担当講師と調整を行い、講師が対応可能なプログラムについては、同期型オンラインにより実施できるよう備えていた。

事前課題の通知時期について、今年度は、約3週間前倒しを行い、7月下旬に受講予定者に送付し、参加者が十分な準備期間を確保できるよう改善を行った。

プログラムの構成については、講義形式、ワーク形式、講義とワーク併用形式の三種をバランスよく配置し、形式の偏りを防ぐ工夫を行った。また、今年度は、「学生理解・学生支援ゾーン」として、SPODフォーラム2025のテーマに関連するプログラムを体系的に集中して学ぶことができるプログラム帯を設置し、テーマ性の強化と学びの深化を図った。また、シラバスに関してSPODコア校でプログラム内容や到達目標を点検し、必要に応じて、講師に修正を求めるなど、プログラムの質を確保している。今後も、参加者の動向や評価を踏まえながら、オンラインやオンデマンドの活用を含む柔軟な企画運営の推進に取り組み、研修プログラムの質向上に向けた改善策の検討と実行を継続していく。

指摘事項 【海外事例の調査・比較について】

●海外のコンソーシアムや拠点形成の事例も参考にして、特にミッション策定とその共有、戦略計画と教職員ニーズとのバランスを見定めることは重要だろう。また、海外のみではなく国内で比較できる各種の学協会・コンソーシアム等の収益化や持続化の事例も参考にしながら、地域の企業、または財団等の非営利組織との協賛・協業も無理のない範囲で試行してもよいだろう。

対 応

国内の事例に関しては、一般社団法人大学コンソーシアム沖縄における賛助会員、大学コンソーシアム八王子が実施するSD・FDフォーラムにおける協賛企業募集が見られた。SPODフォーラム2026では、経費面で自立したフォーラム運営の実現を目指した外部資金の獲得策として、協賛企業の募集を検討している。

指摘事項 【国内における連携、交流について】

●海外事例の調査・比較研究についての指摘があり、このことについて調査・研究が進んでいるとの説明があったが、国内においても大学行政管理学会との協働、情報共有、市町や企業との産学官連携を進めることもSPODの発展には欠かせない要素であると考えられ、国内における連携、交流も求めたい。

対 応

現在、愛媛大学が代表校を務める教職員能力開発拠点事業では、他の拠点や地域ネットワークと連携した教職員能力開発を展開しており、間接的にはあるが、拠点事業から得られた知見やネットワークをSPOD事業にも反映できている。今後は、SPODとして他機関等との連携を展開するための方策を検討していきたい。

指摘事項 【SPOD将来構想について】

●将来構想の中で立てられた目標に対して、SPODフォーラムでの参加型学習機会の増加、オンデマンド研修の機会増加、持続可能な組織体制の構築の達成など、マトリックス表のような形での進捗状況管理に取り組んでいただきたい。測定執着にならないように、質的な達成状況の整理にとどめても構わない。

●SPODとしての「ミッション」「ビジョン」「バリュー」を策定し、それらに則った中期計画・目標である「将来構想」があるべきではないかとの指摘にもあったとおり、SPODの「あるべき姿」を、明確にすべきである。

対 応

現在、策定している将来構想の着実な実現に向け、各方針の達成状況を適切に把握・管理し、評価を行うとともに、評価結果を踏まえた改善を継続的に実施できる体制を整備する。そのため、今年度中に、各方針の達成状況を把握するための、指標を整理する。

また、現状の将来構想は、6年間（令和4～9年度）と、期間的には中期目標・中期計画に近いものであるため、令和10年度以降に関しては、SPODが目指すべき方向性としてより長期的（10年～15年）な将来構想と、将来構想を実現するため中期目標・中期計画（6年）を策定することを検討したい。

指摘事項 【事業予算について】

●事業経費について、現状は補助金や会費で賄えている状況ではあるが、無料でのFD出張講座を有料にすることなど、各大学の負担を少し増やすことが、SPODの運営のみならず、より良いプログラム、講師の派遣への投資という観点でも、必要であると考えられる。

対応

事業経費について、年度をまたぐ事業運営の柔軟性を高めるため、予算の繰り越しを可能とする体制を整え今年度から実施している。これにより、長期的な視点での企画・実施に努めていく。また、旅費等の値上げによるプログラム実施に係る経費の負担増も踏まえ、研修参加料の見直しや、フォーラムの開催に当たり、経費面でも加盟校からの負担金に頼らない自立した運営が可能となるよう協賛企業募集等、外部資金獲得策について検討している。

2) FD専門部会担当事項

指摘事項 【プラットフォームサイトについて】

●オンラインリソースの集約を行ったプラットフォームサイトは挑戦的な取り組みとして、高く評価できる。内容の拡充とともに、アクセス数の分析や視聴者からのニーズ収集（利用者アンケート）、メーリングリストを組み合わせて、プラットフォームサイトへ誘導するなどの、利用活性化も合わせて進めていきたい。

対応

プラットフォームサイトについては、SPODウェブサイト「FD・SDコンテンツ」という形で移設し、8月から正式版としての運用を開始した。正式版では、コンテンツの利用条件についてサイトに明記するとともに、Googleアナリティクスを用いて利用状況を把握できるよう整備した。正式版の運用開始に合わせてSPODフォーラム2025では、研修プログラムやポスター発表において、プラットフォームの周知・意見交換を行った。また、各種メーリングリストなども活用し、サイトへの誘導を含む積極的な広報を行っている。正式版の公開後も、プラットフォームサイトに集約されたコンテンツは引き続き拡充されており、利用者にSPODのFD・SDコンテンツへのアクセスを提供する場となっている。

指摘事項 【担当者の連携について】

●連携の意義は相互支援とリソース共有にあるが、それぞれの大学が層を厚くすることを目指す、FD・SD担当者の研修会実施やコミュニティの形成は重要である。たとえば、教育改善を研究にするSoTLコミュニティの中で生まれた良いものを、SPODフォーラムに環流させ、取り込んでいくなど取り組んでいきたい。

対応

SPODフォーラムでは、FD・SD担当者対象のプログラムが設けられ、担当者間の情報共有や交流の場として機能している。また、SPOD-FD調査研究プロジェクトやFD分科会は、担当者間のネットワーク形成やコミュニティづくりを促進する役割を果たしており、当該取組からSPODフォーラムの研修プログラムとして実施というように、環流する流れができていく。

3) SD専門部会担当事項

指摘事項 【次世代リーダー養成ゼミナールのSD担当部署との連携について】

●SDにおける実践コミュニティによるリーダー養成、越境学習には非常に価値があるため、引き続き取り組んでいただきたい。養成されたリーダーが、各機関へ持ち帰ってどのように影響を与えられたかの追跡やフォローアップが、より大切になってくるだろう。

対 応

実践コミュニティによるリーダー養成、越境学習には引き続き取り組んでいく。次世代リーダー養成ゼミナールについて、開催県の大学に在籍している修了生に可能な範囲でプログラムと情報交換会への参加を依頼し、そこで本ゼミナールの講師及びSPOD事務局が修了生や修了生のいる大学のSD担当者との意見交換をすることで、修了生の取組のヒアリングとフォローアップを行っている。令和7年度については10月に徳島大学、1月に高知大学で開催される際に各校のSD担当者と連携して同取組を実施することとする。

また、令和7年6月から次世代リーダー養成ゼミナール修了生向けのメーリングリストの運営を開始し、修了生への研修情報の発信を行っている。修了生による情報共有や意見交換の場としての機能も備えている。

指摘事項 【担当者の連携について】

●連携の意義は相互支援とリソース共有にあるが、それぞれの大学が層を厚くすることを目指す、FD・SD担当者の研修会実施やコミュニティの形成は重要である。たとえば、教育改善を研究にするSoTLコミュニティの中で生まれた良いものを、SPODフォーラムに環流させ、取り込んでいくなど取り組んでいただきたい。

対 応

大学人・社会人としての基礎力養成プログラムは、SPOD事務局と開催校のSD担当者が連携して研修を実施することで、開催校のSD担当者の研修運営の能力向上につながっている。新任職員を対象とするものは、各県のコア校が持ち回りで開催しており、開催校の所属する県内の大学の教職員が主に研修講師を務めることで、各校のSD研修講師の能力向上につながっている。

SPODフォーラム2025では、SD担当者向けに「初めてでもできるSD研修の企画・運営・評価」というプログラムを提供した。ワークの中では参加者間で業務上の課題共有などを行ったことで、SD担当者間の人的ネットワークの形成も図れる内容となった。

SD分科会においては、担当者間で意見交換を行いながら研修内容や教材のブラッシュアップを継続的に進めており、現場のニーズに即した実践的な知見を共有し、各大学の人材育成に資する取り組みを強化している。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)
事業評価委員会要項

平成21年3月6日
ネットワークコア運営協議会決定

(設置)

第1条 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第11条の規定に基づき、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(以下「SPOD」という)に事業評価委員会(以下「評価委員会」という)を置く。

(目的)

第2条 評価委員会は、SPOD実施事業に対して評価を行い、もってSPOD実施事業の改善に資することを目的とする。

(組織及び運営)

- 第3条 評価委員会は、大学等におけるFD/SD活動に造詣が深い者をもって組織する。ただし、委員はSPOD加盟校以外の機関に所属する者とする。
- 2 前項の委員は、ネットワークコア運営協議会(以下、「運営協議会」という。)の議を経て、会長が委嘱する。
 - 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 4 委員会に議長を置き、委員の互選により選出する。議長に事故があるときは議長が予め指名する委員が、その職務を代行する。
 - 5 委員会に関する事務は、代表校において処理する。

(評価方法)

第4条 評価委員会は、運営協議会が作成した実績報告書を基に、評価を行い、その結果を運営協議会に報告する。

(評価項目)

- 第5条 委員会は、次に掲げる事項について評価を行う。
- (1) SPODの組織運営体制に係る事項
 - (2) SPODの行うFD事業に係る事項
 - (3) SPODの行うSD事業に係る事項

(評価の公表)

第6条 SPODは、評価結果をホームページ等を通じて公表する。

附 則

この要項は、平成21年3月6日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

事業評価委員会名簿

任期：令和7年5月（各所属長の承認日） ～ 令和9年3月31日

杉森 公一 北陸大学 高等教育推進センター 教授

鈴木 洋 芝浦工業大学 情報イノベーション部長

小林 慎一 公益財団法人大学コンソーシアム京都 事務局長

（計3名 敬称略）

8. 令和8年度事業計画

令和8年度SPOD事業計画

1. SPOD共通事業

- ・SPODフォーラム
令和8年8月26日(水)～8月28日(金) 開催場所：愛媛大学
「全体テーマ：デジタル技術が変える高等教育の未来」
トップリーダーセミナーを併せて開催
- ・大学教育カンファレンス in 徳島
令和9年1月6日(水) 開催場所：徳島大学
- ・SPOD内講師派遣(加盟校単位 各1回 計27回) 開催場所：各加盟校
原則として、1法人あたり1回とする。
ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。
- ・FD・SDに関する調査研究
- ・情報提供サービス
 - ① 研修プログラムガイド2026の発行(年1回、ホームページ掲載)
 - ② 令和8年度SPOD活動報告書の発行(年1回、ホームページ掲載)
 - ③ SPODホームページの管理・更新
 - ④ SPODメールマガジンの発行
- ・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

- ・FD担当者研修 開催場所：愛媛大学
SPODフォーラム2026において開催
- ・新任教員研修の実施・公開 開催場所：各コア校
- ・ティーチングポートフォリオ作成ワークショップの公開・実施
開催場所：愛媛大学、徳島大学
- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2026に掲載したプログラム
- ・プレFD 開催場所：各コア校
※愛媛大学でのプログラムは、加盟校に開放予定

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）
開催場所：
新任職員 1回 対面（徳島大学）
レベルⅠ 1回 対面（愛媛大学）
レベルⅡ 2回 対面（愛媛大学、高知大学）
レベルⅢ 1回 対面（愛媛大学）
主担当：SPOD事務局 協力校：徳島大学、高知大学、愛媛大学
- ・職務別能力開発研修、SD担当者研修 開催場所：愛媛大学
SPODフォーラム2026において開催
- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年5回）
※うち1回は「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）」をもって充てる
開催場所：香川県、高知県、愛媛県
主担当：SPOD事務局 協力校：各コア校
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2026に掲載したプログラム
- ・プレSD
令和8年4月25日（水） 開催場所：香川大学
令和8年12月予定 開催場所：愛媛大学

4. SPOD運営

- ①総会（年1回、3月中旬予定）
- ②ネットワークコア運営協議会（年6回程度）
※うち1回は高知大学での対面開催を予定
- ③事業評価委員会（年1回、3月上旬予定）
- ④会計監査（年1回、3月上旬予定）
- ⑤その他
 - i) FD/SD分科会
 - ・FD分科会（年1回）
 - ・SD分科会（年1回）
 - ii) SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施
- ⑥外部資金の獲得策の検討

參考資料

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約

〔平成20年10月18日
制 定〕

(名称)

第1条 本会は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education。以下「SPOD」という。）と称する。

(目的)

第2条 SPODは、四国地区の大学（四国地区に一部の学部等を置く大学を含む。）及び高等専門学校（以下「大学等」という。）の連携・協働により、地区内のFD/SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 SPODは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) FD/SDプログラム等の調査研究及び開発
- (2) FD/SDプログラム等の共同実施及び共同利用
- (3) FDe r（ファカルティ・ディベロッパー）及びSDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター）の養成
- (4) 参加大学等間における職員派遣等による交流
- (5) その他SPODの目的を達成するために必要な活動

(加盟校)

第4条 SPODは、別表第1に定める加盟校をもって構成する。

2 四国地区の大学等で、SPODの目的及び事業に賛同するものは、第9条に定める総会の承認を経て、新たにSPOD加盟校となることができる。ただし、四国地区に一部の学部等を置く大学については、当該学部等単位で加盟するものとする。

3 SPODを退会する場合には、総会の承認を得なければならない。ただし、原則として退会する3ヶ月前までに会長に申し出るものとする。

(コア校)

第5条 加盟校のうち、別表第2に定める大学をコア校とする。

2 コア校は、共同でネットワークコアを形成して、第3条各号の事業を企画立案、実施するほか、各県内の加盟校からの意見の集約及び調整等を行う。

(その他の加盟校)

第6条 加盟校のうち、前条のコア校以外の大学等は、ネットワークコアの依頼に応じて、第3条各号の事業に参加する。

(代表校)

第7条 コア校のうち、1校をSPODの代表校とする。

- 2 代表校は、コア校の互選により選出する。
- 3 代表校の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会長、副会長、監事及び企画・実施統括者)

第8条 SPODに、会長（1名）、副会長（3名）、監事（2名）及び企画・実施統括者（1名）を置く。

- 2 会長及び企画・実施統括者は、代表校から選出する。
- 3 副会長は、代表校を除くコア校から選出する。

- 4 監事は、コア校を除く加盟校から選出する。
- 5 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 会長は、SPODを代表する。
- 7 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 8 監事は、会計を監査する。
- 9 企画・実施統括者は、SPOD活動に係る企画及び実施を統括する。
- 10 補欠による会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、前任者の残任期間とする。

(総会)

第9条 SPODに、総会を置く。

- 2 総会は、加盟校をもって構成し、代表校が招集する。
- 3 総会の議長は、会長が務める。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
- 5 加盟校は、当該加盟校を代表して総会に出席する者1名(以下「代表者」という。)を、事前に登録しなければならない。ただし、加盟校に所属する他の者が、事前に登録した者を代理し、又は総会に陪席することを妨げない。
- 6 総会は、次の事項を審議する。
 - (1) SPODの活動方針及び活動報告に関すること。
 - (2) SPODの規約に関すること。ただし、別表を除く。
 - (3) SPODの加盟及び退会に関すること。
 - (4) 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の選出に関すること。
 - (5) SPOD事業契約の役割分担に関すること。
 - (6) SPODの予算及び決算に関すること。
 - (7) その他全加盟校による審議が望ましい事項
- 7 総会は、加盟校の過半数が出席しなければ、開会することができない。ただし、加盟校は、審議事項があらかじめ決定している場合においては、事前の意見提出をもって出席に代えることができる。
- 8 総会の議事は、出席の加盟校の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(ネットワークコア運営協議会)

第10条 SPODに、ネットワークコア運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会は、コア校をもって構成し、原則として月1回開催する。
- 3 協議会の議長は、企画・実施統括者が務める。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
- 5 協議会は、次の事項を協議する。
 - (1) SPODの活動に係る企画立案及び実施に関すること。
 - (2) SPODの行う研究開発、人材育成等に関すること。
 - (3) その他SPODに係る重要な事項
- 6 協議会における協議概要及び配付資料は、原則として加盟校に配付する。

(事業評価委員会)

第11条 SPODに、協議会が作成した実績報告書を基に事業評価を行う事業評価委員会(以下、「委員会」という。)を置く。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第12条 SPODの事務局は、代表校に置き、加盟校の協力を得て運営にあたる。

(会計)

第13条 SPODの事業経費は、加盟校からのネットワーク年会費及びその他収入をもって充てる。

2 監事は年1回の監査を行う。

(その他)

第14条 本規約に定めるもののほか、SPODの運営に関し必要な事項は、総会又は協議会が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成20年10月18日から施行する。

2 この規約の施行後、最初に任命される第7条第1項の代表校の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

3 別表は、新たな加盟校があった場合等に適宜改訂を行うものとする。

附 則

この規約は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年3月29日から施行する。

別表第1 加盟校

徳島大学
鳴門教育大学
香川大学
愛媛大学
高知大学
香川県立保健医療大学
愛媛県立医療技術大学
高知県立大学
高知工科大学
四国大学
徳島文理大学
高松大学
聖カタリナ大学
松山大学
松山東雲女子大学
高知学園大学
高知リハビリテーション専門職大学
四国大学短期大学部
徳島工業短期大学
徳島文理大学短期大学部
香川短期大学
高松短期大学
今治明德短期大学
聖カタリナ大学短期大学部
松山東雲短期大学
松山短期大学
高知学園短期大学
せとうち観光専門職短期大学
岡山理科大学獣医学部
人間環境大学松山看護学部、総合心理学部及び総合環境学部
高知健康科学大学
阿南工業高等専門学校
香川高等専門学校
新居浜工業高等専門学校
弓削商船高等専門学校
高知工業高等専門学校

別表第2 コア校

徳島大学
香川大学
愛媛大学
高知大学

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿

任 期 : 令和7年4月1日～令和9年3月31日

(令和7年4月1日現在)

会 長	仁科弘重	愛媛大学長
副 会 長	河村保彦	徳島大学長
副 会 長	上田夏生	香川大学長
副 会 長	受田浩之	高知大学長
監 事	松重和美	四国大学・四国大学短期大学部 学長
監 事	内田誠	弓削商船高等専門学校長
企画・実施統括者	中井俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構 教授

令和7年度
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
活動報告書

令和8年3月 発行

発行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局
(愛媛大学教育学生支援部教育企画課)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL 089-927-9154
E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp
ホームページ <https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>



SPOD